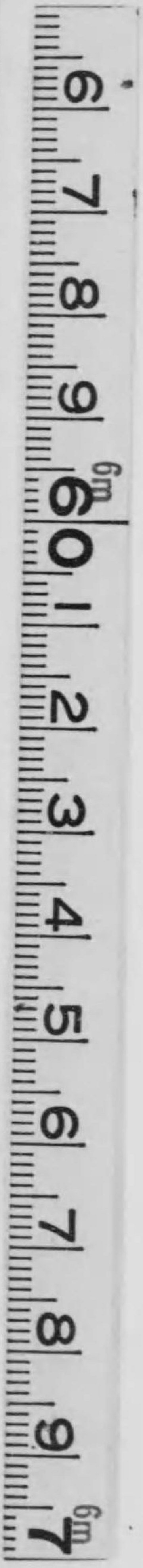


31
637



始



PL 3 V 5

31

637

THE
MARINE ALMA

1923

海事年鑑

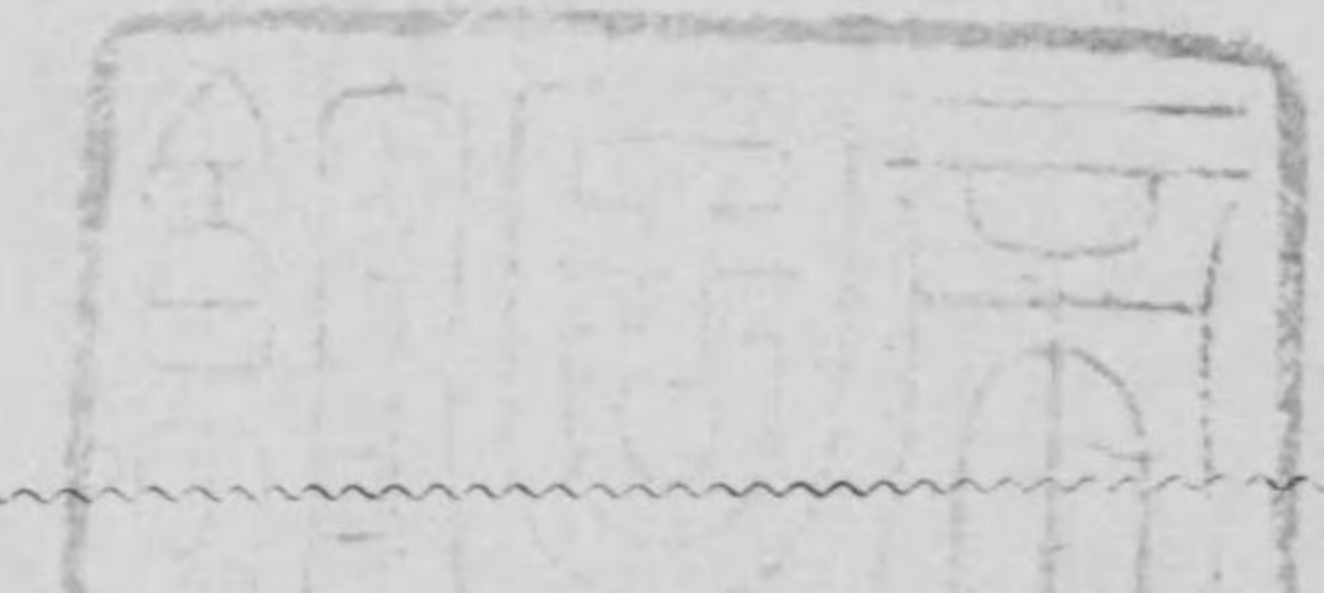


海事彙報社

發行

31
637

31-637



THE MARINE ALMANAC

海 事 年 鑑

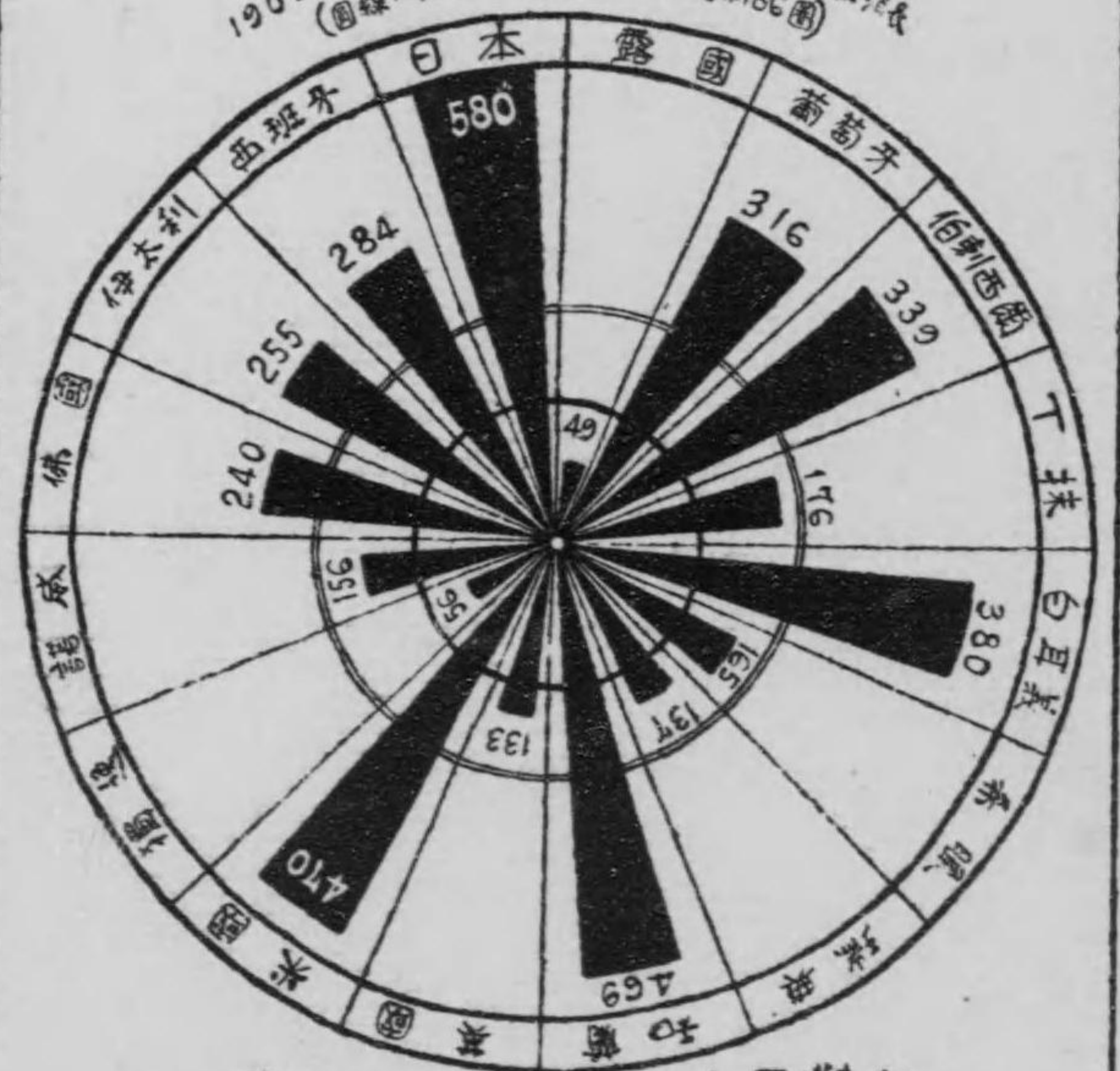
大正二十年版

海 事 彙 報 社 發 行

大正
12.7.17
中交

昔之國運海

1903年之100噸以上之船隻之噸數之表
 (圖中100表示圖 二重內線一世界186國)

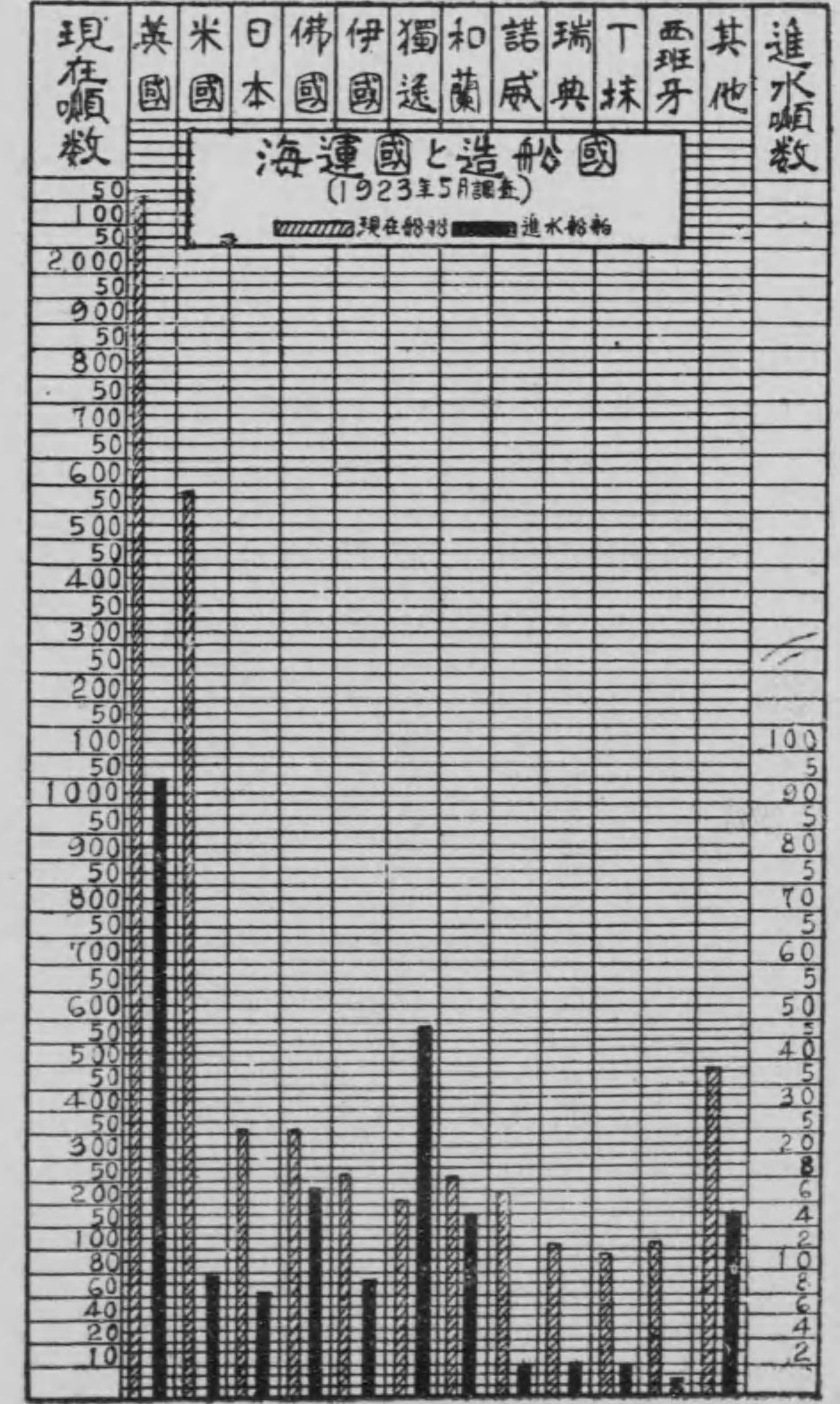
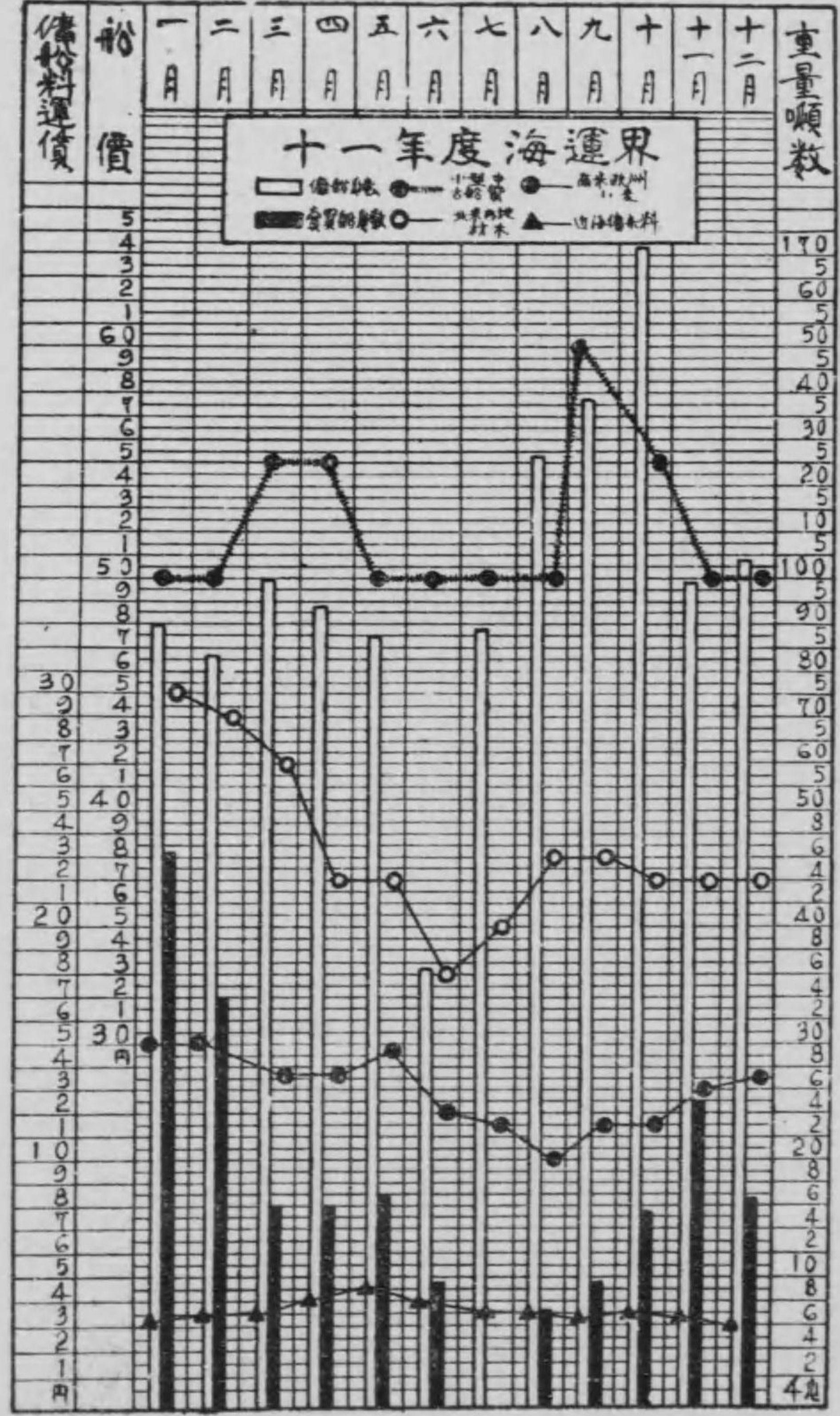


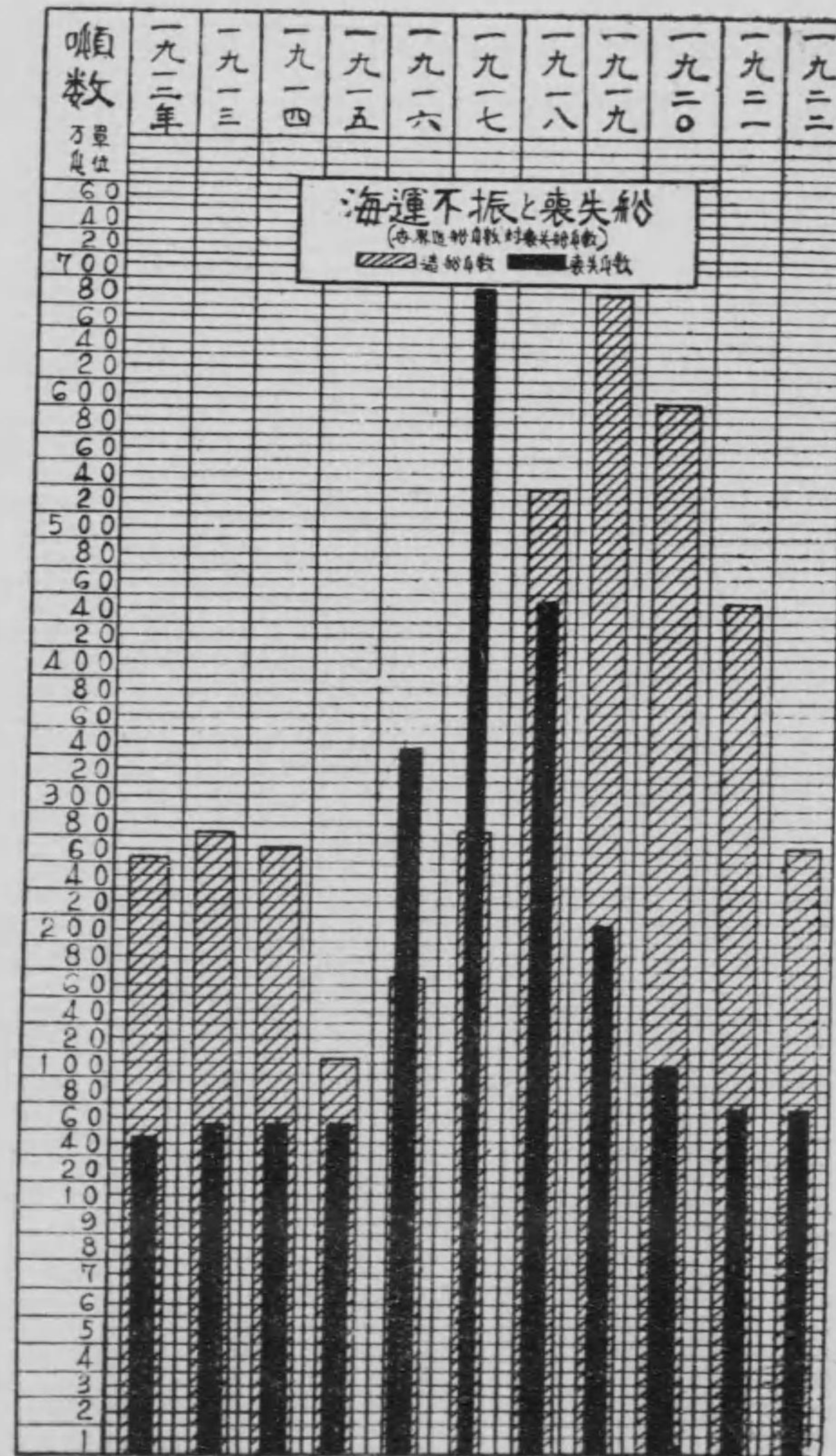
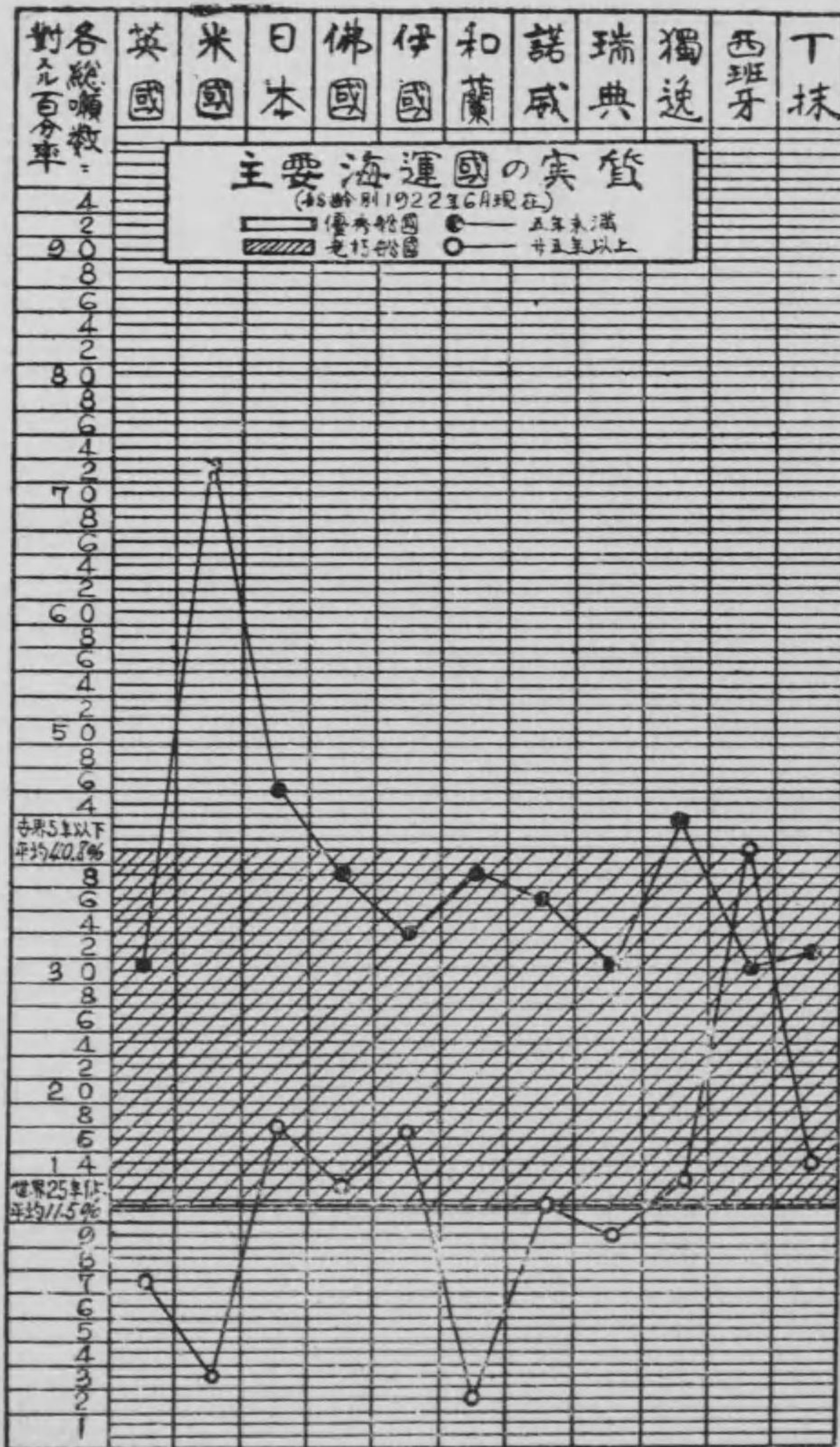
世界汽船增加趨勢

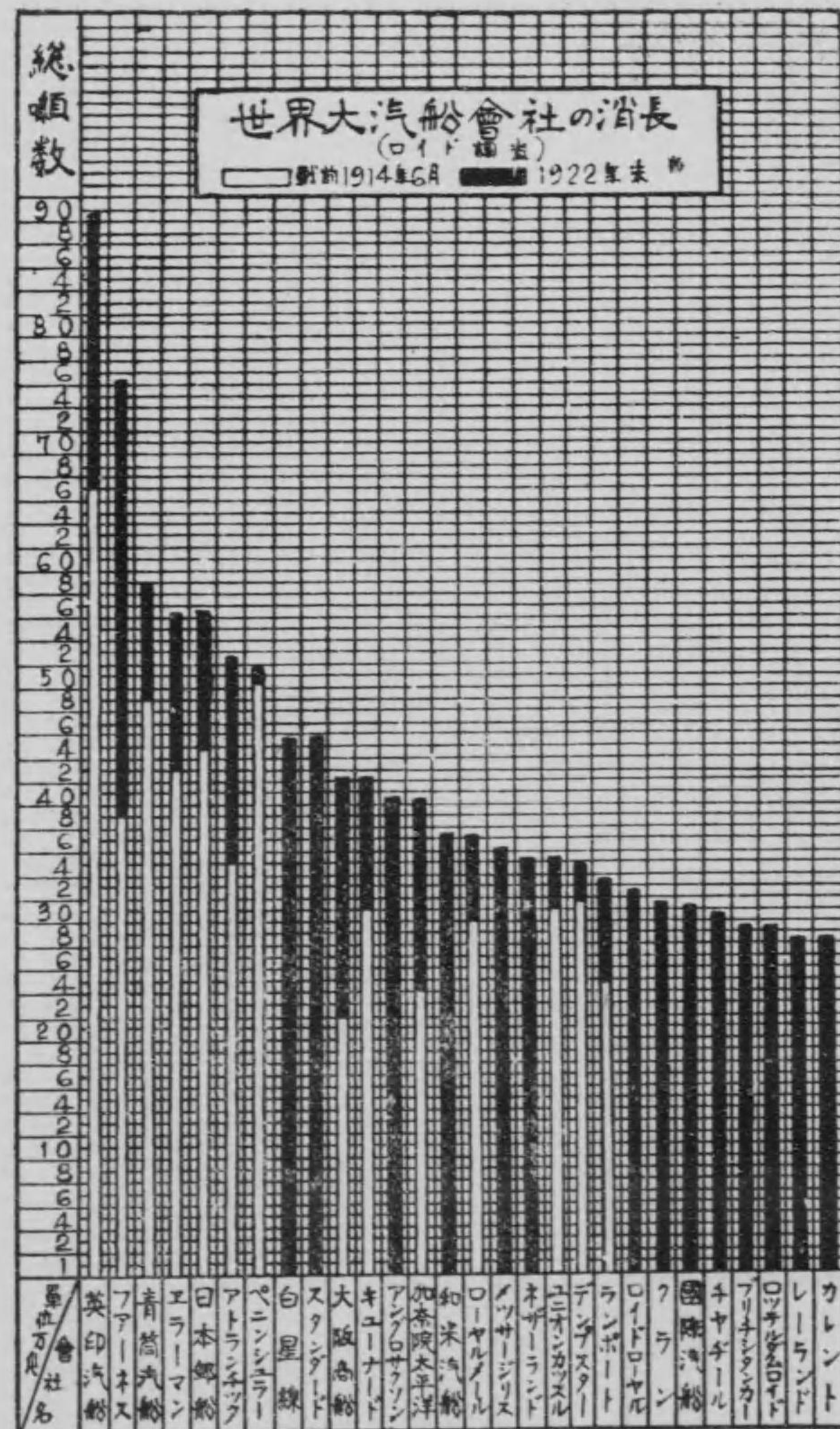
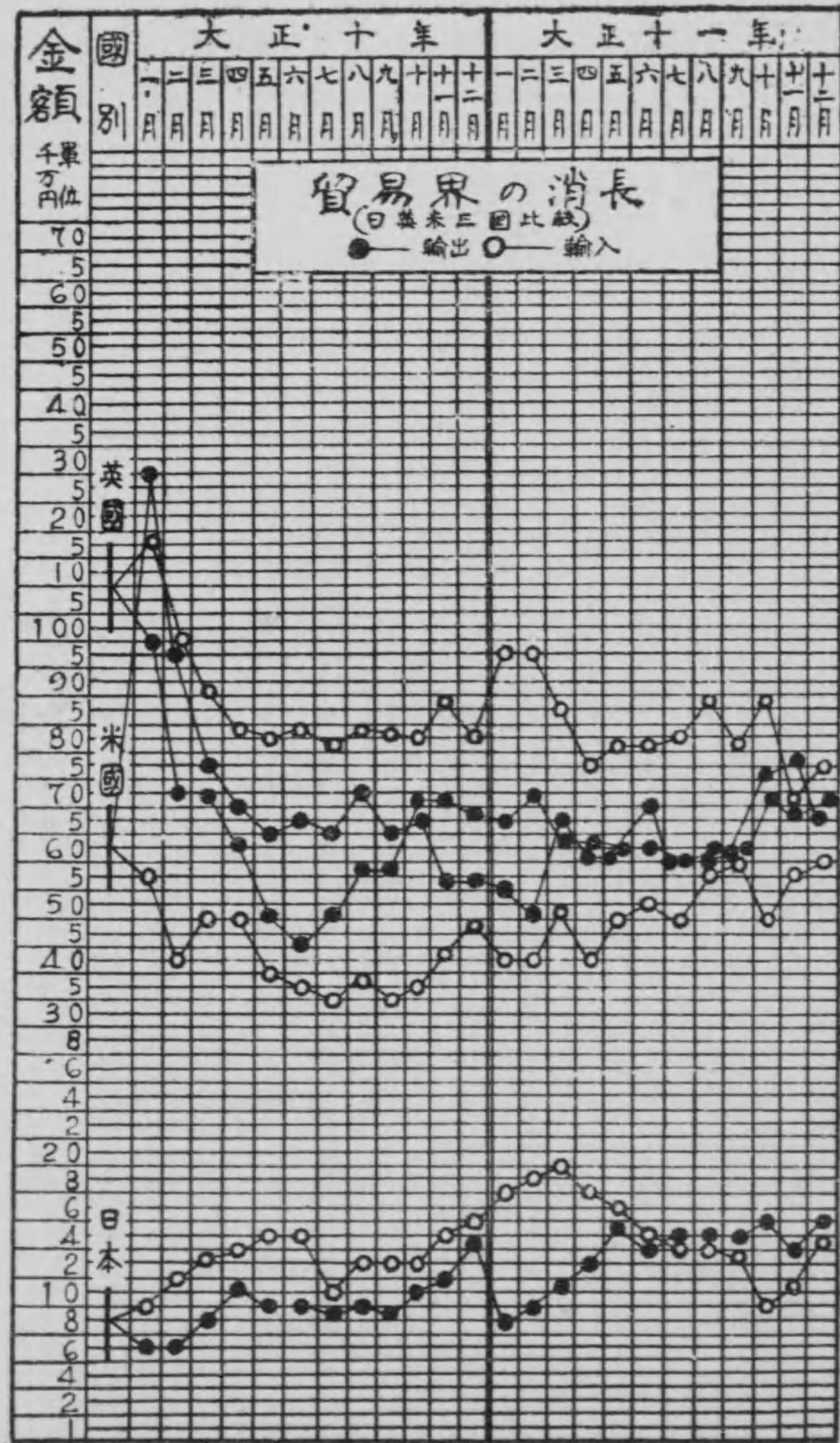


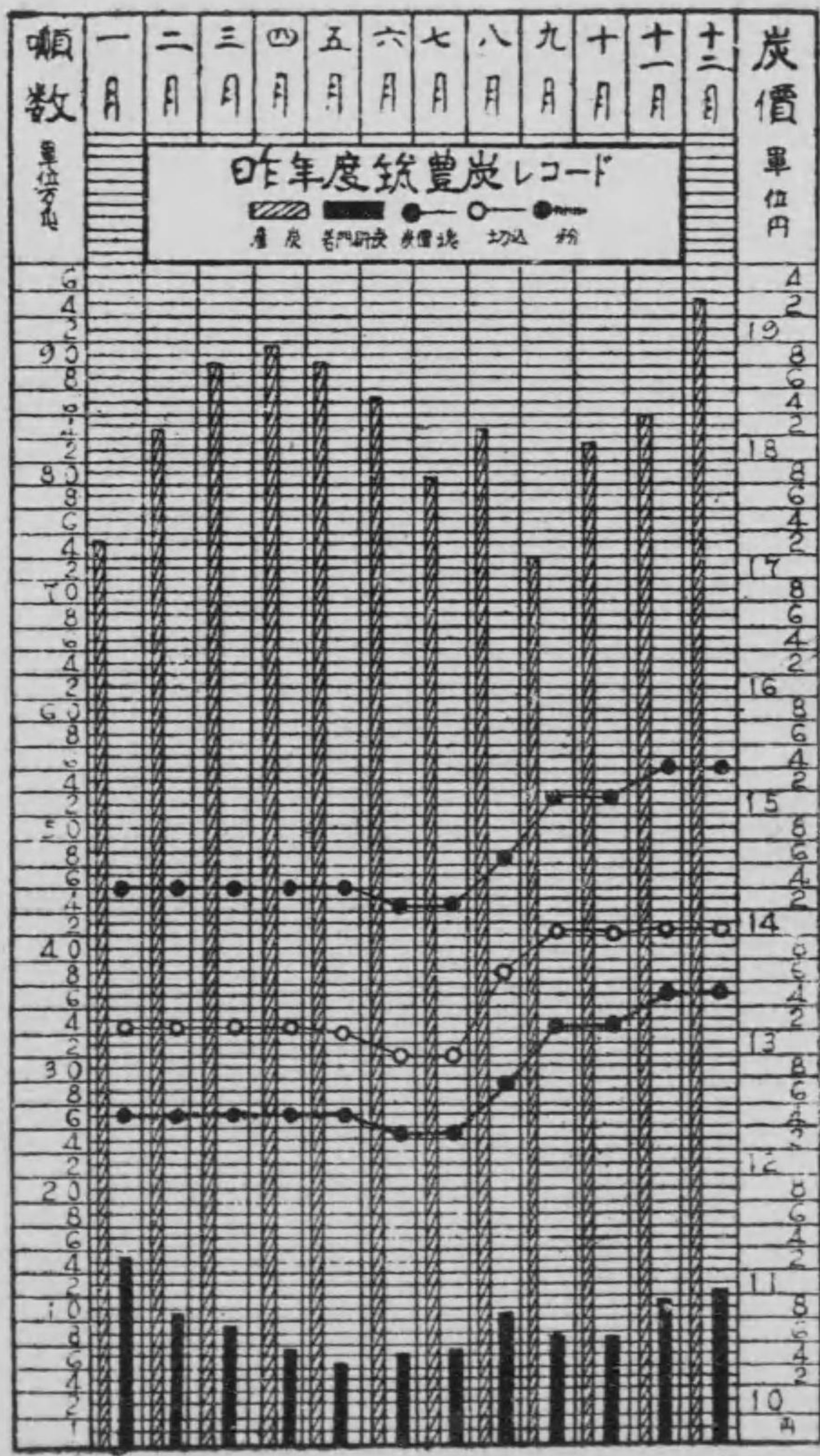
人口對所有船











序 言

世界の海上權を握り海運貿易市場に其覇を唱へて歐洲の盟主たる彼の英島帝國と恰も其地理的國情並に四圍の情勢全く酷似せる我國は當然太平洋上の航海權を掌握して東洋の主權者たらざる可らず偶歐洲戰亂を機會に我海運業は非常なる發展を遂げ造船海上保險以下各種保護機關の整備亦顯著なるものあるも其内容即ち基礎的發展に至つては頗る貧弱なるものにて今や世界平和の海運戰は倍々酷にして極度の悲境に陥り米の挑戰と英の角逐は遂に日英米三國の爭覇戰を現出し更に佛獨船の配船後に亦各國の保護政策は益々濃厚を加へ我航權の維持擴張頗る悲觀すべき情勢にあり此危機に際し我當業者の覺悟と準備や如何蓋し其内容に想到せば未だ以て幼稚到底英國の敵にあらず亦以て國防を維持するに足らず

我海運の幼稚は徳川三百年の鎖國政策が國民の海外發展を阻止せしめたるに相違なきも亦一面海運思想を啓發し海運業者を指導誘掖獎勵すべき幾多保護の設備之に伴はざるに基因す其要求に促

されて創刊せる弊社發行の「海事彙報」は海事界専門誌とし創刊七年漸く讀者の信頼を荷ふに至れ
るも未だ以て讀者の要望を満足せしむるに至らず幾多改善内容充實の急務なるものあり夙に弊社
は調査部を設け世界百般の趨勢を調査し海事當業者の活動的發展の指針たる参考材料を蒐集し其
材料を隨時海事彙報誌上に掲載し一面經りたるものは之を續々書籍として出版公鴻に提供し以て
海事知識の普及に努めんとす本書の編纂亦此主旨に出でたるものにて其内容は別項目次に詳記せ
る如く昨年度の海事界を描寫し更に海事百般の消長を摘録せる歴史の統計を蒐録し尙末尾に海事
關係業者名鑑及會社役員録を加へたれば一種の(MARINE ALMANAC)として海事關係者の日
常必携参考書たるを得ば蓋し編者の幸とする所也

大正十二年七月

海事彙報社調査部

凡 例

- 一、本書は毎年一回定期發行にして其第六輯に相當す
- 一、本書は大正十一年度の世界海事界を描寫し併て統計的累計趨勢を摘記し世界海運歴史の一部を絡れるものなり
- 一、本書は當業者の日用便覽を加味し末尾に海事關係者人名鑑及會社役員録を挿入せり
- 一、本書に網羅せる材料は各方面より蒐集せる爲め勢ひ其統一を缺ぎ且戰時中の統計は殆んど正確なる材料の據るべきものなきを以て自然不正確の點なきを保せず
- 一、本書編纂は昨年末現在を標準に其材料を集めたるも最後の縮切を本年五月下旬に延期せし爲め其後改訂に變更を加へ出來得るだけ最新を期したり
- 一、本書末尾の名鑑は各方面より出來得るだけ精密に調査せしもの又役員録は主要會社へ豫め標準を定め照會せしも其回答は希望の如くならず甚しきは全然回答乃至掲載を謝絶されたる向等ありて折角の企も意の如くならず多少不統一且正確を缺けるを遺憾とす

海事年鑑目次

△世界列國の大勢……………二	一 船船検査法……………一六	(三)世界棉花産額……………六二
面積、人口、歳入、歳出、輸入、輸出、國債、金準備、紙幣……………七	一 船船検査施行細則……………一七	(四)世界紡績噸數……………六三
△世界鐵道哩程……………四	一 船員法……………二八	(五)本邦鹽需要高……………六三
△世界物價趨勢……………四	一 船員法施行細則……………三一	(六)世界砂糖消費内容……………六三
△内外國債發行總額……………五	一 船船職員法施行細則……………三二	(七)世界砂糖主要産地別……………六三
△聯合國々債内容……………五	一 船船職員法……………三六	同 上……………(甘蔗糖)
△内外貨幣換算表……………六	一 海員懲戒法……………三七	(八)需要品輸出入番附……………六六
△各國度量衡換算表……………七	一 海員試驗規則……………三八	(九)日、英、米外國貿易累年月表……………六七
△世界標準時表……………八	一 海員試驗規程……………三八	(十)本邦輸出重要品累年比較……………七一
△海事法令拔萃……………九	一 水先案内……………四〇	(十一)輸入重要品累年表……………七二
一 船船法……………九	一 船員紹介法……………四二	(十二)對外國別貿易累年表……………七三
一 船船法施行細則……………一〇	一 同施行細則……………四三	(十三)本邦對外國貿易累年表……………七六
一 船船積量測定法……………一四	一 一ヶ月規程……………四五	(十四)世界貿易船國別累年表……………七七
	一 燈臺位置……………五二	(十五)開 港 場……………七八
	△海事通覽……………五六	△海 運……………七九
	△貿易……………六〇	一 十一年度海運大勢……………七九
	(一)世界農産物産出高……………六一	一 日本船主番附……………八四
	(二)世界主要國米産額……………六二	一 世界大船主……………八六

(一) 船舶

- 一 世界船舶噸數.....八九
- 一 世界船舶年齡比較(各國別).....九一
- 一 世界船舶增加趨勢.....九四
- 一 本邦海運發達趨勢.....九四
- 一 本邦汽船月別現在調.....九五
- 一 殖民地汽船現在調.....九六
- 一 本邦汽船速度調.....九六
- 一 船舶資格內容.....九八
- 一 本邦汽船航路內容.....九八
- 一 世界汽船々齡比較.....一〇〇
- 一 世界優秀船隻數比較.....一〇一
- 一 世界燃油船數.....一二

(二) 航路

- 一 世界各海洋面積.....一二
- 一 世界主要島嶼及面積.....一三
- 一 世界主要港哩程表.....一四
- 一 各國海運保護政策.....一六
- 一 遠洋航路補助法.....一六
- 一 郵便定期航路補助規定.....一七
- 一 補助命令航路.....一七
- 一 航路內容及受命者.....一八
- 一 航路補助內容.....一八
- 一 世界汽船會社主要航路.....一九
- 一 紐育中心航路.....一九
- 一 新嘉坡中心航路.....二〇
- 一 巴拿馬週航船國別.....二〇
- 一 巴拿馬經由船數.....二一
- 一 十一年度開設新航路.....二二
- 一 會社別經營航路內容.....二二
- 一 本邦汽船配船內容.....二二
- 一 日本中心內外船競爭航路.....二二
- 一 定期線配船.....二三
- 一 東洋定期配船.....二三

(三) 運賃

- 一 不定期配船.....一七二
- 一 十一年度近海材木積取表.....一七四
- 一 世界標準運賃.....一七四
- 一 定期航路運賃.....一七九

(四) 船價

- 一 本邦船價累年月表.....一八四
- 一 英國新造船價累年月表.....一八六
- 一 米國新造船價表.....一八八
- 一 買賣船月表.....一九一
- 一 本邦對外賣買船.....一九一
- 一 輸出入船明細.....一九一

(五) 備船

- 一 本邦備船料消長.....一九三
- 一 英國備船料消長.....一九五

(六) 海員

- 一 米國船備船料消長.....一九七
- 一 備船成約月別記錄(十年中).....一九八
- 一 海員現在數.....二〇六
- 一 船員事務成績.....二〇七
- 一 海技免狀受有者別.....二〇七
- 一 海員審判件數.....二〇九
- 一 海技受驗者.....二〇九
- 一 船舶職員登錄.....二〇九
- 一 世界主要國海員給料甲乙.....二一〇
- 一 海員勞動時間比較.....二一三
- 一 日、英、米海員給料比較.....二一三

△造船

- 一 船舶資格.....二二五
- 一 積量測定.....二二五
- 一 總噸數登簿噸數.....二二五
- 一 公稱馬力.....二二六
- 一 本邦標準船型.....二二六
- 一 普通標準船型.....二二七
- 一 主要造船所獨特標準船型.....二二七
- 一 英、米、佛、伊標準船型.....二二八
- 一 世界造船所數.....二二八
- 一 最近五ヶ年間世界造船趨勢.....二二九
- 一 本邦造船所.....二二九
- 一 本邦累年造船成績(上).....二二九
- 一 同.....(下).....二二九
- 一 大正十一年度造船成績.....二二九
- 一 世界建造船舶.....二二九
- 一 船質別船舶經濟比較.....二二九
- 一 本邦累年造船用鋼材價格.....二二九
- 一 本邦新造貨物船平均價格.....二二九
- 一 造船職工賃金.....二二九
- 一 英米造船職工賃金.....二二九
- 一 造船職工人員.....二二九
- 一 世界鐵礦包藏量.....二二九

△保險

- 一 世界產鐵趨勢.....二三二
- 一 英、米、獨製鐵能力比較.....二三三
- 一 列強鐵消費額.....二三三
- 一 本邦鋼材需給趨勢.....二三三
- 一 保險會社調(內國).....二三五
- 一 海上保險趨勢.....二三五
- 一 十一年度海上保險成績.....二三六
- 一 累年世界遭難趨勢.....二三八
- 一 海難船及海難者累年表.....二三九
- 一 十一年度遭難月表.....二四〇
- 一 十一年度本邦汽船遭難明細.....二四一
- 一 世界石炭需給.....二四五
- 一 世界石炭產額.....二四五
- 一 十一年度英炭輸出.....二四八
- 一 十一年度米炭輸出國別.....二四八
- 一 撫順炭輸出趨勢.....二四九

世界列國の大勢

本調査は千九百廿一年の發行に係る英國ステーツマンズ、エイヤープ
ツク金準備及紙幣一九二二年ウオールド年鑑に據るものなり、面積人
口は殖民地加算他は本國のみ亦日、英、米貿易は千九百二十二年度なり

國名	面積 (方哩)	人口 (千人)	歳入 (千鎊)	歳出 (千鎊)	輸入 (千鎊)	輸出 (千鎊)	國債 (千鎊)	金準備 (百万鎊)	紙幣 (千鎊)
露西亞	四、八五〇、〇〇〇	一三六、五四三	—	—	—	—	—	—	—
和蘭	七九四、〇五五	五三、七五〇	五〇、五四九	七八、一七八	二、二八八	一、四七一	二〇八、五二二	二七	四五六、二〇五
白耳義	九二、〇二七	二二、〇七	一三〇、九二七	八九七、三七〇	—	—	—	—	—
匈牙利	二〇、七二六	七、八四一	五、二四	七、二二三	—	—	—	—	—
奧太利	三五、一六四	六、一三九	二、九一六	八、〇六九	—	—	—	—	—
伊太利	一七、九八二	三九、〇〇〇	六九九、八九六	九九九、五五一	—	—	—	—	—
獨逸	一八三、三八一	六〇、九〇〇	七〇、九三九	七〇、九三九	—	—	—	—	—
佛蘭西	三、七六〇、四〇九	七、七、四三	八九八、〇五六	九九七、二八〇	—	—	—	—	—
英吉利	一、二六、三八〇	四三〇、〇四四	一、四三五、九八四	一、一九五、四二七	一、〇〇四、四二一	八二五、二七五	二、〇六〇、〇〇〇	七一九二、六、四、九五〇	六六四七、三、五、〇〇〇
支那	三、九三、五六〇	四〇〇、〇〇〇	六、一九七〇	六、一九七〇	二五八、八四七	一八三、九二八	三三三、八三三	—	六七、三八二
日本	二六〇、七三六	七九、二七九	一四六、五〇〇	一四六、五〇〇	一八九、〇三〇	一五三、七四四	三二一、五〇三	三九一	八、七、四、七、三四
國名	面積 (方哩)	人口 (千人)	歳入 (千鎊)	歳出 (千鎊)	輸入 (千鎊)	輸出 (千鎊)	國債 (千鎊)	金準備 (百万鎊)	紙幣 (千鎊)
西班牙	三、一五、二二二	二二、九四四	七〇、五九	九一、〇九九	五、四四五	三三、四九七	四七八、五二三	—	四三八
葡萄牙	九七、七二四	一四、七三八	二六、九三	五二、八〇三	五二、一〇	二四、八七四	三三、八三一	—	一〇
勃牙利	四二、〇〇〇	五、五八	三、七〇	三、五四七	八八、五三五	六三、七一九	三、八二三	—	九
羅馬尼	一三、一八二	一七、三九八	三〇八、三三九	三〇八、三三九	一四三、三三七	四、一五五	五五、七四四	—	三五、一、八二七、〇〇〇
土耳其	一五〇、〇〇〇	八、〇〇〇	三、九三四	四七、二四五	一三三、九六六	三三、六七九	一五三、〇二七	—	七〇
希臘	一〇、〇〇〇	一、五〇〇	五、一九五〇	五、一九五〇	六六、九四四	—	四六、八九三	—	三四七
塞耳維	九六、六二八	一、三三八	四九、九二五	四九、九二五	—	—	七四、三二四	—	一九
瑞西	一五、九七六	三、八六一	一六、八八六	二、一四二	九一、八五一	八三、六〇五	一〇八、三〇〇	—	八〇
了抹	五六、二七五	五六、二七五	二四、六六六	二七、七〇三	九五、八三四	八二、四七五	一一六、九〇〇	—	五一
瑞典	一七三、〇三五	五、八八五	六、一五七九	五、一五七九	六九、七八	六〇、四二四	七九、〇八一	—	三八
諾威	一三五、〇〇一	二、六九二	三九、八三七	三九、八三七	一六七、八三三	六五、七三二	六七、八一	—	七六
米國	三、六八九、三六〇	一〇、七二〇	一、一六、九〇三	一、〇三、四三三	六五三、〇〇九	七五二、八五三	四、七九五、二五〇	—	二、一〇七、四、六、七、八、八、三、九
亞爾然	一、一五三、一九	八、五三六	五、二七八九	五、〇五六	一二五、〇〇五	二〇一、三六〇	二六二、二八五	—	三九四
伯刺西爾	三、二七五、五一〇	三〇、六四五	四八、〇三〇	四二、八三三	一六九、一〇八	一九六、四五九	二七六、五七三	—	四四

世界鐵道哩程

(鐵道省調査)

國名	哩程	面積百平方里對延長割合單位哩
日本(朝鮮共)	九、一〇五	二・五
獨逸	三九、五一三	一九・〇
英吉利	二二、七〇一	一九・二
瑞西	三、二九二	一八・八
佛蘭西	三一、七五五	一四・一
白耳義	五、四六五	四四・一
合衆國	二五四、二五〇	八・五
諸威	一、九八〇	一・六
支那	六、一〇九	〇・一
印度	三五、二八五	一・八

世界物價趨勢

(大正七年七月を基準とせる指數)

年	月	東京	倫敦	紐育	巴里
三年	七月	100	100	100	100
開戰後第一年	平均	99	106	108	104
開戰後第二年	平均	111	146	124	124
開戰後第三年	平均	113	191	154	133
開戰後第四年	平均	117	236	153	133
開戰後第五年	平均	128	335	153	133
講和後第一年	平均	133	390	153	133
講和後第二年	平均	136	379	153	133
講和後第三年	平均	138	379	153	133
講和後第四年	平均	141	379	153	133
講和後第五年	平均	141	379	153	133
講和後第六年	平均	141	379	153	133
講和後第七年	平均	141	379	153	133
講和後第八年	平均	141	379	153	133
講和後第九年	平均	141	379	153	133
講和後第十年	平均	141	379	153	133
同一年	十二月	141	379	153	133
同一年	九月	141	379	153	133
同一年	六月	141	379	153	133
同一年	三月	141	379	153	133
同一年	十二月	141	379	153	133
同一年	九月	141	379	153	133
同一年	六月	141	379	153	133
同一年	三月	141	379	153	133
同一年	十二月	141	379	153	133

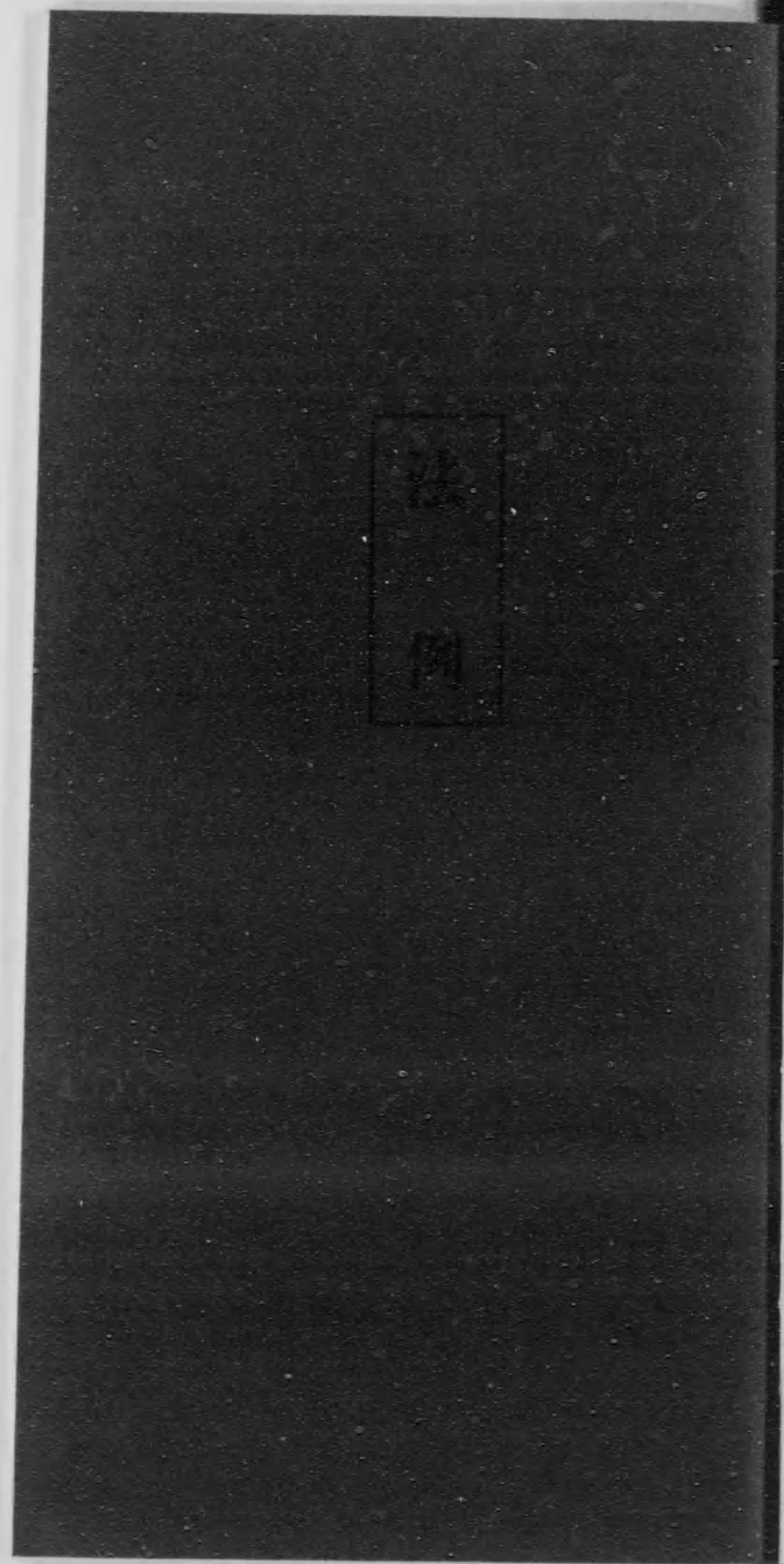
内外國債發行總額 (單位千圓) (十年末)

我國債總額	本邦發行外國政府公債
名 稱 十年末現在額	名 稱 發行高
內 債	佛國圓庫債券 200,000
國庫債券 3,744,236	同 大藏省証券 3,161
臨時國庫證券 533,233	露國大藏省証券 240,550
大藏省證券	支那郵傳部 10,000
米穀證券 10,677	五分利鐵道公債 10,000
銀行債券	支那五分利公債 5,000
會社々債	四鄭鐵道公債 10,000
外 債	吉會鐵道借款 10,000
國債 1,211,031	支那國庫證券 20,000
銀行債券	滿蒙四鐵道借款 20,000
會社々債 226,919	濟順高徐 20,000
	鐵道借款 20,000

聯合國々債內容 (單位千弗)

國名	戰前	戰後	對米債務
白耳義	85,269	4,000,000	375,279
佛蘭西	6,346,129	30,000,000	88,355
英國	3,485,818	39,000,000	33,576,328
伊太利	2,921,255	39,234,000	4,196,818
露西亞	3,369,333	18,103,000	1,648,034
露西亞其他	4,577,861	1,013,000	36,127
セルビア	1,263,333	25,000,000	192,194
エストニア	1,363,333	136,111	5,941
ラトヴィア	1,363,333	136,111	5,941
リトアニア	1,363,333	136,111	5,941
波蘭	1,363,333	136,111	5,941
芬蘭	1,363,333	136,111	5,941
日 計	1,211,031	120,000,000	10,000,000

露光量違いの為重複撮影



世界標準時表

メ ル ボ ル ン	東 京	上 海	香 港	新 加 坡	蘭 州	甲 午	古 倫	孟 買	ア ム ス テ ル ダ ム	ベ ロ グ ラ ー ド	伯 林	倫 敦					
東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	經				
二 三、 三〇	一 三、 〇〇	一 三、 三〇	一 三、 〇〇	一 二、 三〇	一 一、 〇〇	九 七、 三〇	九 〇、 〇〇	八 三、 三〇	七 五、 〇〇	四 五、 〇〇	三 〇、 〇〇	一 五、 〇〇	〇、 〇〇	度、 分			
後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	正	午、 時、 分			
九、 三〇	九、 〇〇	〇、 三〇	八、 〇〇	七、 三〇	七、 〇〇	六、 三〇	六、 〇〇	五、 三〇	五、 〇〇	三、 〇〇	二、 〇〇	一、 〇〇	正	午、 時、 分			
後	正	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	東	京、 時、 分			
二、 三〇	二、 〇〇	一、 三〇	一、 〇〇	一、 〇〇	九、 三〇	九、 〇〇	八、 三〇	八、 〇〇	六、 〇〇	五、 〇〇	四、 〇〇	三、 〇〇	正	午、 分			
墨 西 哥	ウ ル グ ア イ	亞 爾 丁	愛 爾 蘭	希 臘	和 蘭	露 國				リ オ デ ジ ヤ ネ ロ	紐 約	市 俄	メ キ シ コ	桑 波 爾	ホ ノ ル ル	新 西 蘭	シ ド ニ ー
西	西	西	東	東	東	東				西	西	西	西	西	西	東	東
九、 〇三、 四三	五、 三三、 一五	四、 四三、 〇〇	三、 〇〇、 一五	三、 〇〇、 一五	三、 〇〇、 〇〇	三、 〇〇、 〇〇				四、 五〇、 〇〇	七、 五〇、 〇〇	九、 〇〇、 〇〇	一、 〇五、 〇〇	一、 三〇、 〇〇	一、 三〇、 〇〇	一、 三〇、 〇〇	一、 三〇、 〇〇
前	前	前	後	後	後	後				前	前	前	前	前	前	後	後
五、 四三、 三三	八、 一五、 一一	七、 四三、 二二	一、 三三、 五三	一、 三三、 五三	〇、 二九、 三三	〇、 二九、 三三				七、 〇〇、 〇〇	七、 〇〇、 〇〇	六、 〇〇、 〇〇	五、 〇〇、 〇〇	四、 〇〇、 〇〇	一、 三〇、 〇〇	一、 三〇、 〇〇	一、 三〇、 〇〇
後	後	後	前	前	前	前				夜	後	後	後	後	後	後	後
八、 二四、 三三	一、 一五、 一一	一、 〇〇、 四三	二、 四三、 三九	二、 四三、 三九	三、 一九、 三三	三、 一九、 三三				半	〇、 〇〇、 〇〇	九、 〇〇、 〇〇	八、 〇〇、 〇〇	七、 〇〇、 〇〇	四、 〇〇、 〇〇	二、 〇〇、 〇〇	一、 〇〇、 〇〇

法例拔萃

船舶法

第一條 左ノ船舶ヲ以テ日本船舶トス

一 日本ノ官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶

二 日本臣民ノ所有ニ屬スル船舶

三 日本ニ本店ヲ有スル商會社ニシテ合名會社ニ在リテハ社員ノ全員、合資會社及ヒ株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ全員、株式會社ニ在リテハ取締役ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶

四 日本ニ主タル事務所ヲ有スル法人ニシテ其代表者ノ全員カ日本臣民ナルモノ、所有ニ屬スル船舶
舊商法ノ規定ニ從ヒテ設立シタル合資會社ニ在リ

テハ業務擔當社員ノ全員カ日本臣民ナルモノ、所有ニ屬スル船舶ヲ以テ日本船舶トス

第二條 日本船舶ニ非サレハ日本國旗ヲ掲クルコトヲ得ス

第三條 日本船舶ニ非サレハ不開港場ニ寄港シ又ハ日本各港ノ間ニ於テ物品又ハ旅客運送ヲ爲スコトヲ得ス但法律若クハ條約ニ別段ノ定アルトキ、海難若クハ捕獲ヲ避ケントスルトキ又ハ主務大臣ノ特許ヲ得タルトキ此限ニ非ラス

第四條 日本船舶ノ所有者ハ日本ニ船籍港ヲ定メ其船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ船舶ノ積量ノ測定ヲ申請スルコトヲ要ス

船籍港ヲ管轄スル管海官廳ハ他ノ管海官廳ニ船舶ノ積量ノ測定ヲ囑託スルコトヲ得

外國ニ於テ取得シタル船舶ヲ外國各港ノ間ニ於テ航

行セシムルトキハ船舶所有者ハ日本ノ領事又ハ貿易事務官ニ其船舶ノ積量ノ測度ヲ申請スルコトヲ得

第五條 日本船舶ノ所有者ハ登記ヲ爲シタル後船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ備ヘタル船舶原簿ニ登録ヲ爲スコトヲ要ス

前項ニ定メタル登録ヲナシタルトキハ管海官廳ハ船舶國籍證書交付スルコトヲ要ス

第六條 日本船舶ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ請受ケタル後ニ非サレハ日本ノ國旗ヲ掲ケ又ハ之ヲ航行セシムルトヲ得ス

第七條 日本船舶ハ法令ノ定ムル所ニ從ヒ日本ノ國旗ヲ掲ケ且其名稱、船籍港、番號、積量、吃水ノ尺度其他ノ事項ヲ標示スルコトヲ得ス

第八條 日本船舶ノ名稱ハ船籍港ヲ管轄スル管海官廳

者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ更ニ之ヲ請受クルコトヲ要ス

第十三條 日本船舶カ外國ノ港ニ碇泊スル間ニ於テ船舶國籍證書カ滅失若クハ毀損シ又ハ之ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船長ハ其地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

日本船舶カ外國ニ航行スル途中ニ於テ前項ノ事由カ生シタルトキハ船長ハ最初ニ到着シタル地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

前二項ノ規定ニ從ヒテ假船舶國籍證書ヲ請受クルコト能ハサルトキハ其後最初ニ到着シタル地ニ於テ之ヲ請受クルコトヲ得

第十四條 日本船舶カ滅失若クハ沈没シタルトキ、解散セラレタルトキ又ハ日本ノ國籍ヲ喪失シ若クハ第二十條ニ掲グル船舶トナリタルトキハ船舶所有者ハ

ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第九條 船舶所有者カ其船舶ヲ修繕シタル場合ニ於テ其積量ニ變更ヲ生シタルモノト認ムルトキハ遲滯ナク船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ其船舶ノ改測ヲ申請スルコトヲ要ス

第四條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十條 登録シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ變更ノ登録ヲ爲スコトヲ要ス

第十一條 船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ其書換ヲ申請スルコトヲ要ス船舶國籍證書カ毀損シタルトキ亦同シ

第十二條 船舶國籍證書カ滅失シタルトキハ船舶所有者

其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ磨消ノ登録ヲ爲シ且遲滯ナク船舶國籍證書ヲ返還スルコトヲ要ス船舶ノ存否カ六ヶ月間分明ナラサルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ船舶所有者カ磨消ノ登録ヲ爲ササルトキハ管海官廳ハ一ヶ月内ニ之ヲ爲スヘキコトヲ催告シ正當ノ理由ナクシテ尙其手續ヲ爲サ、ルトキハ職權ヲ以テ磨消ノ登録ヲ爲スコトヲ得

船舶法施行細則

第一條 本則ニ於テ船舶ノ種類ト稱スルハ汽船、帆船ノ別ヲ謂フ

機械力ヲ以テ運航スル装置ヲ有スル船舶ハ蒸氣ヲ用ユルト否トニ拘ハラス之ヲ汽船ト看做ス
主トシテ帆ヲ以テ運航スル装置ヲ有スル船舶ハ機關ヲ有スルモノト雖モ之ヲ帆船ト看做ス

第二條 淺瀬船ハ推進器ヲ有セサレハ之ヲ船舶ト看做
サス

第十七條 船舶法第五條第一項ノ規定ニ依リ船舶ノ登
録ヲ爲スニハ申請書ニ登録ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ管海官
廳ニ差出スヘシ

第十七條ノ二 管海官廳ハ前條ノ申請書ヲ受ケタルト
キハ關係書類ヲ調査シ總噸數百噸以上ノ汽船及總噸
數百噸以上ノ機關ヲ有スル帆船ニ在リテハ左ノ事項
ヲ船舶原簿ニ登録ス

- 一 番號
- 二 信號符字
- 三 種類
- 四 船名
- 五 籍港
- 六 甲板ノ層數

七 船質

八 帆船ノ帆裝

九 量噸甲板上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後
面ニ至ル長

十 船體最廣部ニ於テ肋骨ノ外面ヨリ外面ニ至ル幅

十一 長ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ舷側ニ於ケル上
甲板梁ノ上面ニ至ル深

十二 總噸數

上甲板下ノ噸數

上甲板上蔽圍シタル場所ノ噸數

船首樓ノ噸數

船尾樓ノ噸數

甲板室ノ噸數

艙口ノ超過噸數

二十一 所有者ノ氏名又ハ名稱、住所及共有ナルト
キハ各共有者ノ特分

總噸數百噸未滿ノ汽船及前項ノ帆船以外ノ帆船ニシ
テ噸數ヲ以テ積量ヲ表示スルモノニ在リテハ前項第
一號乃至第十一號第十四號乃至第十七號第十九號乃
至第二十一號ノ事項及左ノ事項ヲ登録ス

一 總噸數

上甲板下ノ噸數

二 控除噸數

船員常用室ノ噸數

機關室ノ噸數

其他ノ場所ノ噸數
石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在リテハ第一項第
一號第三號乃至第五號第十七號第十九號乃至第二十

機關室ノ噸數
其他ノ場所ノ噸數

十三 控除噸數

船員常用室ノ噸數

荷足水艙ノ噸數

機關室ノ噸數

帆船ノ帆庫ノ噸數

其他ノ場所ノ噸數

十四 登簿噸數

十五 汽機ノ種類及數

十六 推進器ノ種類及數

十七 造船地

十八 造船者

十九 進水ノ年月

二十 原名

一號ノ事項及左ノ事項ヲ登録ス

- 一 船首ノ内面ヨリ船尾ノ内面ニ至ル船底水平ノ長
- 二 船體最廣部ニ於テ外板ノ内面ヨリ内面ニ至ル幅
- 三 腰當梁ノ中央ニ於テ其上面ヨリ航ノ上面ニ至ル深

四 積石數

第三十條 管海官廳ニ於テ第十七條ノ二ニ依リ船舶ノ登録ヲ爲シタルトキハ附錄第三號書式ノ船舶國籍證書ヲ申請者ニ交付ス

船舶積量測定法

第一條 船舶ノ積量ハ百立方「フート」ヲ以テ一噸トシ之ヲ測定ス

第二條 甲板一層又ハ二層ヲ備フル船舶ニ在リテハ上甲板ヲ、三層以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ最下層甲

板ヨリ第二層ニ在ル甲板ヲ量噸甲板トス

第三條 甲板一層又ハ二層ヲ備フル船舶ニ在リテハ量噸甲板下ノ噸數ニ量噸甲板上各甲板間ノ噸數及上甲板上蔽圍シタル場所ノ噸數ヲ加ヘタルモノヲ總噸數トス但シ左ニ掲クル場所ニシテ上甲板上ニ在ルモノ噸數ハ之ヲ總噸數ニ算入セス

- 一 操舵機具、繫船機具、揚錨機具及主機關ト連結セサル副汽罐副汽機ニ供用セラル、場所
- 二 機關室、操舵室、賄室及出入口室
- 三 採光通風ニ要スル場所及便所

四 主務大臣ニ於テ船舶ノ安全、衛生又ハ利用上前項ニ掲クル機關室ノ噸數ハ船舶所有者ノ申請アリタル場合ニ於テ主務大臣之ヲ相當ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ヲ總噸數ニ算入スルコトヲ得

甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ舷端以下ノ噸數ニ舷端以上蔽圍シタル場所ノ噸數ヲ加ヘタルモノヲ總噸數トス

第四條 總噸數ヨリ左ニ掲クル場所ノ噸數ヲ控除シタルモノヲ登簿噸數トス但シ總噸數ニ算入セサル場所ノ噸數ハ之ヲ控除セス

- 一 船員常用室及海圖室
- 二 荷足水艙
- 三 機關室
- 四 操舵機具、繫船機具、揚錨機具及主唧筒ト連結シタル副汽罐副汽機ニ供用セラル、場所
- 五 水夫長倉庫
- 六 帆船ノ帆庫
- 七 主務大臣ニ於テ船舶ノ安全、衛生又ハ利用上前各號ニ掲クルモノニ準スヘキモノト認ムル場所

第六條 登簿噸數ノ算定ニ付機關室ノ噸數トシテ總噸數ヨリ控除スベキ噸數ハ左ノ割合ニ依リ之ヲ定ム

- 一 螺旋推進器ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ噸數カ總噸數ノ百分ノ十三ヲ超エ百分ノ二十未滿ナルトキハ總噸數ノ百分ノ三十二、外車ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ噸數カ總噸數ノ百分ノ二十ヲ超エ百分ノ三十未滿ナルトキハ總噸數ノ百分ノ三十七
- 二 前號ニ該當セサル場合ニ於テハ螺旋推進器ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ噸數ニ其ノ四分ノ
- 三、外車ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ噸數ニ其ノ二分ノ一ヲ加ヘタルモノ但シ船舶所有者ノ申請アリタル場合ニ於テ主務大臣之ヲ相當ト認ムルトキハ前號ノ割合ニ依ルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ算定シタル噸數カ登簿噸數ノ算定

ニ付總噸數ヨリ控除スベキ機關室以外ノ場所ノ噸數ヲ總噸數ヨリ減シタル噸數ノ百分ノ五十五ヲ超ユルトキハ之ヲ百分ノ五十五ニ止ム

第七條 登簿噸數ノ算定ニ付總噸數ヨリ控除スベキ帆庫ノ噸數カ總噸數ノ千分ノ二十五ヲ超ユルトキハ之ヲ千分ノ二十五ニ止ム

第八條 石數ヲ以テ積量ヲ表示スヘキ船舶ノ積量ハ十立方尺ヲ以テ一石トシ之ヲ測度シ回漕船ニ在リテハ船梁上下船艙ノ石數、其ノ他ノモノニ在リテハ舷端以下ノ船艙ノ積石數トス

船舶検査法

第一條 日本船舶ハ左ニ記載スルモノヲ除クノ外此ノ法律ノ規定ニ依リ検査ヲ受クヘシ

一 總噸數二十噸未満又ハ積石數二百石未満ノ帆船

第七條 検査ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ船長ニ於テ船舶検査證書ノ受有前ニ船舶ノ航行ノ用ニ供セムトスルトキハ検査官吏ハ其ノ請求ニ依リ假證書ヲ交付シテ之ヲ許可スルコトヲ得

第八條 検査官吏ハ何時ニテモ船舶ニ臨視シ若特ニ検査ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ其ノ航行ヲ停止スルコトヲ得

第十七條 左ニ掲クル船舶ニ付テハ定令ノ定ムル所ニ依リ検査ヲ執行ス

- 一 日本民臣ニ於テ借入シ日本各港ノ間又ハ日本ト外國トノ間ニ使用スル外國船舶
二 日本ノ沿岸又ハ湖川港内ノミヲ航行スル外國船舶
三 日本各港ニ於テ旅客又ハ移住民ヲ搭載スル外國船舶

二 端舟其ノ他構權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ構權ヲ以テ運轉スル舟

三 倉庫船、繫留船、及平水航路ノミヲ航行スル帆船
第三條 船舶ノ検査ハ船舶ヲ日本船舶トシテ初メテ航行ノ用ニ供スルトキ、其ノ航行期間満了ノトキ及航行期間内特ニ必要アルトキ之ヲ行フ

日本ノ國籍ヲ取得スル目的ヲ以テ日本ニ於テ製造スル船舶ノ所有者ハ其ノ製造中ト雖モ一部ノ検査ヲ申請スルコトヲ得

第四條 船舶ノ航行期間ハ汽船ニ在テハ三箇月以上一箇年以内、帆船ニ在テハ六箇月以上三箇年以内トス

第六條 検査官吏船舶ヲ検査シ通信大臣ノ定ムル検査規定ニ適合スルモノト認ムルトキハ本船ノ航路制限旅客定員、汽壓制限及航行期間ヲ定メ管轄官廳ヨリ船舶検査證書ヲ交付スヘシ

船舶検査法施行細則

第一條 本則ノ規定ハ特ニ明文アル場合ヲ除ク外國船舶検査規則ノ規定ニ依リ検査ヲ行フヘキ外國船舶ニモ亦之ヲ適用ス

第三條 船舶ノ検査ヲ分チテ左ノ四種トス

一 特別検査 二 定期検査 三 臨時検査 四 移民船検査
總噸數三十噸未満又ハ積石數三百石未満ノ帆船及淺瀬船ニ對シハ前項第一號ノ検査ヲ行ハス

- 第四條 初メテ特別検査ヲ行フヘキ場合ハ左ノ如シ
一 日本船舶ヲ初メテ航行ノ用ニ供セントスルキ
二 特別検査ノ有効期間ハ其ノ検査ヲ受ケタル時ヨリ起算シテ三年乃至六年トス
三 船舶検査法第一條各號ノ船舶カ同法ノ規定ニ依リ検査ヲ受クヘキモノト爲リタルトキ

四 前條第二項ニ掲ケタル船舶カ特別検査ヲ受クヘキモノト爲リタルトキ船舶検査法第三條第二項ノ申請アリタルトキハ前項第一號ノ場合ニ於ケル特別検査ノ一部ヲ行フ

第五條 管海官廳ハ進水後二年ヲ経過セサル船舶ノ特別検査ヲ第一回定期検査ニ於テ定メラレタル航行期間満了マテ猶豫スルコトヲ得

第三條 第二項ニ掲ケタル船舶カ特別検査ヲ受クヘキモノト爲リタルトキハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限り該船舶ノ現ニ有スル航行期間満了マテ特別検査ヲ猶豫スルコトヲ得

一 進水後二箇年ヲ経過セサル船舶
二 遞信大臣ノ認可シタル船舶検査員ニ於テ日本ノ法令ニ依リ特別検査ヲ行ヒ其ノ有効期間内ニ在ル船舶

三

旅客船ニ非サル船舶ニシテ遞信大臣ノ認可シタル船級協會ニ於テ船舶検査法ノ規定ニ依ル特別検査ト同一程度ノ検査ヲ受ケタルモノハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限り其ノ有効期間満了マテ特別検査ヲ猶豫スルコトヲ得

船舶検査法第十七條第一號ニ掲ケタル外國船舶ニシテ其ノ所屬國政府ノ特別検査又ハ遞信大臣ニ於テ相當ト認ムル船級協會ノ特別検査ヲ受ケタルモノハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限り其ノ有効期間満了マテ特別検査ヲ猶豫スルコトヲ得

第七條 特別検査ハ其ノ有効期間内ト雖モ船舶所有者船舶管理人又ハ船舶借入人ヨリ申請アルトキハ其ノ期間ヲ繰上ケ之ヲ行フコトヲ得

第八條 定期検査ハ船舶ノ航行期間ヲ定メントスルト

キ之ヲ行フ

第十五條 船舶検査法第三條第二項ノ規定ニ依リ製造中ノ船舶ノ検査ヲ申請セントスルトキハ船舶所有者ハ申請書、製造仕様書及ヒ圖面ヲ製造地ヲ管轄スル管海官廳ニ差出スヘシ但シ石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ハ圖面ヲ差出スヲ要セス
前項ノ申請書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載シ申請人署名捺印シ船舶所有者ト製造者ト異ナル場合ニ於テハ之ヲ連署スヘシ

- 一 船舶ノ種類及ヒ豫定ノ資格
- 二 外板及ヒ船骨ノ材料
- 三 計畫積量
- 四 計畫汽壓
- 五 計畫實馬方
- 六 汽機ノ種類及ヒ數

七 汽機ノ種類及ヒ數

- 八 推進器ノ種類及ヒ數
- 九 使用ノ目的
- 十 使用ノ航路
- 十一 製造所ノ名稱及ヒ其所在地
- 十二 擔任技師ノ氏名
- 十三 起工ノ年月
- 一 船體中央橫截面圖
- 二 船體中心線縱截面圖
- 三 甲板平面圖
- 四 汽機橫截面圖
- 五 汽機縱截面圖
- 六 汽機橫載面圖
- 七 汽機縱載面圖

第十七條 船舶ノ検査ハ船舶検査執行地ニ於テ之ヲ行

フ但シ申請人検査執行地ニ於テ検査ヲ受クルコト能ハサル事由ヲ説明シタルトキハ検査執行地外ニ於テ検査ヲ受クルコトヲ得

第十九條 船舶カ検査ヲ受クルトキハ汽船ニ在リテハ船長及ヒ機関長、帆船ニ在リテハ船長之ニ立會フヘシ

第二十一條 検査官吏検査ノ爲メ船舶ニ臨檢シタルトキハ船長ハ船舶國籍證書若ハ假船舶國籍證書、登簿船免狀、船鑑札又ハ船舶検査證書、假證書、船舶職員ノ海技免狀、海員名簿、屬具目錄、航海日誌、旅客名簿其ノ他検査ニ必要ナル書類ヲ其ノ檢閱ニ供スヘシ

第二十三條 船長又ハ機関長差支アリテ検査ニ立會フコト能ハザルトキハ運轉士又ハ機關士代リテ之ニ立

會フヘシ

船長、運轉士、機関長又ハ機關士ノ乗組マサル船舶ノ検査ヲ受クルトキハ船舶所有者ハ相當ノ者ヲ指定シテ検査ニ立會ハシムヘシ

第二十四條 検査官吏検査ヲ行フニ當リ必要ナリト認ムルトキハ検査ヲ結了スルマテ船舶検査證書、假證書、適航證書、回航認可證書又ハ臨時旅客定員證書ヲ領置スルコトヲ得

第三十四條 左ニ掲クル場合ニ於テハ最寄管海官廳ニ申請シ其ノ認可ヲ受ケ船舶検査證書又ハ假證書ニ記載スル航路制限又ハ航行期間ヲ超エテ船舶ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得

一 日本船舶ヲ所有スルコトヲ得サル者ニ船舶ヲ讓渡ス目的ヲ以テ之ヲ朝鮮、臺灣、樺太又ハ外國マテ回航セシムルトキ

三 臺灣ニ船籍港ヲ變更スル爲メ船舶ヲ該島マテ回航セシムルトキ

四 船體若ハ機關ノ要部又ハ重要ナル屬具ヲ修繕スル爲メ工場所在地マテ且工場所在地ヨリ検査執行地マテ船舶ヲ回航セシムルトキ

四ノ二 管海官廳所在地外ノ場所ニ於テ一部ノ検査ヲ受ケタル船舶ヲ殘餘ノ検査ヲ受クル爲メ管海官廳所在地マテ回航セシムルトキ

五 第二十五條第二項ノ規定ニ依リ検査ノ引繼又ハ囑託ヲ爲シタル管海官廳ノ管轄區域内マテ更ニ回航セシムルトキ

六 航路制限内ノ地ハ検査執行地ナキ場合ニ於テ検査ヲ受クル爲メ船舶ヲ検査執行地マテ回航セシムルトキ

七 航行期間滿了シタル場合又ハ航海ノ途中航行期

間滿了スヘキ場合ニ於テ検査ヲ受クル爲メ船舶ヲ航路制限内ノ検査執行地マテ回航セシムルトキ

八 航路制限外ノ地ニ在ル船舶ヲ航路制限内マテ回航セシムルトキ

九 航路制限變更ノ爲メ船舶ヲ航路制限外ニ回航セシムルトキ

十 海難救助其ノ他管海官廳ニ於テ已ムヲ得サル事由アルモノト認ムル場合ニ限リ一時船舶ヲ航路制限外ニ回航シ再ヒ航路制限内ニ回航セシムルトキ

第三十六條 朝鮮、臺灣、樺太又ハ外國ヨリ歸航ノ途中ニ在ル船舶カ内地以内ノ地ニ於テ航行期間滿了シタル場合又ハ航海ノ途中航行期間滿了スヘキ場合ニ於テ之ヲ内地ノ到達港マテ回航セシメントスルトキハ船長ハ外國ニ在リテハ最寄帝國領事ニ其ノ他ノ地方ニ在リテハ管海官廳ニ其ノ認可申請ヲスヘシ

但シ外國ニ在リテハ相當ノ技能ヲ有スル者ニ於テ船
舶ノ航海ニ適スル旨ヲ證シタル書面ヲ申請書ニ添附
スルコトヲ要ス

第三十六條ノ二 遠洋航路ヲ航路定限ト爲ス船舶カ航
行期間滿了シタル場合又ハ航海ノ途中航行期間滿了
スヘキ場合ニ於テ検査ヲ受クル爲メ之ヲ朝鮮、臺灣
樺太若ハ第五十條ニ掲クル區域内ノ外國ニ於ケル目
的港マテ回航セシメ又ハ検査ヲ受クル爲メ之ヲ朝鮮
臺灣、樺太若ハ第五十條ニ掲クル區域内ノ外國ニ於
ケル陸揚港ヲ經テ内地ノ目的港マテ回航セシメント
スルトキハ検査申請人ハ事由ヲ具シタル書面ヲ差出
シ最寄管海官廳ニ其ノ認可ヲ申請スヘシ

第四十五條 検査官吏検査ヲ了シタルトキハ船舶檢
査手帳ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付ス

船舶検査手帳ハ船長ニ於テ之ヲ船内ニ保管スヘシ

船舶検査手帳ハ検査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除ク
外何人ト雖モ之ヲ開封スルコトヲ得ス

第六條 航路定限

第四十八條 航路ヲ分チ左ノ四種トス

一 遠洋航路 二 近海航路 三 沿海航路 四 平水航路

第四十九條 遠洋航路トハ内外國ノ各地ニ通スル航路
ヲ謂フ

第五十條 近海航路トハ左ニ掲クル各區内及ヒ各區ヲ
併セタル區域内ヲ謂フ

第一區 東經百十三度ヨリ同百七十度及ヒ北緯二十
一度ヨリ同六十三度ニ至ル線内

第二區 東經九十五度ヨリ同百三十度及ヒ南緯十一
度ヨリ北緯二十七度ニ至ル線内

第五十一條 沿海航路トハ左ニ掲クル各區内ノ航路ヲ
謂フ

第一區 上總國大東崎ヨリ安房國野島崎、伊豆國新
島及ヒ神津島ヲ經テ遠江國御前崎ニ至ル線内

第二區 三河國伊良湖崎ヨリ志摩國大王崎、紀伊國
大島及ヒ潮岬ヲ經テ土佐國甲ノ浦ニ至ル線内、紀
伊國田倉崎ヨリ淡路國生石鼻ニ至ル線内及淡路國
潮崎ヨリ阿波國大磯崎ニ至ル線内

第四區 紀伊國田倉崎ヨリ淡路國生石鼻ニ至ル線内
淡路國潮崎ヨリ阿波國大磯崎ニ至ル線内、伊豫國
佐田岬ヨリ豊後國大島ヲ經テ鶴見崎ニ至ル線内及
ヒ長門國觀音崎ヨリ筑前國岩屋崎ニ至ル線内

第六區 伊豫國佐田岬ヨリ豊後國美濃崎ニ至ル線内
及ヒ土佐國足摺崎ヨリ日向國内海ニ至ル線内

第七區 土佐國室戸崎ヨリ足摺崎ニ至ル線内

第八區 日向國內海ヨリ大隅國種子島、屋久島、口
永良部島及ヒ黒島ヲ經テ薩摩國野間岬ニ至ル線内

第九區 薩摩國野間岬ヨリ甌列島及ヒ肥前國野母崎
ヲ經テ三重崎ニ至ル線内

第十區 肥前國野母崎ヨリ五島列島及ヒ的山大島ヲ
經テ平戸海峽ニ至ル線内

第十一區 肥前國野母崎ヨリ平戸島、生月島、壹岐
島及ヒ對馬島ヲ經テ長門國觀音崎ニ至ル線内及ヒ

豊前國今津ヨリ長門國本山鼻ニ至ル線内

第十二區 對馬島沿岸、對馬島北端ヨリ朝鮮蔚崎ニ
至ル線内及ヒ對馬島南端ヨリ朝鮮鴻島ヲ經テ巨濟
島コルベント島ニ至ル線内

第十三區 筑前國岩屋崎ヨリ長門國角島及見島ヲ經
テ石見國溫泉津ニ至ル線内及ヒ豊前國今津ヨリ長門
國本山鼻ニ至ル線内

第十四區 石見國溫泉津ヨリ隱岐列島ヲ經テ因幡國
賀露ニ至ル線内

第十五區 因幡國賀露ヨリ越前國三國ニ至ル線内
第十五區ノ二 越前國三國ヨリ能登國輪島崎ニ至ル線内

第十六區 能登國輪島崎ヨリ軸倉島及ヒ佐渡島ヲ經テ越後國新潟ニ至ル線内

第十七區 越後國新潟ヨリ佐渡島及ヒ羽後國飛島ヲ經テ酒田ニ至ル線内

第十八區 羽後國酒田ヨリ飛島及ヒ陸奥國久六島ヲ經テ深浦ニ至ル線内

第十九區 陸奥國深浦ヨリ渡島國小島ヲ經テ江良町ニ至ル線内及ヒ陸奥國尻天崎ヨリ渡島國惠山岬ニ至ル線内

第二十區 渡島國江良町ヨリ後志國奥尻島ヲ經テ茂津多岬ニ至ル線内

第二十一區 後志國茂津多岬ヨリ神威岬ヲ經テ積丹岬ニ至ル線内

第二十八區 大隅國奄美大島沿岸及ヒ奄美群島間

第二十九區 沖繩島沿岸及ヒ沖繩群島間

第五十二條 平水航路トハ湖川港内及ヒ左ニ掲クル各區内ノ航路ヲ謂フ

第一區 相模國千駄崎ヨリ笠島ヲ經テ上總國富津ニ至ル線内

第二區 駿河國三保崎ヨリ伊豆國戸田港ニ至ル線内

第三區 三河國伊良湖崎ヨリ志摩國菅島ニ至ル線内

第三區ノ二 紀伊國駒崎ヨリ木地崎ニ至ル線内

第四區 紀伊國宮崎ヨリ加太浦ニ至ル線内

第五區 紀伊國友ヶ島水道及ヒ播磨國明石瀬戸以内

第六區 播磨國室津ヨリ小豆島大角鼻ヲ經テ讃岐國小田鼻ニ至ル線内及ヒ讃岐國多度津ヨリ備中國青佐鼻ニ至ル線内

第七區 讃岐國多度津ヨリ備中國青佐鼻ニ至ル線内

岬ニ至ル線内

第二十二區 後志國神威岬ヨリ積丹岬ヲ經テ天鹽國留萌ニ至ル線内

第二十三區 天鹽國留萌ヨリ天賣島ヲ經テ天鹽ニ至ル線内

第二十四區 天鹽國天鹽ヨリ北見國利尻島及ヒ禮文島ヲ經テ宗谷岬ニ至ル線内

第二十五區 北見國知床岬ヨリ千島國後島、色丹島、アキユリ島ヲ經テ根室國納沙布崎ニ至ル線内

第二十五區ノ二 根室國納沙布崎ヨリ落石崎及ヒ釧路國尻羽崎ヲ經テ十勝國大津ニ至ル線内

第二十六區 擔振國苦小牧ヨリ渡島國惠山岬ニ至ル線内

第二十七區 陸奥國八戸馬淵川口ヨリ陸前國金華山ヲ經テ花淵崎ニ至ル線内

及ヒ伊豫國梶取崎ヨリ岡村島、安藝國大崎上島ヲ經テ三津ニ至ル線内

第八區 伊豫國梶取崎ヨリ岡村島、安藝國大崎上島ヲ經テ三津ニ至ル線内及ヒ伊豫國三津濱ヨリ周防國屋代島手郡島ヲ經テ下ノ關ニ至ル線内

第九區 豊後國地藏崎ヨリ美濃崎ニ至ル線内

二、豊後國地藏崎ヨリ沖無垢島ヲ經テ保戸島ニ至ル線内

三、豊後國保戸島ヨリ大島ヲ經テ鶴見崎ニ至ル線内

第十區 豊前國今津ヨリ長門國本山鼻ニ至ル線内及ヒ筑前國若松ヨリ長門國六連島ヲ經テ村崎鼻ニ至ル線内

二、長門國青海島ノ東端ヨリ虎ヶ崎ニ至ル線内及ヒ青海島ノ西端ヨリ今岬ニ至ル線内

第十一區 筑前國西浦三崎ヨリ志賀島大崎ニ至ル線内

第十二區 筑前國鹿家崎ヨリ肥前國神集島ヲ經テ呼子港ニ至ル線内

第十三區 對馬國唐洲崎ヨリ郷崎ニ至ル線内

第十四區 肥前國津崎ヨリ鷹島ヲ經テ值賀崎ニ至ル線内

第十五區 肥前國向後崎ヨリ番所崎ニ至ル線内

第十六區 肥前國七郎崎ヨリ黒島ヲ經テ平戸島坊ヶ崎ニ至ル線内及ヒ肥前國大瀬崎ヨリ平戸島魚見崎ニ至ル線内

第十七區 肥前國野母崎ヨリ三重崎ニ至ル線内

第十八區 肥前國口ノ津ヨリ肥後國天草島大島崎ニ至ル線内

第十九區 肥後國天草島牛深港及ヒ黒瀬戸以内

第二十區 薩摩國山川港ヨリ大隅國小根占川ニ至ル線内

第二十一區 出雲國地蔵崎ヨリ伯耆國日野川ニ至ル線内

第二十二區 丹後國鷲崎ヨリ博奕崎ニ至ル線内

第二十三區 越前國立石崎ヨリヲカ崎ニ至ル線内

第二十四區 能登國觀音崎ヨリ沖波鼻ニ至ル線内

第二十五區 陸奥國平館ヨリ九艘泊ニ至ル線内

第二十六區 陸前國花淵崎ヨリ宮戸島葦ノ崎ニ至ル線内

第二十七區 渡島國函館山尾花崎ヨリ葛登支岬ニ至ル線内

第二十八區 後志國辨慶岬ヨリ磯谷ニ至ル線内

第二十九區 後志國高島岬ヨリカムイコタンニ至ル線内

第三十區 釧路國尻羽岬ヨリ大黒島ヲ經テルムセシマ岬ニ至ル線内

第五十三條 沿海航路又ハ平水航路ヲ航路定限ト爲サントスル船舶ハ第五十一條又ハ第五十二條ニ掲ケタル區域中相連續スルモノニ限り旅客船ニ在リテハ二區ヲ併セ旅客船ニ非サルモノニアリテハ二區以上ヲ併セテ之ヲ航路定限ト爲スコトヲ得

第八章 汽壓制限

第六十九條 船舶ノ汽壓制限ハ検査官吏ニ於テ機關ノ現狀ニ應シ船舶検査規定ニ依リ之ヲ定ム

第七十條 検査官吏ニ於テ安全瓣ヲ封鎖シタルトキハ其ノ鍵ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付ス

第七十一條 船長ハ安全瓣ノ鍵ヲ封緘ノ儘船内ニ保管ス

第二十二區 丹後國鷲崎ヨリ博奕崎ニ至ル線内

第二十三區 越前國立石崎ヨリヲカ崎ニ至ル線内

第二十四區 能登國觀音崎ヨリ沖波鼻ニ至ル線内

第二十五區 陸奥國平館ヨリ九艘泊ニ至ル線内

第二十六區 陸前國花淵崎ヨリ宮戸島葦ノ崎ニ至ル線内

第二十七區 渡島國函館山尾花崎ヨリ葛登支岬ニ至ル線内

第二十八區 後志國辨慶岬ヨリ磯谷ニ至ル線内

第二十九區 後志國高島岬ヨリカムイコタンニ至ル線内

第三十區 釧路國尻羽岬ヨリ大黒島ヲ經テルムセシマ岬ニ至ル線内

船長ハ已ムコトヲ得サル事由アル場合ヲ除ク外安全瓣ノ鍵ヲ封緘ヲ開封スルコトヲ得ス

安全瓣ノ鍵又ハ其ノ封筒ヲ滅失若ハ毀損シタルトキ又ハ船長ニ於テ安全瓣ノ鍵ヲ開封シタルトキハ最寄管海官廳ニ其ノ事由ヲ具シ更ニ安全瓣ノ封緘ヲ申請スヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十章 再検査

第七十三條 船舶検査法第九條ノ規定ニヨリ船舶ノ再検査ヲ申請セントスルトキハ船舶所有者、船舶管理人又ハ船舶借入人ハ申請書ニ前検査ニ對スル不服ノ事項及ヒ其ノ事田ヲ列記シタル事由書ヲ添附シ検査ヲ行ヒタル管海官廳ヲ經由シテ之ヲ遞信大臣ニ差出スヘシ

船長ハ已ムコトヲ得サル事由アル場合ヲ除ク外安全瓣ノ鍵ヲ封緘ヲ開封スルコトヲ得ス

安全瓣ノ鍵又ハ其ノ封筒ヲ滅失若ハ毀損シタルトキ又ハ船長ニ於テ安全瓣ノ鍵ヲ開封シタルトキハ最寄管海官廳ニ其ノ事由ヲ具シ更ニ安全瓣ノ封緘ヲ申請スヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十三條 船舶検査法第九條ノ規定ニヨリ船舶ノ再検査ヲ申請セントスルトキハ船舶所有者、船舶管理人又ハ船舶借入人ハ申請書ニ前検査ニ對スル不服ノ事項及ヒ其ノ事田ヲ列記シタル事由書ヲ添附シ検査ヲ行ヒタル管海官廳ヲ經由シテ之ヲ遞信大臣ニ差出スヘシ

管海官廳ニ於テ再検査ノ申請書ヲ受理シタルトキハ
前検査ヲ行ヒタル検査官吏ヲシテ再検査申請ノ理由
ニ對スル意見書ヲ調製セシメ申請書ト共ニ遞信大臣
ニ進達スヘシ

◆船員法

第一條 本法ハ日本船舶ノ船員ニ之ヲ適用ス但湖川、
港灣ノミヲ航行スル船舶又ハ船舶法第二十條ニ掲ケ
ル船舶ノ船員ニ付テハ此限ニ在ラス

第二條 本法ニ於テ船員トハ船長及ヒ海員ヲ謂ヒ海員
トハ船長以外ノ一切ノ乗組員ヲ謂フ

第六條 外國ニ於テ船員ト爲リタル者カ日本ニ到着シ
タルトキハ其到着ノ日ヨリ一箇月内ニ船員手帳ノ交
付ヲ申請スルコトヲ要ス

第十二條 船員カ廢業ヲ爲シタルトキハ運滯ナク管海

官廳ニ其船員手帳ヲ返還スルコトヲ要ス船員カ死亡
シタルトキハ其船員手帳ヲ保管スル者之ヲ返還スル
コトヲ要ス

第十三條 船長ハ海員ヲ指揮、監督シ及ヒ船中ニ在ル
者ニ對シ其職務ヲ行フニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ
得

第十五條 船舶カ港灣ヲ出入スルトキ、狹隘ナル水路
ヲ通過スルトキ其他危險ノ虞アルトキハ船長ハ甲板
ニ在リテ自ラ船舶ヲ指揮スルコトヲ要ス

第十六條 日本ト外國トノ間又ハ外國各港ノ間ヲ航行
スル船舶カ外國ノ港ニ入港シ又ハ日本ニ到着シタル
トキハ船長ハ二十四時間内ニ其港ノ管海官廳、若シ
其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到着シタル港
ノ管海官廳ニ航海日誌ヲ提出シテ其檢閲ヲ受クルコ
トヲ要ス

前項ノ規定ハ船舶カ入港ノ時ヨリ十二時間内ニ發航
スル場合ニハ之ヲ適用セス

第十七條 左ノ場合ニ於テハ船長ハ最初ニ到着シタル
港ノ管海官廳ニ出頭シテ其報告ヲ爲スコトヲ要ス

一 豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ

二 人命又ハ船舶ヲ救ヒタルトキ

三 衝突其他ノ海難カ生シタルトキ

四 船舶カ捕獲セラレタルトキ

五 船中ニ於テ死亡シタル者アリタルトキ

船舶カ豫定セサル港ニ寄港シタルトキ又ハ前項第二
號乃至第五號ニ掲ケタル事由カ碇泊中ニ生シタルト
キハ船長ハ其港ノ管海官廳若シ其港ニ管海官廳ナキ
トキハ其後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ出頭シ
テ其報告ヲ爲スコトヲ要ス

第十九條 船舶ニ急迫ノ危險アリタルトキハ船長ハ人

命、船舶及ヒ積荷ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡シ且旅
客、海員其他船中ニ在ル者ヲ去ラシメタル後ニ非サ
レハ其指揮スル船舶ヲ去ルコトヲ得ス

第二十條 船舶カ衝突シタルトキハ船長ハ互ニ人命及
ヒ船舶ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡シ且船舶ノ名稱、
船籍港、發航港及ヒ到達港ヲ告クルコトヲ要ス但自
己ノ指揮スル船舶ニ急迫ノ危險アルトキハ此限ニ在
ラス

第二十四條 船長ハ其指揮セントスル船舶ニ乗込ム前
ニ其船員手帳ヲ管海官廳ニ提出シテ就職ノ認證ヲ申
請スルコトヲ得

第二十五條 船長カ死亡シタルトキ、船舶ヲ去リタル
トキ又ハ之ヲ指揮スルコト能ハサルニ至リタル場合
ニ於テ他人ヲ選任セサルトキハ運航ニ從事スル海員
ハ其職掌ノ順位ニ從ヒテ船長ノ職務ヲ行フ

- 第二十六條 海員ノ雇入若クハ雇止ヲ爲シ又ハ雇入契約ノ更新若クハ變更ヲ爲シタルトキハ管海官廳ニ海員名簿ヲ提出シテ公認ヲ申請スルコトヲ要ス
- 第二十八條 當事者ハ正當ノ理由アル場合ニ限り代理人ヲシテ公認ヲ受ケシムルコトヲ得
- 第二十九條 公認アリタルトキハ海員ハ遲滞ナク其船員手帳ヲ管海官廳ニ提出シテ公認ノ認證ヲ申請スルコトヲ要ス
- 第三十一條 船長ハ海員ノ雇入期間中其船員手帳ヲ保管スルコトヲ要ス
- 第三十二條 海員カ雇入期間中脱船シタルトキハ船長ハ遲滞ナク管海官廳ニ其海員ノ船員手帳ヲ返還スルコトヲ要ス
- 第三十六條 左ノ場合ニ於テハ海員ヲ懲戒スルコトヲ得
 - 一 海員カ上長ニ對シテ尊敬又ハ柔順ノ道ヲ失ヒタルトキ
 - 二 海員カ其職務ヲ怠リタルトキ
 - 三 海員カ他ノ海員ノ職務執行ヲ妨ケタルトキ
 - 四 海員カ喧嘩シタルトキ
 - 五 海員カ船長ノ許可ヲ得シテ船泊ヲ去リタルトキ又ハ船長カ指定シタル時マテニ歸船セザリシトキ
 - 六 海員カ船長ノ許可ヲ得シテ點火又ハ焚火シタルトキ
 - 七 海員カ船長ノ許可ヲ得シテ端艇ヲ使用シタルトキ
 - 八 海員カ食料又ハ飲料ヲ濫費シタルトキ
 - 九 海員カ船長ノ許可ヲ得シテ酒類ヲ所持スルトキ又ハ吸煙シタルトキ

- 十 海員カ酩酊シテ事ヲ省セサルトキ
- 十一 其他海員カ船中ノ秩序ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキ

第三十七條 懲戒ハ左ノ四種トス

- 一 監禁 (三日以下船中一室拘置)
 - 二 上陸禁止 (七日以下)
 - 三 加役 (七日以下常務時間以外二時間以内)
 - 四 減給 (十分ノ一以下)
- 第四十四條 海員カ船長ノ指定シタル時ニ於テ船舶ニ乗込マサルトキ又ハ船長ノ許可ヲ得スシテ之ヲ去リタルトキハ船長ハ乗船ヲ強制スルコトヲ得
- 第四十五條 船長ノ命令ニ服從セサル者アル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ船長ハ海軍ノ艦船、地方官廳又ハ管海官廳ニ援助ヲ求ムルコトヲ得

◆ 船員法施行細則

- 第十三條 船長ハ海員名簿、屬具目錄、航海日誌又ハ旅客名簿ヲ船中ニ備ヘタルトキ遲滞ナク書式ニ從ヒ必要ナル事項ヲ之ニ記載スヘシ
- 前項ニ依リ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船長ハ遲滞ナク之ヲ訂正スハシ
- 第十四條 左ノ場合ニ於テ船長ハ事實ノ發生後遲滞ナク書式ニ從ヒ航海日誌ニ事實ノ顛末、發生ノ年月日時、場所其ノ他關係ノ事項ヲ記載スヘシ
- 一 豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ
 - 二 人命又ハ船舶ヲ救ヒタルトキ
 - 三 衝突其ノ他ノ海難ニ罹リタルトキ
 - 四 豫定セサル港ニ寄港シタルトキ
 - 五 船舶ニ急迫ノ危険アリタル爲メ船長ニ於テ船舶

- 六 船長ニ於テ海員ヲ懲戒シタルトキ
- 七 船員法第四十一條乃至第四十四條ニ依リテ處分ヲ爲シタルトキ
- 八 船員法第四十五條ニ依リテ援助ヲ求メタルトキ
- 九 船中ニ於テ犯罪アリタルトキ
- 十 船中ニ於テ出生アリタルトキ
- 十一 船中ニ於テ死亡アリタルトキ及死亡者ノ遺産ヲ處分シタルトキ
- 十二 前各號ニ掲クル場合ノ外船中ニ於テ異常ノ事變發生シタルトキ
- 第十五條 船長ハ旅客乗船シタルトキハ其乗船後、下船シタルトキハ其下船後遲滞ナク旅客名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載スヘシ

◆船舶職員法施行細則(大正九年一月 逓信省令第二號)

- 第三條 機關ヲ有スル帆船ハ第二號表ニ依リ機關部職員ヲ乘組マシムヘシ
- 第四條 外國各港間ノミテ航行スル船舶ニシテ其航路近海航路、遠海航路又ハ平水航路ニ該當スルトキハ逓信大臣ノ指定ヲ受ケ其航路ノ種別ニ從ヒ船舶職員ヲ乘組マシムルコトヲ得
- 外國ノ湖川港内ハ平水航路トス
- 第三章 海技免狀
- 第八條 船舶職員法第三條第二項ニ依リ効力ニ制限ヲ加ヘ授與スル海技免狀ハ左ノ如シ
 - 一 甲種船長免狀 汽船又ハ帆船ニ限り船舶職員ト爲ルコトヲ得ルモノ
 - 二 甲種一等運轉士免狀 汽船又ハ帆船ニ限り船舶

- 職員ト爲ルコトヲ得ルモノ
- 三 甲種二等運轉士免狀 汽船又ハ帆船ニ限り船舶職員ト爲ルコトヲ得ルモノ
- 四 乙種一等運轉士免狀 湖川港内ノミテ航行スル汽船ニ限り船舶職員ト爲ルコトヲ得ルモノ
- 五 乙種二等運轉士免狀 湖川港内ノミテ航行スル汽船ニ限り船舶職員ト爲ルコトヲ得ルモノ
- 五ノ二 丙種運轉士免狀 沿海航路ヲ航路定限ト爲ス總噸數五十噸未満ノ帆船ニ限り船舶職員トナルコトヲ得ルモノ
- 五ノ三 二等機關士免狀 發動汽船ニ限り船舶職員ト爲ルコトヲ得ルモノ
- 六 三等機關士免狀 湖川港内ノミテ航行スル汽船又ハ發動汽船ニ限り船舶職員ト爲ルコトヲ得ルモノ
- 前項ノ外各種運轉士免狀ハ効力ヲ漁業汽船又ハ漁業帆船ニ限りタルモノヲ授與スルコトアルヘシ
- 第九條 高等ノ免狀ハ下等ノ免狀ニ代用スルコトヲ得

- 甲種船長免狀ハ他ノ船長免狀及運轉士免狀ニ對シ、甲種一等運轉士免狀ハ他ノ運轉士免狀ニ對シ、甲種二等運轉士免狀ハ各乙種運轉士免狀及丙種運轉士免狀ニ對シ、乙種船長免狀ハ各乙種運轉士免狀ニ對シ、乙種一等運轉士免狀ハ乙種二等運轉士免狀ニ對シ、丙種船長免狀ハ丙種運轉士免狀ニ對シ各高等ノ免狀トス
- 橫關長免狀ハ各機關士免狀ニ對シ一等機關士免狀ハ二等機關士免狀及三等機關士免狀ニ對シ、二等機關士免狀ハ三等機關士免狀ニ對シ各高等ノ免狀トス
- 同種免狀ニシテ効力ニ制限ヲ加ヘサルモノハ効力ニ制限ヲ加ヘタルモノニ對シ、効力ヲ汽船ニ限りタルモノハ効力ヲ漁業汽船ニ限りタルモノニ對シ、効力ヲ帆船ニ限りタルモノハ効力ヲ漁業帆船ニ限りタルモノニ對シ各高等ノ免狀トス
- 第十條 免狀ノ代用ニ付テハ前條ノ外第三號表ノ定ムル所ニ依ル

船種	近海航路			汽船			汽船			汽船		
	以上	千噸	以上	未滿	千噸	未滿	未滿	千噸	未滿	未滿	千噸	未滿
機關長機	三	一	船	二	一	船	二	一	船	二	一	船
長	等	等	長	等	等	長	等	等	長	等	等	長
關	運	運	甲	運	運	甲	運	運	甲	運	運	甲
士	轉	轉	種	轉	轉	種	轉	轉	種	轉	轉	種
長	士	士	長	士	士	長	士	士	長	士	士	長
機	三	一	船	二	一	船	二	一	船	二	一	船
關	等	等	長	等	等	長	等	等	長	等	等	長
長	運	運	甲	運	運	甲	運	運	甲	運	運	甲
機	轉	轉	種	轉	轉	種	轉	轉	種	轉	轉	種
關	士	士	長	士	士	長	士	士	長	士	士	長
士	長	長	機	長	長	機	長	長	機	長	長	機
長	士	士	關	士	士	關	士	士	關	士	士	關
機	三	一	船	二	一	船	二	一	船	二	一	船
關	等	等	長	等	等	長	等	等	長	等	等	長
士	運	運	甲	運	運	甲	運	運	甲	運	運	甲
長	轉	轉	種	轉	轉	種	轉	轉	種	轉	轉	種
機	士	士	長	士	士	長	士	士	長	士	士	長
關	長	長	機	長	長	機	長	長	機	長	長	機
士	關	關	士	關	關	士	關	關	士	關	關	士
長	士	士	長	士	士	長	士	士	長	士	士	長
機	三	一	船	二	一	船	二	一	船	二	一	船
關	等	等	長	等	等	長	等	等	長	等	等	長
士	運	運	甲	運	運	甲	運	運	甲	運	運	甲
長	轉	轉	種	轉	轉	種	轉	轉	種	轉	轉	種
機	士	士	長	士	士	長	士	士	長	士	士	長
關	長	長	機	長	長	機	長	長	機	長	長	機
士	關	關	士	關	關	士	關	關	士	關	關	士
長	士	士	長	士	士	長	士	士	長	士	士	長

船種	沿海航路			汽船			汽船			汽船		
	以上	千噸	以上	未滿	千噸	未滿	未滿	千噸	未滿	未滿	千噸	未滿
機關長機	三	一	船	二	一	船	二	一	船	二	一	船
長	等	等	長	等	等	長	等	等	長	等	等	長
關	運	運	甲	運	運	甲	運	運	甲	運	運	甲
士	轉	轉	種	轉	轉	種	轉	轉	種	轉	轉	種
長	士	士	長	士	士	長	士	士	長	士	士	長
機	三	一	船	二	一	船	二	一	船	二	一	船
關	等	等	長	等	等	長	等	等	長	等	等	長
士	運	運	甲	運	運	甲	運	運	甲	運	運	甲
長	轉	轉	種	轉	轉	種	轉	轉	種	轉	轉	種
機	士	士	長	士	士	長	士	士	長	士	士	長
關	長	長	機	長	長	機	長	長	機	長	長	機
士	關	關	士	關	關	士	關	關	士	關	關	士
長	士	士	長	士	士	長	士	士	長	士	士	長

第一號表

航路種類	近海航路			遠洋航路			汽船			汽船		
	五百噸未滿	二百噸未滿	百噸未滿	五百噸未滿	二百噸未滿	百噸未滿	五百噸未滿	二百噸未滿	百噸未滿	五百噸未滿	二百噸未滿	百噸未滿
總噸數	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機
職員名稱	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長
免狀種類	乙	乙	乙	丙	甲	甲	甲	乙	乙	乙	乙	乙
定員	二	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一

第二號表

航路種類	遠洋航路			汽船			汽船			汽船		
	千噸以上	千噸未滿	二百噸未滿	千噸以上	千噸未滿	二百噸未滿	千噸以上	千噸未滿	二百噸未滿	千噸以上	千噸未滿	二百噸未滿
總噸數	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機
職員名稱	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長
免狀種類	一	二	三	一	二	三	一	二	三	一	二	三
定員	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

船舶職員法

第一條 日本船舶ニハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外此ノ法律ノ規定ニ依リ船舶職員ヲ乗組マシムヘシ但シ船舶検査法第一條各號ニ掲クル船舶ハ此ノ限ニ在ラズ

船舶職員ト稱スルハ船長、一等運轉士、二等運轉士、機關長及一等機關士ヲ謂フ

第三條 海技免狀ハ左ノ十二種トス

- 甲種船長
- 甲種一等運轉士
- 甲種二等運轉士
- 乙種船長
- 丙種船長
- 丙種運轉士
- 機關長
- 一等機關士

乙種一等運轉士 二等機關士
乙種二等運轉士 三等機關士

第五條 海技免狀ハ逕信大臣ノ定ムル試験規程ニ依リ試験ヲ受ケ合格シ且海技免狀原簿ニ登録ヲ受ケタル者ニ授與ス

第六條 左ニ記載スル事項ニ該當スル者ハ試験ヲ受クルコトヲ得ス又船舶職員タルコトヲ得ス

- 一 公權ヲ剝奪セラレ復權セサル者及公權停止中ノ者
- 二 家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者及身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者
- 三 瘋癲白痴者若ハ身體不具ニシテ執職ニ不適當ナ

ル者

四 海技免狀ノ行使ヲ禁止セラレタル者及其ノ行使停止中ノ者

第七條 左ニ掲クル船舶ニ付テハ命令ヲ以テ其ノ職員

ニ關シ別段ノ規程ヲ設クルコトヲ得

- 一 外國各港間ノミヲ航行スル船舶
- 二 漁獵共ノ他特殊ノ目的ニ專用スル船舶
- 三 特殊ノ構造ヲ有スル船舶

第八條 此ノ法律又ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ相當スル船舶職員ヲ乗組マシメサルトキハ船舶所有者、船舶共有ノ場合ニ於テハ船舶管理人、船舶賃借ノ場合ニ於テハ賃借人ヲ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

海員懲戒法

第一條 海技免狀ヲ受有スル者其ノ職務ヲ行フニ當リ左ノ事項ニ該當スルトキハ海員審判所ノ裁決ヲ以テ懲戒ヲ加フヘシ

- 一 正當ノ理由ナクシテ其ノ船舶ヲ放棄シタルトキ
- 二 解失懈怠又ハ不當ノ所爲ニ因リ自他ノ船舶ヲ問ハス之ニ損害ヲ加ヘ若ハ之ヲ沈没セシメタルトキ
- 三 過失懈怠又ハ不當ノ所爲ニ因リ人ヲ殺傷シタルトキ
- 四 海難ニ罹リ其ノ船舶又ハ船客乗組員ヲ救助スルノ方法ヲ盡ササルトキ
- 五 海難ニ罹リタル船舶アルコトヲ認メ正當ノ理由ナクシテ其ノ船舶又ハ船客乗組員ヲ救助スルノ

方法ヲ盡ササルトキ

六 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ

七 亂酷粗暴其ノ他ノ失行アリタルトキ

第二條 懲戒ハ左ノ三種トス

一 免狀行使ノ禁止

二 免狀行使ノ停止

三 譴責

◇職員試験規程改正 (大正九年一月 遞信省令第三號)

第三條 汽船甲種船長試験ノ項左ノ通り改ム

二、甲種一等運轉士又ハ乙種船長免狀ヲ有シ一年以上二百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ取リタル事

第七條 機關ヲ有スル帆船ニ乗組ミタル者ノ履歴ハ甲板部員ニアリテハ帆船ニ乗組ミタルモノトス機關部

員ニアリテハ蒸汽機關ヲ有スルモノハ其乗組日數ノ二分ノ一ニ相當スル汽關ニ乗組ミタル者發動機ヲ有スルモノハ其乗組日數ノ二分ノ一ニ相當スル期間該船舶ノ總噸數ニ相當スル發動汽船ニ乗組ミタルモノト計算ス第十條第三項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ甲種二等運轉士免狀ヲ甲種一等運轉士免狀又ハ丙種船長免狀ニ、丙種 等運轉士免狀ヲ甲種一等運轉士免狀ニ、丙種二等運轉士免狀ヲ甲種二等運轉士ニ、二等機關士免狀ヲ一等機關士免狀ニ、三等機關士免狀ヲ二等機關士免狀ニ代用シテ執職シタル履歴ヲ以テ該本免狀ノ高等免狀ニ對スル試験ヲ受クルニハ二年以上執職スル事ヲ要ス

◇海員試験規則

〔参照〕

漁船甲種一等運轉士試験※(三)

漁船甲種二等運轉士試験(三)

漁業汽船甲種一等運轉士試験※(三)

漁業汽船甲種二等運轉士試験(三)

漁業帆船甲種一等運轉士試験※(三)

漁業帆船甲種二等運轉士試験(三)

乙種船長試験※(二)

乙種一等運轉士試験(三)

乙種二等運轉士試験(四)

漁船乙種一等運轉士試験(四)

漁船乙種二等運轉士試験(五)

湖川港乙種二等運轉士試験※(四)

湖川港乙種二等運轉士試験(五)

丙種船長試験※(三)

丙種運轉士試験(四)

船舶職員ノ試験ハ左ノ三十三種ニ分タレ、遞信大臣ノ指定スル管海官廳ニ於イテ、指定ノ期日ニ執行セラル、受験資格ハ年齢滿二十歳以上ニシテ、各別ニ一定ノ實務經驗アルヲ要サレ、殊ニ※印ヲ附シタルモノニアリテハ、次級ノ海技免狀ヲ有スルモノナラサルヘカラサルモノトス。

甲種船長試験※(一)

甲種一等運轉士試験※(二)

甲種二等運轉士試験(三)

汽船甲種船長試験※(一)

汽船甲種一等運轉士試験※(二)

汽船甲種二等運轉士試験(三)

帆船甲種船長試験※(一)

帆船甲種一等運轉士試験※(二)

帆船甲種二等運轉士試験(三)

- 漁船三種運轉士試験(五)
- 小形船三種運轉士試験(五)
- 機關長試験※(一)
- 一等機關士試験(二)
- 二等機關士試験(三)
- 發動汽船二等機關士試験(四)
- 三等機關士試験(四)
- 湖川港三等機關士試験(五)
- 發動汽船三等機關士試験(五)

◇水先案内

左ニ記載スル水先區ニ於イテ、船舶ノ水路ヲ嚮導スルモノヲ水先人ト云ヒ、通信大臣ノ規定セル試験ニ合格シタルモノ、水先免狀ヲ受ケ水先人名簿ニ登錄ヲ了ヘ其職ニ就ク、水先人ハ必ス帝國臣民タルコトヲ要サレ

滿二十三年以上、滿六十年以下ノモノニ限ル。
△水先區

(東京灣水先區)安房國洲ノ崎ヨリ相模國城ケ島西端ヲ經テ、諸磯崎ニ引キタル線ヲ以テ境界トス。

(和泉灘水先區)紀伊國田倉崎ヨリ淡路國生石鼻ニ引キタル線及淡路國江崎ヨリ播磨國明石川口ノ西岸ニ引キタル線ヲ以ツテ境界トス

(内海水先區)紀伊國田倉崎ヨリ淡路國生石鼻ニ引キタル線、淡路國潮崎ヨリ阿波國大磯崎ニ引キタル線、伊豫國佐田岬ヨリ高島ヲ經テ豊後國地蔵崎ニ引キタル線ヲ以テ境界トス。

(島原灣水先區)肥前國國崎ヨリ肥後國鶴瀬崎ニ引キタル線ヲ以テ境界トシ、三角港ヲ包含セシム。

(函館港水先區)渡島國尾花岬ヨリ葛登支岬ニ引キタル

線ヲ以テ境界トス。

△水先案内料

總噸數千噸又ハ千噸未滿ニシテ、吃水十呎又ハ十呎未滿ノ船舶ニツキテハ、左表ノ定額ニ依リ、總噸數千噸若シクハ千噸未滿、又ハ吃水一呎若シクハ一呎未滿ヲ増ス毎ニ、右定額ニ百分六ヲ加フ

水先區

航

路

水先案内料
(往復各)

東京灣	水先區境界線、品川錨地間	汽船帆船	二五
	水先區境界線、品川錨地間	汽船帆船	三〇
	横濱錨地、品川錨地間	汽船帆船	四〇
	友ヶ島水道、神戸錨地間	汽船帆船	四〇
	友ヶ島水道、大阪錨地間	汽船帆船	四〇
	神戸錨地、大阪錨地間	汽船帆船	二〇
	神戸錨地、門司若シクハ下關錨地間	汽船帆船	一〇〇
	神戸錨地、内海水先區西境界線間	汽船帆船	一七五

和泉灘	神戸錨地、若松錨地間	二〇
内海	門司、下關若シクハ若松錨地、下關水先區西境界線間	二五
	門司若シクハ下關錨地、若松錨地間	三五
	門司若シクハ下關錨地、下關水先區東境界線間	三五
	下關水先區東境界線、若松錨地間	四〇
	下關水先區西境界線、下關水先區東境界線	四〇
	東境界線	四〇
	豊後水道北口、下關水先區東境界線間	一〇〇
	豊後水道北口、神戸錨地間	一七五
長崎港	津内錨地間	二〇
島原	口の津錨地間	二五
	三角錨地間	三五
	三浦錨地間	四〇
	住の江錨地間	四〇
函館港	港内錨地間	二〇

◆船員職業紹介法

第一條 本法ハ命令ノ定ムル場合ヲ除クノ外沿海航路以上ノ航路ヲ航行スル船舶ニ乗組ムベキ船員ノ職業紹介ニ之ヲ適用ス

本法ハ勅令ノ定ル所ニ依リ前項ニ掲グルモノ以外ノ船員ノ職業紹介ニ之ヲ適用スル事ヲ得

第二條 船員職業紹介事業ヲ行ハントスル者ハ行政官廳ノ許可ヲ受クベシ

第三條 船員職業紹介ニ關シ必要アリト認ムル時ハ政府ニ於テ職業紹介事業ヲ行フ事ヲ得

政府ハ勅令ノ定ムル補助金ヲ支給シテ公益ヲ目的トスル法人其他ノ團體ヲシテ職業紹介事業ヲ行ハシムル事ヲ得

第四條 船員職業紹介事業ヲ行フモノハ何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ其報酬トシテ手数料其他ノ財産上ノ利益ヲ得ル事ヲ得ズ

第五條 船員職業紹介事業ニ監理及連絡統一ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

◆船員職業紹介法施行規則

第二章 無料職業紹介

第四條 船員職業紹介法第二條及附則第二項ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル許可申請書ニ履歷書及戶籍謄本ヲ添ヘ主タル船員職業紹介所ノ所轄管海官廳ヲ經由シ之ヲ遞信大臣ニ提出スヘシ

一 氏名又ハ名稱 本籍及住所

二 船員職業紹介所ノ所在地

三 船員職業紹介所ノ設備、開所豫定年月日

四 船員職業紹介ニ關スル諸規定

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ船員職業紹介事業ノ經營ヲ許可セス船員職業紹介所設置ノ必要ヲ認メサルトキ亦同シ

一 禁治産者及準禁治産者

二 犯罪ニ因リ刑ニ處ラレ改悛ノ狀ナシト認ムル者

三家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ復権セサル者

第六條 船員職業紹介事業ノ經營ニ關シ船員職業紹介委員會ヲ置ク遞信大臣之ヲ監督ス

船員職業紹介委員會ノ組織及職務權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ六ヶ月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一、許可ヲ得ズシテ船員職業紹介事業ヲ行ヒタル者

二、船員職業紹介ヲ爲シ其報酬トシテ手数料其他ノ財産上ノ利益ヲ受ケ又ハ他人ヲシテ受ケシメタル者

本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ船員職業紹介ヲ爲ス者強制シテ職業紹介ヲ爲シタル時モ又前項ノ例ニ同シ

附則
本法施行ノ際現ニ有料又ハ營利ヲ目的トスル船員職業紹介事業ヲ行フ者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當分ノ内其事業ヲ繼續スル事ヲ得

四其ノ他船員職業紹介事業ヲ行フニ適セズト認メタル者

第八條 船員職業紹介事業ヲ行フ者ハ遲滞ナク紹介毎ニ其ノ從業者ノ氏名住所及履歷ヲ記載シタル書面ニ戶籍本ヲ添ヘ所轄管海官廳ニ届出ツヘシ

第九條 遞信局長ハ船員職業紹介事業ノ經營ニ關シ不適當ト認ムルトキハ船員職業紹介事業ヲ行フ者ニ對シ從業者ノ解任ヲ命シ又ハ設備ノ改善ニ關シ必要ナル事項ヲ命スルコトヲ得

第十四條 船員職業紹介事業ヲ行フ者ハ船員ノ下船又ハ雇傭契約ノ廢棄ヲ勸誘シ又ハ勸誘セシムルコトヲ得ス

第十五條 船員職業紹介事業ヲ行フ者及從業者ハ求人者又ハ求職者ト金品ノ授受貸借ヲ爲シ、求人者又ハ求職者ニ代リ金品ヲ授受シ又ハ求職者ノ所持スル物品ヲ買受ケ擔保トシテ受取り若ハ買入賣却ノ周旋ヲ爲スヘカラス但シ豫メ所轄管海官廳ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此限ニ在ラス

第十六條 船員職業紹介事業ヲ行フ者及其ノ從業者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル業務ヲ爲スコトヲ得ス但シ豫メ其ノ業務ヲ行ハムトスル地ヲ管轄スル遞信局長ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 兩替

二 質屋

三 酒類販賣

四 日用品ノ販賣

五 飲食店、宿泊所其ノ他類似ノ業務

第十八條 船員職業紹介事業ヲ行フ者ハ正當ノ事由ナクシテ紹介ノ申込ミヲ拒ムコトヲ得ス

第二十條 船員ノ職業紹介ハ申込ノ順序ニ依ル但シ正當ノ理由アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 紹介ノ申込ハ申込ノ日ヨリ起算シ三十日ヲ經過シタルトキハ其ノ効力ヲ失フ

第二十三條 船員職業紹介事業ヲ行フ者ハ毎月十日、二十日及末廿ニ其ノ句中ノ記入ニ係ル求人票及求職票ノ寫ヲ紹介所毎ニ取纏メ翌旬第三日迄ニ所轄管海

官廳ニ提出スヘシ但シ既ニ提出済ノ票ニシテ記入後變更ナキモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三章 有料又ハ營利ヲ目的トスル職業紹介

第二十四條 船員職業紹介法附則第三項ノ規定ニ該當スル者(以下單ニ營業者ト稱ス)其ノ業務ヲ繼續セ

ントスルトキハ船員職業紹介法施行後二月内ニ紹介所ノ所在地ヲ管轄スル遞信局長ニ許可ヲ申請スヘシ

遞信局長第一項ノ申請ニ基キ許可ヲ與フル場合ニ於テハ之ニ期間ヲ附スヘシ遞信局長ハ必要ト認ムルトキハ前項ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

第二十五條 營業者ハ手数料ヲ定メ船員職業紹介法施行後遲滞ナク紹介所ノ所在地ヲ管轄スル遞信局長ニ認可ヲ申請スヘシ

第二十六條 營業者ハ求職者ニ手数料ノ半額ヲ超ユル額ヲ負擔セシムルコトヲ得ス

第三十條 有料又ハ營利ヲ目的トスル職業紹介ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外前章ノ規定ヲ準用ス

附 則 本令ハ大正十一年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

令ヘーゲ規程

本規程ハ「ブラッセル」會議ニ於テ修正可決(二重括弧ハ修正ノ箇所)國際商業會議所員ニ配付シ亦各國政府ニ向テ採用ヲ推奨セリ

船荷證券ニ關スル規則ノ

準備國際協約

第一款 定義

本協約ニ於テハ次ノ字句ハ下記ノ意義ヲ以テ使用サルモノトス

(イ)「運送人」トハ荷送人ト運送契約ヲ締結スル船舶所有者又ハ備船者ヲ含ム

(ロ)「運送契約書」トハ海上貨物運送ニ關スル船荷證

券或ヒハ類似ノ權利ニ關スル文書ニ「依ル運送契約書」ノミニ用フ、而シテ、備船契約書ニ基キ又ハ其定ムル處ニ從ヒテ發行セラルル上記ノ如キ船荷證券又ハ類似ノ權利ニ關スル文書モ有價證券トナリタル時ヨリ之ニ含ム

(ハ)「貨物」トハ生動物及ビ運送契約書ニ甲板積トシテ運送セラル可ク記載セラレ而シテ如斯運送セラ

ルル貨物以外ノ各種ノ貨物、器具、商品及ビ物品ヲ含ム

(ニ)「船舶」トハ海上貨物運送ニ使用セラルル各種ノ船舶ヲ意味ス

(ホ)「貨物ノ運送」トハ貨物が船舶ニ積込マレタル時ヨリ荷卸サル、期間ヲ謂フ

第二款 危險

第六款ニ定メタル場合ヲ除クノ外海上貨物運送契約ニ基キ運送人ハ當該貨物ノ船積、取扱、積付、運送、保管、管理及陸揚ニ關シ以下定ムル責任及義務ヲ負擔

シ權利及免責ヲ享有スルモノトス

第二款 責任及義務

第一條 運送人ハ發航前及發航ノ初ニ於テ左ノ諸事項

ニ對シ相當ノ注意ヲ爲スコトヲ要ス

(イ) 船舶ヲシテ航海ヲ爲スニ堪エシムルコト

(ロ) 船舶ニ適當ナル船員ヲ乘組マシメ適當ナル艙裝

及必要品ノ供給ヲ爲スコト

(ハ) 船舶、冷藏庫及冷却庫其他貨物ノ運送セラルル

船舶ノ部分ヲシテ、貨物ノ收容、運送及貯藏ニ對

シ適當且安全ナラシムルコト

第二條 第四款ニ定メタル場合ヲ除ク外、運送人ハ運

送セラルル貨物ヲ適當且ツ注意周到ニ船積シ、取扱

ヒ、積付ケ、運送、保管、管理シ而シテ荷卸ス可シ

第三條 運送人、船長、若ハ運送人ノ代理ハ其保管ノ

下ニ貨物ヲ取受リタル後荷送人ノ請求アリタルトキ

ハ荷送人ニ對シ各種ノ事項ノ内左ノ事項ヲ記シタル

船荷證券ヲ發給スルコトヲ要ス

(イ) 貨物ノ船積ノ開始前ニ荷送人方書面ニテ通知シ

タル所ニ從ヒ貨物ノ同一性ヲ示ス爲必要ナル主要

記號但シ右記號ハ包裝無キトキハ貨物ノ上ニ又包

裝アルトキハ其ノ箱若ハ被覆ノ上ニ航海ノ終了ニ

至ルマデ容易ニ讀ムコトヲ得ベキ方法ヲ以テ明瞭

ニ押印又ハ表示スルコトヲ要ス

(ロ) 荷送人方書面ヲ以テ通知シタル當該包荷若ハ個

品ノ箇數又ハ容量若ハ重量

(ハ) 貨物ノ外部ノ狀態

但シ運送人、船長又ハ運送人ノ代理人ハ實際取受リ

タル貨物ヲ正確ニ表示セザルコトヲ疑フベキ正當ノ

理由アルカ或ハ適當ノ引合セ方法無カリシ處ノ如何

ナル記號、箇數、容量又ハ重量ヲ船荷證券内ニ述ベ

或ハ記スコトヲ要セズ

第四條 船荷證券ハ第三條ノ(イ)(ロ)及(ハ)號ニ從

ヒテ其内ニ記載セラルル貨物ヲ運送人ニ依リテ受取

ラレタル一應ノ證據トナルモノトス

第五條 荷送人ハ運送人ニ對シ通知シタル記號、個數

容量、及ヒ重量ノ正確ヲ船積ノ時ニ於テ保證シタル

モノト看做サレ且ツ右事項ノ不正確ヨリ生ジ又ハ之

ニ基因スル一切ノ損失、損害及ビ費用ニ付キ運送人

ニ對シ賠償ヲ爲スコトヲ要ス、如斯運送人ノ賠償ニ

關スル權利ハ荷送人ヲ除ク外何者ニ對スルモ毫モ船

荷證券ニ基ク責任及義務ヲ限定スルモノニアラズ

第六條 損失若ハ損害及ビ右損失若ハ損害ノ一般的性

質ノ通告ガ荷卸港ニ於テ貨物ガ運送契約書ニ基キテ

受取ル可ク定メラレタル者ノ保管ニ移シタル以前或

ヒハ其時ニ書面ヲ以テ運送人或ヒハ其代理人ニ對シ

行ハルルニ非ザレバ右「移動ハ運送人ニ於テ船荷證

券ニ記載セラレタル貨物ヲ引渡シタルコトノ一應ノ

證據タルモノトス

若其損失或ハ損害ガ外見上明白ナラザル場合ニハ、

其通告ハ貨物引渡後三日以内ニ行ハルルコトヲ要ス

書面ヲ以テナサル通告ハ若貨物受渡ノ時ニ於ケル

貨物ノ狀態ガ其通告ニ述ベラレタル狀態ト相違スル

コトヲ一致認ムル場合受認ス可キモノニアラズ

如何ナル場合ト雖モ運送人及船積ハ訴訟ガ貨物ノ引

渡後或ハ貨物ガ引渡サルルベカリシ日以後一ケ年以

内ニ提出サルルニアラザレバ損失或ハ損害ニ關スル

責任ヨリ免除サルベキモノトス

實際上或ハ疑念アル損失或ハ損害ノ如何ナル場合ニ

於テモ運送人及ビ受取人ハ貨物ノ検査及檢算ニ對シ

相互ニアラユル適當ノ援助ヲ與フルコトヲ要ス

第七條 貨物ノ船積後ニ於テ運送人、船長又ハ運送人

ノ代理人ニ依リ荷送人ニ對シ發給セラルベキ船荷證

券ハ若シ荷送人ノ請求アルトキハ「船積完了」船荷證

券タルベキモノトス但シ右貨物ニ對シ權利ニ關スル

書類ガ前以テ發送人ノ手許ニアルガ如キ場合荷送人

ハ「船積完了」船荷證券引換ニ其書類ヲ讓渡スベシ、

然レドモ運送人ノ任意トシテ運送人、船長、又ハ代

理人ハ積出港ニ於テ右權利ニ關スル書類ニ貨物が積

出サレタル船舶ノ名稱及積出ノ日付ヲ記載スル事ヲ

得、而シテ右記載濟ノモノハ本規則ノタメニ「船積

完了」船荷證券ヲ構成スルモノト見做サル

第八條 運送契約ノ條項、約款、又ハ取極ニシテ本款ニ規定セラレタル義務及責任ニ關スル怠慢、懈怠又ハ過失ヨリ生ズル貨物ノ損失若ハ損害又ハ貨物ニ關スル損失若ハ損害ニ對スル責任ヨリ運送人又ハ船舶ヲ免除シ又ハ此種ノ責任ヲ本協約ノ規定スル所ト異ナリ輕減スルモノハ無効タルベキモノトス、保險ニ依ル恩惠若ハ類似條項ハ運送人ノ義務ヲ免除スルモノト見做サル

第四款 權利及免責

第一條 『運送又ハ船舶ハ船舶ヲシテ航海チナスニ堪エシメ且船舶ニ對シ適當ニ船員ヲ乘組シメ適當ナル積裝及必要品ノ供給ヲ爲ス爲及船舶、冷藏庫及冷却庫其他貨物ノ運送セラルル船舶ノ部分ヲシテ、第三款ノ第一條ノ條項ニ規定セラレタル貨物ノ收容、運送及貯藏ニ對シ適當且完全ナラシムル爲運送人側ニ於テ相當ノ注意ヲ怠リタル場合ニ非ザレバ不堪航性ヨリ生ジ又ハ之ニ基因スル損失又ハ損害ニ對シ責任

任ゼザルモノトス』

不堪航性ヨリ基因シタル損失若ハ損害ノ場合相當ノ注意ヲ實際ニ行ヒタルコトヲ證明スル責任ハ運送人又ハ本項目ニ依リ除外ヲ要求スル者ニアルモノトス

第二條 運送人又ハ船舶ハ左ノ各號ヨリ生ジ若ハ之ニ基因スル損失又ハ損害ニ對シ其責任任ゼザルモノトス

- (イ) 航海又ハ船舶ノ取扱ニ於ケル船長船員水先人又ハ運送人ノ使用人ノ所爲過失又ハ怠慢
- (ロ) 火災、但シ運送人ノ實際上ノ懈怠或ハ關知ニヨリ生ジタルモノヲ除ク
- (ハ) 海上其他可航水路ノ危難危險及事故
- (ニ) 不可抗力
- (ホ) 戰爭行爲
- (ヘ) 公敵ノ行爲
- (ト) 君主、支配者若ハ人民ノ逮捕及抑留又ハ法律上ノ手續ニ依ル拿捕
- (チ) 檢疫所ノ拘束

(リ) 荷造人貨物所有者其代理人又ハ代表者ノ行爲又ハ怠慢

(ヌ) 原因ノ如何ヲ問ハズ一部又ハ全部ノ同盟罷業、工場閉鎖又ハ勞動ノ停止若ハ制限

(ル) 暴動又ハ内亂

(チ) 海上ニ於ケル人命又ハ財産ノ救助又ハ救助ノ企圖

(ワ) 『貨物ノ固有ノ缺點、品質又ハ瑕疵ヨリ生ジタル容量或ハ重量ノ減損或ハ他ノ損失若ハ損害』

(カ) 荷造ノ不完全

(コ) 記號ノ不完全又ハ不適當

(タ) 相當ナル注意ヲ以テスルモ發見スルコト能ハザル潜在的瑕疵

(レ) 其他運送人ノ實際ノ過失若ハ關知ナクシテ又ハ運送人ノ代理人、使用人若ハ雇人ノ過失若ハ怠慢ナクシテ生ズル原因、但、運送人ノ實際ノ過失若ハ關知ナクシテ又ハ運送人ノ代理人使用人若ハ雇人ノ過失若ハ怠慢ナクシテ損失若ハ損害ガ生ジタ

ルカテ證明スベキ責任ハ本除外ノ恩惠ヲ要求スル者ニアルモノトス

第三條 荷出人、荷出人ノ代理人或ハ使用人ノ行爲、懈怠、怠慢ナクシテ運送人又ハ船舶ニヨリナサレタル損失若ハ損害ニ對シテハ其原因ノ如何ヲ問ハズ荷出人ハ其責任任ゼザルモノトス

第四條 『海上ニ於ケル人命若ハ財産ノ救助又ハ救助ノ企圖ニ於ケル離路及正當ノ離路ハ本協約或ハ運送契約ノ侵害又ハ違反ト看做サレザルモノトス而シテ運送人ハ是ニ因ル損失若ハ損害ニ對シ其責任任ゼザルモノトス』

第五條 運送人又ハ船舶ハ貨物ノ性質及價格ガ船積ノ前ニ於テ荷出人ニ依リ申告セラレ船舶證券ニ記入セラルルニアラザレバ、貨物ノ損失若ハ損害又ハ貨物ニ關スル損失若ハ損害ニ對シ如何ナル場合ニモ一荷物又ハ一單位ニ付キ百磅ヲ超過シ又ハ他ノ通貨ニテ之ト同額ヲ超過スル金額ニ對シ其責任任ジ或ハ其責任任ズルコトナシ本申言ガ船荷證券ニ記載セラル時

ハ一應ノ證據トナルモノナレドモ運送人ニ對シ拘束力ヲ有シ又ハ決定的ノモノニアラズ
運送人、船長又ハ運送人ノ代理人ト荷送人ノ間ノ契約ニヨリ前項ニ規定スル所ト異ナル最高額ヲ定ムルコトヲ得、但シ此場合ニハ右最高額ハ前記金額ヲ下ルコトヲ得ザルモノトス

第六條 荷送人ニ依リテ船荷證券ニ貨物性質又ハ價格ガ故意ニ虛偽ノ申告セラレタルトキハ運送人又ハ船舶ハ如何ナル場合ニ於テモ貨物ノ損失若ハ損害又ハ貨物ニ關スル損失若ハ損害ニ對シ其ノ責ニ任ゼザルモノトス

第七條 可燃性、爆發或ハ危險性ノ貨物ニシテ運送人船長又ハ運送人ノ代理人ガ其性質及特質ヲ知りテ船積ヲ承認セザリシモノハ、運送人ニ依リテ荷卸以前何時ニテモ荷送人ニ賠償ヲクシテ場所ノ如何ヲ問ハズ陸揚セラレ或ハ破壞セラレ若ハ無害タラシムル

ナ得、又右貨物ノ荷送人ハ其船積ニヨリ直接又ハ間接ニ生ジタル一切ノ損害及費用ニ對シ其責ニ任スベキモノトス、前記ノ知識及承認ヲ得テ船積セラレタル貨物ガ船舶又ハ貨物ニ對シ危險トナリタルトキハ共同海損ノ場合ヲ除キ運送人ノ側ニ責任ナクシテ運送人ニ依リテ場所ノ如何ヲ問ハズ陸揚セラレ又ハ破壊セラレ若ハ無害タラシメラルルコトヲ得

第五款

運送人ハ本協約ニ其ノ權利及免除ノ全部又ハ一部ヲ拋棄スルノ自由ヲ有ス但シ右拋棄ハ荷送人ニ對シ發給セララルル船荷證券ニ之ヲ記入スルコトヲ要ス

第六款 特別ノ條件
本協約ノ條項ハ備船契約書ニ適用セララルモノニアラズ但備船契約書ニ依ル船舶ノ場合ニ發給セララル船荷證券ハ本協約ノ條件ニ從フコトヲ要ス本協約ハ船荷證券ニ共同海損ニ關シ適法ナル限り如何ナル條項ヲ追加スルモ妨グズ

第七款

本規則ノ適用ニ對スル制限

本協約ハ運送人又ハ荷送人ガ海上ニ於テ貨物ヲ運送スル船舶ノ船積前及荷卸後ニ於ケル貨物ノ損失若ハ損害ノ責任及義務ニ關シ如何ナル契約、約定、條件保留又ハ免除ヲ約定スルモノ之ヲ妨グザルモノトス

第八款 義務ノ制限

本協約ノ規定ハ航洋船舶所有者ノ責任ノ制限ニ關ハル現在行ハルル如何ナル法令ニ基ク運送人ノ權利及義務ニ影響ヲ及ボサザルモノトス

第九款 本協約ノ適應

本協約ノ規定ハ本締約國ノ孰レニ於テ發行セララル總テノ船荷證券ニモ適用ス

一九二二年十月二十二日
ブラツセルに於て記名

前各款ノ規定ニ拘ラズ運送人、船長又ハ運送人ノ代理人及荷送人ハ特定ノ貨物ニ關スル運送人ノ權利及免責若ハ船舶ノ堪航性ニ對スル運送人ノ義務又ハ海上ニテ運送セララル貨物ノ船積、取扱、船積、積付、運送、保管、管理及荷卸ニ關スル使用人若ハ代理人ノ注意ニ關スル運送人ノ義務ニ關シ如何ナル條件ノ契約ト雖モ公安ヲ害セザルモノニ限り之ヲ締結スル事ヲ得、但此場合ニ於テハ船荷證券ノ存在或ハ發給ヲ得ザルモノニシテ其約定ノ條件ハ之ヲ受取證ニ記載スルコトヲ要ス此ノ受取證ハ非流通證券タルベキモノニシテ其ノ旨ヲ明記スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ從ヒ締結セラレタル契約ハ完全ナル法律上ノ効果ヲ有スルモノトス

但、本款ハ通常ノ取引關係ニ於テナサル通常ノ商業的船積ニハ適用セザルモノトス然レドモ其他ノ船積ニシテ運送セララルベキ財産ノ特質或ハ條件又ハ運送ノ事情、期間及條件ガ特約ヲ至當トスルニ正當ナル場合ニノミ適用スルモノトス

燈臺位置

名	稱	位置	初點年月	日高	岩内港	同	同
海馬島	樺太沿岸	樺太	大正三、四	二二、六	岩内港	同	同
宗仁岬	同	同	三、四	二四、一一	辨慶岬	同	同
西能登呂岬	同	同	明治一六	二四、一一	稻穂岬	同	同
△北海道北岸、東岸及南岸	同	同	同	二六、一一	福島	同	同
宗谷岬	北見	北見	明治一八、九	一八、一一	白神岬	同	同
能取岬	同	同	同	二二、一一	同	同	同
安波移矢岬	國後島	國後島	建造中	三三、一一	同	同	同
計羅武威岬	國後島	國後島	二五、一	二五、一一	同	同	同
辨天島	根室	根室	五、六	二五、一一	同	同	同
納沙布岬	同	同	五、七	二五、一一	同	同	同
花咲	同	同	二二、一一	二五、一一	同	同	同
落石岬	同	同	二二、一〇	二五、一一	同	同	同
厚岸	同	同	二三、一〇	二五、一一	同	同	同
釧路岬	同	同	二四、九	二五、一一	同	同	同
神威岬	同	同	同	二五、一一	同	同	同
後志	同	同	同	二五、一一	同	同	同

名	稱	位置	初點年月	日高	岩内港	同	同
羽根田	同	同	八、三	二二、六	岩内港	同	同
横濱(北突堤)	同	同	二九、五	二四、一一	辨慶岬	同	同
同(東突堤)	同	同	二九、四	二四、一一	稻穂岬	同	同
第三海堡	東京灣	東京灣	二九、二	二六、一一	福島	同	同
觀音岬	同	同	二、一	二六、一一	白神岬	同	同
劍崎	武藏	武藏	四、一	二二、一一	同	同	同
城ヶ島	相模	相模	四、一	二二、一一	同	同	同
大島	伊豆	伊豆	三、八	二二、一一	同	同	同
三宅島	大正	大正	四、四	二二、一一	同	同	同
稻取	同	同	明治四二、六	二二、一一	同	同	同
神子元島	同	同	四二、八	二二、一一	同	同	同
石室岬	同	同	三、一	二二、一一	同	同	同
清水	同	同	四、一	二二、一一	同	同	同
御前岬	同	同	四、三	二二、一一	同	同	同
掛塚	同	同	七、五	二二、一一	同	同	同
同(東突堤東側)	同	同	三〇、三	二二、一一	同	同	同
同(東突堤西側)	同	同	三五、六	二二、一一	同	同	同
尾張	同	同	三五、六	二二、一一	同	同	同
甲浦	同	同	三〇、三	二二、一一	同	同	同
室戸岬	同	同	三五、六	二二、一一	同	同	同
上ノ加江港	同	同	三五、六	二二、一一	同	同	同
日之御岬	同	同	三〇、三	二二、一一	同	同	同
潮崎	同	同	七、五	二二、一一	同	同	同
樫野岬	同	同	四、三	二二、一一	同	同	同
梶取岬	同	同	四、一	二二、一一	同	同	同
小島	同	同	三、一	二二、一一	同	同	同
安乘岬	同	同	四二、八	二二、一一	同	同	同
菅島	同	同	四二、六	二二、一一	同	同	同
神島	同	同	四二、四	二二、一一	同	同	同
同(高燈)	同	同	四二、二	二二、一一	同	同	同
鳥羽(低燈)	同	同	四二、一	二二、一一	同	同	同
同(高燈)	同	同	四二、一	二二、一一	同	同	同
四日市	同	同	四二、一	二二、一一	同	同	同
伊勢	同	同	四二、一	二二、一一	同	同	同
志摩	同	同	四二、一	二二、一一	同	同	同
紀伊	同	同	四二、一	二二、一一	同	同	同
土佐	同	同	四二、一	二二、一一	同	同	同
大正二、四(再點)	同	同	二八、一	二二、一一	同	同	同
明治三二、四	同	同	二八、一	二二、一一	同	同	同
大正六、七	同	同	二八、一	二二、一一	同	同	同
白尾	同	同	二八、一	二二、一一	同	同	同
福浦	同	同	二八、一	二二、一一	同	同	同
祿剛岬	同	同	二八、一	二二、一一	同	同	同
同(高燈)	同	同	二八、一	二二、一一	同	同	同
同(低燈)	同	同	二八、一	二二、一一	同	同	同
七尾灣口	同	同	二八、一	二二、一一	同	同	同
伏木港突堤	同	同	二八、一	二二、一一	同	同	同
魚津	同	同	二八、一	二二、一一	同	同	同
越中	同	同	二八、一	二二、一一	同	同	同
佐渡	同	同	二八、一	二二、一一	同	同	同
越後	同	同	二八、一	二二、一一	同	同	同
羽前	同	同	二八、一	二二、一一	同	同	同
羽後	同	同	二八、一	二二、一一	同	同	同
陸奥	同	同	二八、一	二二、一一	同	同	同
平館	同	同	二八、一	二二、一一	同	同	同
入道岬	同	同	二八、一	二二、一一	同	同	同
船川	同	同	二八、一	二二、一一	同	同	同
酒田	同	同	二八、一	二二、一一	同	同	同
新潟	同	同	二八、一	二二、一一	同	同	同
越後	同	同	二八、一	二二、一一	同	同	同
佐渡	同	同	二八、一	二二、一一	同	同	同
越中	同	同	二八、一	二二、一一	同	同	同
大正	同	同	二八、一	二二、一一	同	同	同
明治一〇、一〇	同	同	二八、一	二二、一一	同	同	同
大正三、一	同	同	二八、一	二二、一一	同	同	同
明治四四、一二	同	同	二八、一	二二、一一	同	同	同
大正三、七	同	同	二八、一	二二、一一	同	同	同
加賀	同	同	二八、一	二二、一一	同	同	同
大正三、七	同	同	二八、一	二二、一一	同	同	同

大正十一年海事通覽

大正十一年度に於ける海事出来
事其重要事項を左に摘録す

一 月

- ▲シヨンス氏提案自國船保護法案は米國下院に於て否決
- ▲蘇士通航船吃水限定三十呎を一月一日より三十一呎に擴張
- ▲英國船主協會は海員給料一割五分引下に決定
- ▲我造船學界の泰斗工學博士寺野精一氏八日逝去
- ▲郵船近海部分離經營を重役會に於て決定
- ▲海事委員會は逕信大臣の諮問に基き海運造船維持策の具体案を決議

遷相に報告

- ▲東京に本支店を有する海上保險十八會社は東京海上保險取引所を設けし取引上の敏活を期すべく十八日開所式舉行
- ▲石炭聯合會は送炭制限協定を四月より十二月迄繼續し再協定
- ▲神戸橋本汽船重役川瀬俊繼氏は海運業維持發達に間する膨大なる左記意見書を野田遷相に建言
- ▲航路の整理 ▲日本船齡二十年▲中古外船買入れ制限▲航路補助金及郵便航送料の撤廢▲軍縮の爲造船所を商船建造に轉回せしめること▲海運業の合同▲府縣の補助航路整理▲他事業との連絡(特に銀行と貿易業との連絡)▲ツラム船の發展策▲港灣改善▲海上法規の國際化▲海員養成に努力▲海員安全の保障▲無線電信裝置▲日英米海運提携

規の國際化▲海員養成に努力▲海員安全の保障▲無線電信裝置▲日英米海運提携

▲佛國海員組合は政府所有船拂下げを受け組合直營の運輸營業を開始

▲米國船主協會は外船對抗上海員給料一割五分引下げ決議

▲帝國海事協會は義勇艦隊部を獨立し海防義勇を設立

▲海員協會理事改選の結果
太田丙子郎、川崎立二郎、永津卯平、藤村重道、佐橋柳橋、檜崎猪三郎、麓祐助の七氏當選就任

二 月

- ▲造船規程、船舶検査規程、木船検査規程、舷窓試験規定を各改正し二月一日より實施
- ▲香港に船員雜役人夫大罷業起る

▲米國船院總裁ラスカー氏は船舶保護法案を脱稿大統領に提出

▲造船保護策に就て造船懇話會は關係各大臣に向け請願書提出

▲我造船界大斗工學博士末廣恭二氏は「轉動軸の振計」の研究にて學士院より授賞

▲英國船主協會は海牙會議に於て決定の船荷證券を採用せり

▲日本郵船は外航配船の大整理斷行

▲神戸海運業組合の備船契約書統一決議と具体案制定

▲郵船は社業刷新の目的にて海陸社員大淘汰を斷行

▲渡歐中の松方川崎造船社長歸朝海運界乗出しを聲明す

▲船員職業紹介法案六日提出兩院通過

▲船員職業紹介法案六日提出兩院通過

▲船員職業紹介法案六日提出兩院通過

▲船員職業紹介法案六日提出兩院通過

▲船員職業紹介法案六日提出兩院通過

▲船員職業紹介法案六日提出兩院通過

▲船員職業紹介法案六日提出兩院通過

▲船員職業紹介法案六日提出兩院通過

▲船員職業紹介法案六日提出兩院通過

▲船員職業紹介法案六日提出兩院通過

▲船員職業紹介法案六日提出兩院通過

▲船員職業紹介法案六日提出兩院通過

▲船員職業紹介法案六日提出兩院通過

▲船員職業紹介法案六日提出兩院通過

▲船員職業紹介法案六日提出兩院通過

▲船員職業紹介法案六日提出兩院通過

▲船員職業紹介法案六日提出兩院通過

▲船員職業紹介法案六日提出兩院通過

▲船員職業紹介法案六日提出兩院通過

過

▲横濱船渠再び爭議起りたるも無條件解決

▲英米視察の郵船事務石井徹氏八日歸朝

▲北米航路同盟の崩解

▲佛國政府は海運補助改正案提出

▲ハーチング大統領は商船補助法案を下院提出

▲佛國船主協會海員八時間制廢迄を決議

▲米國炭坑夫は三月三十一日夜半を以て罷業斷行

▲郵船近海部は四月一日より分離經營

▲太平洋海運減資

▲逓信局長會議

▲逓信局長會議

▲逓信局長會議

▲逓信局長會議

▲逓信局長會議

▲逓信局長會議

▲逓信局長會議

▲逓信局長會議

▲逓信局長會議

▲逓信局長會議

▲逓信局長會議

▲逓信局長會議

▲逓信局長會議

▲逓信局長會議

▲逓信局長會議

▲逓信局長會議

▲逓信局長會議

▲三菱造船常役盛田氏辭任に伴ひ幹部更迭

▲郵船近海部分離に伴ふ海員減給問題に就て紛争を起し海員組合はこれに對し積極的態度聲明

▲歐米視察中の山下汽船事務齋谷正輔氏歸朝

▲日清汽船は政府補助の下に愈重慶義昌航路開始

▲輸入船續々廻航米航船近毎割込等で海運界悪化緊縮増加傾向

▲淺野造船所は造船部閉鎖三菱兼二浦制鐵所も事業大縮少

▲商船神戸支店落成

▲税關長全部更迭

▲海員救濟會理事會長内田正敏男十一日薨去

▲海員救濟會理事會長内田正敏男十一日薨去

▲海員救濟會理事會長内田正敏男十一日薨去

▲海員救濟會理事會長内田正敏男十一日薨去

▲海員救濟會理事會長内田正敏男十一日薨去

▲海員救濟會理事會長内田正敏男十一日薨去

▲海員救濟會理事會長内田正敏男十一日薨去

▲海員救濟會理事會長内田正敏男十一日薨去

▲海員救濟會理事會長内田正敏男十一日薨去

▲海員救濟會理事會長内田正敏男十一日薨去

▲海員救濟會理事會長内田正敏男十一日薨去

▲海員救濟會理事會長内田正敏男十一日薨去

▲海員救濟會理事會長内田正敏男十一日薨去

▲海員救濟會理事會長内田正敏男十一日薨去

▲海員救濟會理事會長内田正敏男十一日薨去

▲海員救濟會理事會長内田正敏男十一日薨去

▲海員救濟會理事會長内田正敏男十一日薨去

▲海員救濟會理事會長内田正敏男十一日薨去

▲海員救濟會理事會長内田正敏男十一日薨去

- ▲神戸築港竣成祝賀會を十六日舉行 阪谷男爵以下關係者招待
- ▲海軍水路部は今明兩年に掛け海圖大改訂に着手
- ▲日本船主協會は總會を開き理事監事の改選を行へり
- ▲日本海員接濟會は二十三日總會を開き理事常議員半数改選を行ひ梅村貞明氏新任に理事に就任紹介部長を兼任
- ▲郵船總會は黒龍會一派の船舶合同運動に大波瀾を惹起せんとし郵船相話會の調停で妥協

◆六 月

- ▲大阪鐵工所櫻島工場に罷業突發し約一ヶ月の後職工側の無條件就業に解決
- ▲政友會内閣六日總辭加藤内閣成立
- ▲米炭罷業永續に英濠炭供給を旺盛ならしめ爲めに大型船の太西洋消化更に太平洋沿岸より邦炭の註文來る
- ▲炭價調節問題に就て船主協會は常任理事全部東上關係大臣訪問陳情運動
- ▲過去三ヶ月に亘れる米國炭坑罷業も結局明年三月迄舊賃にて就業を協定成立
- ▲セネウア労働會議囑託として海員團代表として都竹氏出席に決定
- ▲新内閣は物價調節策として海上運賃低減を懇諭し前田遜相音頭役を勤む
- ▲神戸海洋氣象臺無線電信完成對艦船天氣通報開始
- ▲神戸海運業組合に對抗する神港海

- ▲爲めに船舶合同案打切若宮氏次官に宮崎氏管船局長就任
- ▲日本海上保險の新築移轉
- ▲深尾大阪商船事務安達東京海事部長兩氏歸朝
- ▲保險料詐取の直的に汽船千代丸沈没事件告發
- ▲智利沿岸貿易禁止法實施
- ▲郵商兩社の共同決算協定は今回更に天津、大連及臺灣の外濠洲航路に及ぼすべく協議中
- ▲船主協會は諸問機關として海技、船造及法規の三委員會を設置
- ▲大型船主は自衛策として北海道樺太材木積取運賃に就て協定を爲す
- ▲南米訪問實業團として郵船は川口留吉氏商船は松原季久郎氏派遣

◆七 月

- ▲社外船主は不況對策として阪神船主會議を開催實行委員十名を選び船主協會に向け定款二條に基き速に相當の對策を採るべしと建議を爲し遂に船主協會は理事會を開き特別委員を選任對策研究に着手
- ▲港灣調查會總會は東京築港問題以下小松島、鹿兒島及今治三築港案を附議東京築港案を委員附託他は原案可決
- ▲軍縮に伴ふ恩惠として海軍士卒中掌砲兵、高等科學信號兵及掌機兵(下士官)に對し海技免狀を附與する旨發表
- ▲米船舶法一部修正下院通過
- ▲船主協會不況對策委員會は愈共同緊船案を發表

運組合設立
◆九 月

- ▲製鐵所合同運動開始
- ▲十月ブラツセルに開催の海法會議出席委員として波多野管理課長派遣
- ▲九州大學造船科長熊倉工學博士逝く
- ▲三井造船副部長大迫武吉氏逝く曩に佐伯俊太郎(五月)津田資郎(一月)の兩氏を失へる扇港海運界は非常寂寥を極む
- ▲石炭聯合會は採炭制限五割を明年三月迄繼續を決議し炭價調節に反抗
- ▲戰時勃興汽船會社中の組合汽船愈破産宣告
- ▲英米訪問實業團一行は十一年會を

◆十 月

- ▲新に組織し自由港問題を提唱し石井徹氏主唱者たり
- ▲北米四大航路同盟成立
- ▲船主協會の緊船案は種々名案を得たるも社船側の反對其他大手筋の不賛成に折角過去二ヶ月を費し調査考案される努力も結局不採用
- ▲大阪商船整理に伴ふ制度改正(新に經理、營業、海務の三部制)に連れ課長以下更迭陶汰
- ▲船主協會は二十六日理事會を開き商船と船客課長上谷續氏を専務理事に推薦
- ▲海事部長會議開催
- ▲米國は禁酒令を内外船舶に適用する旨公布
- ▲船舶債權處分着手に海運界を脅威

- ▲出願中帝國海事協會の鋼船規則を逓信省造船規程と同一効力を認可さる
- ▲材木積取切迫に運賃沸騰し遂に樺太内地二百圓を現出
- ▲漁船検査に就て逓信農商務兩省の確執
- ▲倫敦に於て十三ヶ國を代表する國際海事委員會開催
- ▲船舶二重課税問題に就て船主協會の免除陳情

十一月

- ▲内務省主唱の下に大袈裟なる港灣協會生る
- ▲日本郵船會社の船舶合同調査會は結局合同不可を發表
- ▲米松補助法案再燃ハーディング大統領は臨時議會を招集し上下兩院協

- ▲議會に出席教書を發表
- ▲糖業聯合會は船舶兼營自治案を發表し船主を脅威す
- ▲海員無料職業紹介法は十一月一日より實施
- ▲郵船總會は解職秘書林直衛氏(死亡)の公開狀が累を及ぼし又々社長演説を爲さしめず險惡の儘解散
- ▲八日横濱築港第三期工事起工式舉行

十二月

- ▲日本郵船社長伊東米治郎氏「日本海運」を發行し海事思想普及に努む
- ▲横濱丸對印度丸事件に關連し保險會社側より三ツ巴の訴訟續發
- ▲海運不況對策として船舶機關改良熱沸騰

- ▲大倉對川崎壹千萬圓訟訴未裁決の儘越年
- ▲米國商船法案は上院に於て遂に放擲擲潰さる
- ▲甲板積貨物に對する協定に對し日本船主協會は條件附にて大体賛成に決定
- ▲十二年七月倫敦に於て航海會議開催内務省より松本書記官以下三名列席決定



貿易

- ▲出船中帝國海軍協會の鋼船規則を通信省造船規程と同一効力を認可せる
- ▲日本積取切道に派員湯説し遂に神太内地二百圓を現出
- ▲海軍調査に就て通信農商省の電報
- ▲留對に於て十三ヶ國を代表する國海軍委員會開催
- ▲船主二重課税問題に就て船主協會の免除陳情

十一月

- ▲内務省主唱の下に大要なる海軍協會生る
- ▲日本郵船株式會社船主聯合會は船主聯合不可を發表
- ▲米船補助法案再燃ハートマン大統領は臨時議會を招集し上下兩院協
- ▲議會に出席教書を發表
- ▲船主聯合會は船主聯合自治案を發表し船主を脅威す
- ▲海員無料職を紹介法は十一月一日より實施
- ▲郵船株式會社船主聯合會の死亡の公開状が累々及ぼす又、社長演説を爲さしめ予備選の準備
- ▲日本積取切道三期工事概式舉行

十二月

- ▲日本郵船社長伊東米治郎は「日本郵船」を發行し海軍思想普及に努む
- ▲横濱丸對印度丸事件に關連し保險會社側より三ツ巴の訴訟續發
- ▲海運不況對策として船舶機關改良熱沸騰
- ▲大倉財川崎壹千萬圓訴訟未裁決の儘越年
- ▲米國商船法案は上院に於て遂に放棄擯置さる
- ▲甲辰積取切道に對する協定に對し日本船主協會は條件附にて大體賛成に決定
- ▲十二月七日海軍に於て航海會議開催内務省より校本書部官以下三名列席決定



貿易

(一) 世界主要農産物産出高

露 日 伊 印 獨 佛 加 埃 濠 亞 阿	國 馬 太 蘭 奈 匈 爾	(歐 亞) 尼 本 利 度 逸 西 陀 國 洲 丁 亞	小 麥	ライ 麥	燕 麥	玉 蜀 黍	大 麥
三三〇、一〇六	七六、六五八	二七、九三三	一八八、三六八	二五〇、八二九	九七、八三〇	三三、七八一	三〇〇、三一一
八四九、七五四	四、八〇〇	六、四四一	二七、九七五	四、三〇八	二、三	三三、八三〇	一八九、五四四
六九四、五二六	二七、〇五四	八八、〇〇〇	二七、〇五四	六、二九二	六、二九二	六、二九二	四、〇〇〇
七三、一四五	二九、四三〇	六、四六四	三三、九三三	三、九三三	三、九三三	三、九三三	三、九三三
三三、一〇〇	三三、一〇〇	三三、一〇〇	三三、一〇〇	三三、一〇〇	三三、一〇〇	三三、一〇〇	三三、一〇〇
三三、一〇〇	三三、一〇〇	三三、一〇〇	三三、一〇〇	三三、一〇〇	三三、一〇〇	三三、一〇〇	三三、一〇〇

米國農務局調査(一九二一年度)智利、埃及、和蘭伯刺
 西爾南阿白耳義丁抹等は其他に包含(單位千フツシ
 ル)燕麥以下は千九百二〇年度なり

西班	一三五、七〇五	三〇、九二二	二六、二八二	六六、八三八
英國	五八、〇九九	二四、六	八六、九三四	一
米國	七六、一〇〇	九〇、五三三	一、二六一、九三三	一
其他	一八九、八〇五	四〇、八六六	一五二、三三三	三、二六三、二九六
備考	其他の諸國とは白耳義、伯刺西爾、希臘、丁抹、モロッコ、和蘭、セビヤ、南阿聯邦、瑞西、愛蘭、諾威、瑞典、埃及、チユニス等なり			二五六 一六五、六三〇 三、六三七

(一) 世界主要國米產額

全上調査(一九二一年)	面積(佛町)	產額(千封度)
英國	三、四〇〇、九四六	七三、九〇七
日領印度	三、〇三〇、九三三	一七、三三六
瓜哇及マニラ	二、五三八、二二六	五、五五二
暹羅	二、〇七九、五一	四、二四一
朝鮮	一、七〇〇、四三三	三、六八〇
臺灣	五〇六、七八四	一、三三三
比律賓群島	一、七二二、四一六	二、三三一
マタカスカル	四五六、九〇六	二、〇二二
北米合衆國		三九、一七三
伊太利		一四四、三四三
露西亞		二六三、四六〇
印度支那		七、九二二
北米		一、二四三
墨西哥		二四〇
伯刺西爾		五〇
秘露		一三五
其他ノ南米		三〇
歐羅巴		一五
英領印度		二、九三七
蘭領印度		二〇
佛領印度支那		三二
比律賓		八

(二) 世界棉花產額 (一九二〇年度)

日	本	九五四
支那及朝鮮	三、〇〇〇	一〇
波斯	三〇	二五
露西亞	一〇〇	三
土耳其	四〇	計 二一、〇八二

(四) 世界紡績鍾數 (單位千鍾)

一九二四年	一九二三年	
英國	五五、九七一	五五、六三三
米國	三一、五九九	三六、八四二
獨逸	一一、四四四	九、四〇〇
露國	九、一一一	七、一〇〇
佛國	七、四〇〇	九、六〇一
印度	六、三九七	六、八七一
計	一四四、七〇四	一五三、九八一
其他	一五、三三七	一四、八四四

(五) 本邦鹽需要高 (十年度)(單位百斤)

內地收納鹽	七三、二八九
埃及鹽	六、七六七

同再製鹽	七九、三三三	西班牙鹽	一〇、七二三
臺灣鹽	一九、一四五	チユニス鹽	二、五八〇
關東州鹽	七〇、四五五	獨逸鹽	二〇、八三〇
青島鹽	一七、七七二	英米鹽	七、三三六
支那鹽	一一、七〇一	雜種鹽	一、三四、三三一
安南鹽	二七、〇四五	合計	二、四八、二三八

(六) 世界砂糖消費內容 (一九二二年度)

單位千噸	單位千噸		
英國	五、四六一	支那	八〇〇
獨逸	一、四六〇	伯刺爾	三六〇
米國	一、七三五	亞爾然丁	三三五
英領印度	三、〇〇〇	伊太利	三〇〇
佛領印度	八〇六	加奈陀	三八八
チエツク	三〇九	其他	三、三九六
日本	五五〇	合計	一八、六八〇

(七) 世界砂糖主要産地別

(甘蔗糖)

(單位千噸)

産地	年次三三	三三—三四	三四—三五	三五—三六	三六—三七	三七—三八	三八—三九	三九—四〇	四〇—四一	四一—四二	四二—四三	四三—四四	四四—四五
印度	二,四二八	二,五九七	二,五九二	三,〇〇七	三,〇三三	三,四四六	三,六〇〇	四,三〇〇	四,〇〇〇	三,〇一三	四,〇〇〇	四,二九〇	四,三九〇
爪哇	一,三三二	二,二九一	二,四六〇	二,六三四	二,七三六	三,三三九	三,九五〇	二,八〇〇	二,八〇〇	三,三三一	三,三三一	二,四七七	二,四七七
暹羅	四八八	一,三四五	一,三〇三	一,一九八	一,五九一	一,七九一	一,六九六	一,三三五	一,三三五	一,三三五	一,三三五	一,三三五	一,三三五
布哇	三三〇	五五〇	五七七	五九九	五七五	五二五	五三〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇
ホルトリコ	一四七	三三五	三〇八	四三一	四四九	四〇五	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇
アルゼンチン	一三七	二八〇	三三五	三三三	三七七	三七七	三七七	三七七	三七七	三七七	三七七	三七七	三七七
ルイジアナ	一〇六	二六一	二六六	二六六	二七一	二二七	二二七	二二七	二二七	二二七	二二七	二二七	二二七
濠洲	二〇六	二四九	二四九	二四九	二四九	二四九	二四九	二四九	二四九	二四九	二四九	二四九	二四九
モリシヤス	一五五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五
比律賓	一一三	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四
臺灣	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四
伯刺西爾	一七六	二〇三	二〇三	二〇三	二〇三	二〇三	二〇三	二〇三	二〇三	二〇三	二〇三	二〇三	二〇三
秘露爾	一七六	二〇三	二〇三	二〇三	二〇三	二〇三	二〇三	二〇三	二〇三	二〇三	二〇三	二〇三	二〇三
其他	八四九	九二八	八四九	一,〇五九	一,一七二	九二二	一,一〇五	一,〇五九	一,〇五九	一,〇五九	一,〇五九	一,〇五九	一,〇五九
合計	九,三三三	九,八九四	一〇,三三三	一〇,七七一	一一,一七一	一二,三三八	一三,三〇八	一三,三〇八	一三,三〇八	一三,三〇八	一三,三〇八	一三,三〇八	一三,三〇八

産地	年次三三	三三—三四	三四—三五	三五—三六	三六—三七	三七—三八	三八—三九	三九—四〇	四〇—四一	四一—四二	四二—四三	四三—四四	四四—四五
獨逸	二,七三二	二,七三七	二,五〇〇	一,四〇〇	一,六三〇	一,五七〇	一,四一一	一,〇〇〇	一,三三〇	一,三三〇	一,三三〇	一,三三〇	一,三三〇
(埃匈及チエツクスロバツク)	一,九二九	一,六八五	一,〇三三	一,〇一一	九四四	六六八	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	八八九
(露國及ウクライナ、ポーランド)	一,三三三	一,七三三	一,九三三	一,四六七	一,二五八	一,一〇八	七〇〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇	三三〇
佛蘭	九六六	七六一	三三三	一三五	一八一	二〇〇	一〇九	一六五	二七五	二七五	二七五	二七五	二八五
和蘭	三三六	三三八	三三三	二四〇	二六九	一九九	一六四	二五〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三五六
白耳義	三〇〇	三三六	三〇四	二二二	一三五	一三〇	七五	一三五	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
合衆國	六四四	六五五	六四六	七七九	七三四	六二二	六七四	八〇〇	七五八	七五八	七五八	七五八	八五五
其他	七九	八三七	一,三三〇	七二五	五七四	四八五	四七一	六九	七五九	七五九	七五九	七五九	七五九
合計	八,九七五	八,八五五	八,八七三	五,八七三	五,六〇〇	五,九六四	四,三九四	四,〇八四	四,六三四	四,六三四	四,六三四	四,六三四	五,三七五

一 十 十 十 九 八 七 六 五 四 三 二 一

二 一

月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月

大 正 八 年

日 本 (單位千圓)

輸 入

輸 出

英 國 (單位千磅)

輸 入

輸 出

大 正 七 年 (九) 日 英 米 外 國 貿 易 月 表 (過 去 五 年)

附 番 入 出 輸 品 要 重 (八)

Table with columns for '入 輸' (Imports) and '出 輸' (Exports), listing various goods like '大豆', '棉花', '糖', '鐵', etc., with numerical values and regional breakdowns.

十十九八七六五四三二一 十十九八七

二一

月月月月月月月月月月月月月月月月月月月月

大

正

十

年

一五四、三八
一七五、〇六〇
一五四、三五四
一三三、八一四
一〇四、六〇六
八七、四〇三

一五七、一三三
一三三、一九七
一七、六〇〇
一〇七、六七〇
一〇八、〇三三
一〇五、一四五

一三七、四五一
一四、九〇三
一七、四五六
一一、二九五
一〇九、三六五
九六、六三一

一四九、四九四
一三九、八八七
二二九、三四二
一三三、七五五
一三一、一四五
一三〇、〇八六

六五四、〇〇〇
五七八、一八二
六〇五、二九一
七五一、七二九
六七五、〇〇〇
七三〇、〇〇〇

五三七、〇〇〇
五三三、一一一
三六三、二八〇
三三四、六七五
三二一、〇〇〇
二六六、〇〇〇

六五四三二一 十十九八七六五四三二

二一

月月月月月月月月月月月月月月月月月月月月

大

正

九

年

一二五、六六九
一三三、七〇五
一四二、一八七
一五六、八八七
一五一、一五八
一八一、二八九
一九八、三三三
一七二、六六一
二二五、六八二
二二八、六二四
二七六、九八一

一七〇、五四二
一六九、九一八
二〇八、〇〇三
一八六、〇〇七
一七六、二二〇
一四四、五六七
一九六、六七七
一九六、六二〇
一七九、七九〇
一八三、三〇〇
二二五、一三三

四六、九一五
五三、一〇八
五八、四八二
六四、三四四
六四、五六二
六五、三一五
七四、七七五
六六、五〇〇
七九、〇六一
八七、一一〇
九〇、八九八

一〇一、九五〇
九六、八二五
九八、八六四
一二四、一六二
一一〇、九八二
一四、三八三
一三三、五二一
一三一、八七六
一三三、八四四
一三三、二九八
一四三、五七五

五八五、〇九七
六〇三、一四一
七二四、八〇〇
六〇三、九六七
九二八、三七九
五六八、六八七
六四六、〇五四
五九四、二一四
六三一、六八九
七四〇、〇四二
六八一、六四九

二三五、二二四
二六七、五九六
二七二、九五六
三二八、九二五
二九二、九一五
三四三、七四六
三〇七、二九五
四二五、四四八
四〇一、八四五
四三四、八二四
三八〇、七一〇

品名	十一月	十二月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
生糸	一四六、〇七〇	一六一、四三九	六八、五七八	八五、三二二	二九六、三〇六	三三七、三七三	二七八、八四八	二一七、一八五	二七〇、〇四七	四一七、一四二	六七〇、〇四二	一四七、七三三	一四七、七三三	一四七、七三三
綿糸	八七、二七〇	一七八、八〇六	六七、三六二	九四、九二二	二七八、八四八	二一七、一八五	二七〇、〇四七	四一七、一四二	六七〇、〇四二	一四七、七三三	一四七、七三三	一四七、七三三	一四七、七三三	一四七、七三三
銅織	一〇一、四三〇	一九七、五四二	七五、六三九	九五、六〇〇	二五〇、六一九	二一五、七四三	二五〇、六一九	二一五、七四三	二五〇、六一九	二一五、七四三	二五〇、六一九	二一五、七四三	二五〇、六一九	二一五、七四三
綿織	一四、九七八	二〇七、三四四	六八、六七六	八五、〇一五	三三〇、三三六	三二八、四六一	三三〇、三三六	三二八、四六一	三三〇、三三六	三二八、四六一	三三〇、三三六	三二八、四六一	三三〇、三三六	三二八、四六一
綿織	二九、六七八	一八八、八九一	六八、八九二	七六、九四四	三一八、四六一	三一七、〇三三	三一八、四六一	三一七、〇三三	三一八、四六一	三一七、〇三三	三一八、四六一	三一七、〇三三	三一八、四六一	三一七、〇三三
綿織	一五五、四八一	一七三、七八六	六七、五三六	八二、六六一	三〇七、五六八	三〇七、五六八	三〇七、五六八	三〇七、五六八	三〇七、五六八	三〇七、五六八	三〇七、五六八	三〇七、五六八	三〇七、五六八	三〇七、五六八
綿織	一四七、一三三	一五九、三三三	六八、七三六	八一、七八四	三三五、一一六	三三五、一一六	三三五、一一六	三三五、一一六	三三五、一一六	三三五、一一六	三三五、一一六	三三五、一一六	三三五、一一六	三三五、一一六
綿織	一四四、六六九	一四三、二〇一	六〇、八六六	八四、二九八	三〇一、一五七	三〇一、一五七	三〇一、一五七	三〇一、一五七	三〇一、一五七	三〇一、一五七	三〇一、一五七	三〇一、一五七	三〇一、一五七	三〇一、一五七
綿織	一四九、九九八	一三八、五四八	六七、〇一〇	八八、八四四	三〇一、一五七	三〇一、一五七	三〇一、一五七	三〇一、一五七	三〇一、一五七	三〇一、一五七	三〇一、一五七	三〇一、一五七	三〇一、一五七	三〇一、一五七
綿織	一四九、九八一	一三五、一三三	六四、七〇八	八〇、六六一	三二二、一九六	三二二、一九六	三二二、一九六	三二二、一九六	三二二、一九六	三二二、一九六	三二二、一九六	三二二、一九六	三二二、一九六	三二二、一九六
綿織	一六一、九三九	一〇六、六八六	七四、七三五	八七、八七九	三七〇、七二八	三七〇、七二八	三七〇、七二八	三七〇、七二八	三七〇、七二八	三七〇、七二八	三七〇、七二八	三七〇、七二八	三七〇、七二八	三七〇、七二八
綿織	一四〇、四七三	一六六、八七五	六八、五〇九	六九、七七五	三八〇、〇五六	三八〇、〇五六	三八〇、〇五六	三八〇、〇五六	三八〇、〇五六	三八〇、〇五六	三八〇、〇五六	三八〇、〇五六	三八〇、〇五六	三八〇、〇五六
綿織	一五八、四四六	一四四、一五九	七一、六〇六	七六、四八八	三四四、四三五	三四四、四三五	三四四、四三五	三四四、四三五	三四四、四三五	三四四、四三五	三四四、四三五	三四四、四三五	三四四、四三五	三四四、四三五

品名	大正七年	同八年	同九年	同十年	同十一年
生糸	三三〇、三二七、〇五五	六三三、六一八、五〇七	三八二、七二六、八九八	四一七、一四二、一四二	六七〇、〇四七、五〇二
綿糸	一五八、三〇〇、〇一九	一一四、二二三、〇八一	一五三、三九三、九二一	八〇、五六八、〇〇二	一一四、七三三、二五五
銅織	三七、七四八、六四三	一九、六四七、一六七	一一、七二二、三三六	九、〇一九、六五六	一、五二四、四三三
綿織	二七、九一三、二〇〇	二八〇、三一一、〇六九	三三四、九六六、〇三六	—	三三三、〇三二、一九九
綿織	一三、六二六、八六二	一三、〇六七、三三二	—	二、〇二五、九九七	一七、六六六、九五三
綿織	二七、七四二、六六三	三三、九六八、三五二	二八、四五三、一〇七	一六、二九九、三八三	一五、五六三、七四六
綿織	三三、〇〇九、四九四	三七、七二三、五七四	四三、二〇〇、一一七	三七、八二四、九六〇	三三、五三三、九八五
綿織	三三、二五二、一八六	二二、六二七、二九五	三〇、五九二、九三〇	一五、七九九、〇九六	一九、〇九二、〇二九
綿織	二二、〇五六、三九七	一八、四〇二、〇五四	一七、一一三、五四八	七、七八八、五三六	一七、八二八、八八二
綿織	一九、九五七、七八二	二二、六二九、七七五	三二、四五二、二五二	二〇、七九一、九〇五	三、二〇〇、九九三
綿織	一一、九九六、二一八	二〇、〇一四、五八七	二二、九六〇、八八八	七、〇三二、〇〇〇	一一、二九三、七三四
綿織	八、一三二、九六五	四、三七七、六九〇	五、九〇二、五一四	三、三七五、二六一	七、一四八、九〇四
綿織	一七、八〇四、九三五	二二、九九六、二一五	二九、一二九、五七八	—	一四、一六一、七三六
綿織	二七、〇一一、六〇五	一九、九八八、五一八	—	六〇六、五〇八	一四、五三一、五三七
綿織	三、六八〇、三七五	七、八八三、八七五	四、九六五、三五〇	二、八七〇、四一四	七、二四六、一五五
綿織	八、九八〇、三〇三	七、六〇三、三五九	八、六八五、四一一	三、一八五、一〇二	四、〇二二、三八八

(十) 輸出重要品累年比較

(單位圓)

品名
實棉及縲棉
鐵類
羊毛類
機糖類
砂糖類
苧麻類
豆類
紙類
石類
米類
毛織物
革類
小礦
麥石類

(十一) 輸入重要品累年比較

(單位圓)

品名	同七年	同八年	同九年	同十年	同十一年
實棉及縲棉	五二五,五五八,九八九	六六七,八六六,六五一	七二一,四三七,四五〇	四四〇,七八三,九二二	四三七,八四〇,八九一
鐵類	二八二,六七三,四〇一	二二七,九八八,八七三	二五七,九九二,〇七四	一三五,七四四,〇五八	二二七,七三三,九四一
羊毛類	六〇,四四六,一五七	六一,三〇四,二四五	一一一,六三九,四五八	三三,三〇三,六五三	五五,三六七,〇二二
機糖類	五八,四九七,九九八	八九,三二一,九二六	一一〇,五七一,三七八	一一九,八八二,一六四	一一四,三七一,〇三五
砂糖類	三三,五二五,四五三	五八,一八三,五七五	六〇,二二二,三六四	六九,八二五,三三七	九三,九四四,二六五
苧麻類	二二,七九,九〇八	一六,七八二,六一九	一五,二三八,八九一	一,八八六,三七二	一七,四〇九,七七七
豆類	二〇,三九五,九七一	三五,三〇三,六二八	四七,六五三,七四〇	二四,六九一,〇七六	三九,六〇七,二一八
紙類	九,三九五,四九〇	一八,三八六,八九二	一七,四〇八,二七〇	一三,二四七,一八一	一八,九六五,〇九六
石類	八,五三七,六一五	二二,六七五,六四六	二二,二七二,六八〇	一六,七二一,三三三	一八,七八九,七〇七
米類	八九,七五五,六七八	一六二,〇七〇,八四〇	一八,〇五九,九四四	二八,八二二,九三三	六二,二七五,七三四
毛織物	一一,四八五,五一二	一一,三〇一,三〇〇	三二,二七〇,三六六	一五,一七三,九四四	四九,九五三,〇三五
革類	三,五二七,二六四	五,三八八,一六九	八,一八六,九二二	六八九,四六四	七,四八九,五三八
小礦	—	—	—	—	—
麥石類	—	—	—	三二,五五一,〇五三	—

(十二) 對外國別貿易表

(單位千圓)

國別	大正七年		同八年		同九年		同十年		同十一年	
	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入
(亞細亞)國別	三五一,二五〇,二八一,七〇七	四四七,〇四九	三三三,一〇〇	四〇〇,二七〇,二八八,〇八八	二八七,三七七	一九一,六七八	三三三,五三〇	一六八,三四三	—	—
支那	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
關東洲	一二六,三八二,一〇〇,六八九	一五〇,三二九	一六二,三九四	一一三,六八五,一六六,八六三	七,五六九	一一,九三二	七二,五三〇	一三〇,五七四	—	—
香港	六三,七七一	八三三	五九,一五三	—	—	—	—	—	—	—
英領印度	二〇三,五三三,二六八,一八五,一一六,八七八	三一九,四七七	三一九,四七七	一九一,二五〇,三九四,九三〇	八四,五〇三	二二〇,三六五	三七,二〇三	三四五,〇八八	—	—
同海峽殖民地	四三,二〇八	二九,三三三	二九,八四四	二八,〇〇九	三五,七三〇	一七,三七七	二二,八三五	二二,三四一	—	—
蘭領印度	七二,六七七	四八,八三七	五七,三五四	六五,五三三	一〇七,二三五	六八,六二八	五四,二二〇	七〇,四三七	—	—
佛領印度	一〇,〇三〇	五五,四〇七	一,五四四	一三四,二三四	三,四四四	二〇,六一八	一,〇三三	一九,〇六三	—	—
露領亞細亞	四〇,〇五六	四,三三六	七〇,九五八	四,九二四	二二,八八〇	三,八三二	一三,七四二	六,八六三	—	—
比律賓諸島	二五,五〇〇	一七,四三八	一八,五五六	一五,五三〇	三四,三七六	一六,四〇四	一七,九三二	一八,一六〇	—	—
暹羅	六,〇七六	五,七三〇	三,五二八	二九,九三七	四,二〇〇	三,二四五	二,六五三	一一,二五八	—	—
其他諸國	二七五	三六三	一四八	六一	二四二	五六六,一九七,二二九	四七	一三二	—	—
合計	九三五,五七三,八二二,八九九,一四五,一〇七,四,三七〇	九九八,三七三,九四二,五四六,六三〇,〇九〇	六六六,六四八,六七三,二八五	七三八,〇三二	—	—	—	—	—	—

英	一四二、八六六	六六、〇六七	一一、三四三	一三七、五四一	九七、七九七	二三三、二二五	三三、七七三	一八四、三〇六	五四、四三七	三三三、三〇〇
佛	一四三、一九九	三、七三〇	六六、八一五	八、八三一	七一、六五二	一四、四八一	三五、一六六	一一、六六一	七八、六八六	一八、四六二
獨	—	三、四三〇	六三	三五八	一、〇六四	一五、一六	二、二六	四七、七三	三、七二四	一一〇、六三
白	—	—	—	—	四、五二一	三、九六四	六〇一	八、一〇〇	一、八八六	一四八、四四
伊	二、五七七	六二	三、四三〇	四九	六、三七六	二、二六	二、三二七	一、七六二	五、〇九六	二九、六
瑞	五、五五	二、二七八	四〇八	七二	一三五	九、一九四	四三	九、五九六	一六五	一一、九三八
奧	—	—	—	—	三七九	三五	二六	六八	一六	—
和	二四	一、七四六	一、四六八	三、一六六	七、九〇〇	六、二八一	九二九	三、四四六	一、六八三	三、一五三
瑞	四八	三、七〇〇	七三一	一一、二八四	四一四	一七、三八二	一九一	一三、八二七	四六三	一三、一七六
諾	—	—	—	—	八三	一、二九八	五	五〇八	—	—
露	一六三	六八五	四六四	二〇〇	二〇九	三八六	—	四三七	—	—
西	一八七	二五九	二〇九	九六六	七〇〇	一、〇三四	三九五	七三八	六二〇	—
丁	五〇	四〇	一、二八一	二二二	一、五三四	七二七	二四九	一三三	二八一	—
土	—	—	—	—	七三六	六〇三	—	九、三七〇	二四六	—
葡	—	—	—	—	一〇九	一一	六	二九〇	二六	—
其他	六四八	一四	五三六	三九	二、一八四	四七五	三五	四一	六〇三	—
合	二九八、二五六	八二、七八六	一九四、八五一	一六二、九六九	一九五、五九〇	三〇五、一七三	七五、四四二	二八一、八一	一四七、九七五	四四、一六七

英	一四二、八六六	六六、〇六七	一一、三四三	一三七、五四一	九七、七九七	二三三、二二五	三三、七七三	一八四、三〇六	五四、四三七	三三三、三〇〇
佛	一四三、一九九	三、七三〇	六六、八一五	八、八三一	七一、六五二	一四、四八一	三五、一六六	一一、六六一	七八、六八六	一八、四六二
獨	—	三、四三〇	六三	三五八	一、〇六四	一五、一六	二、二六	四七、七三	三、七二四	一一〇、六三
白	—	—	—	—	四、五二一	三、九六四	六〇一	八、一〇〇	一、八八六	一四八、四四
伊	二、五七七	六二	三、四三〇	四九	六、三七六	二、二六	二、三二七	一、七六二	五、〇九六	二九、六
瑞	五、五五	二、二七八	四〇八	七二	一三五	九、一九四	四三	九、五九六	一六五	一一、九三八
奧	—	—	—	—	三七九	三五	二六	六八	一六	—
和	二四	一、七四六	一、四六八	三、一六六	七、九〇〇	六、二八一	九二九	三、四四六	一、六八三	三、一五三
瑞	四八	三、七〇〇	七三一	一一、二八四	四一四	一七、三八二	一九一	一三、八二七	四六三	一三、一七六
諾	—	—	—	—	八三	一、二九八	五	五〇八	—	—
露	一六三	六八五	四六四	二〇〇	二〇九	三八六	—	四三七	—	—
西	一八七	二五九	二〇九	九六六	七〇〇	一、〇三四	三九五	七三八	六二〇	—
丁	五〇	四〇	一、二八一	二二二	一、五三四	七二七	二四九	一三三	二八一	—
土	—	—	—	—	七三六	六〇三	—	九、三七〇	二四六	—
葡	—	—	—	—	一〇九	一一	六	二九〇	二六	—
其他	六四八	一四	五三六	三九	二、一八四	四七五	三五	四一	六〇三	—
合	二九八、二五六	八二、七八六	一九四、八五一	一六二、九六九	一九五、五九〇	三〇五、一七三	七五、四四二	二八一、八一	一四七、九七五	四四、一六七

年次	輸出	輸入	合計	輸出超過
同十一年	一,九六二,〇〇〇	一,六六八,一四三	三,六三〇,一四四	出 二九三,九五六
同十年	二,〇九八,八七三	二,一七三,四五九	四,二七二,三三二	入 七四,五八七
同九年	一,九四八,三九四	二,三三六,一七四	四,二八四,五六八	入 三八七,七八〇
同八年	一,二五三,八三七	一,六一四,一五四	二,八六六,九九一	入 五六一,三七
同七年	一,六三七,四五二	一,八九〇,三〇八	三,五二七,七五九	入 二五二,八五七
同六年	一,九六二,〇〇〇	一,六六八,一四三	三,六三〇,一四四	出 二九三,九五六
同五年	二,〇九八,八七三	二,一七三,四五九	四,二七二,三三二	入 七四,五八七
同四年	一,九四八,三九四	二,三三六,一七四	四,二八四,五六八	入 三八七,七八〇
同三年	一,二五三,八三七	一,六一四,一五四	二,八六六,九九一	入 五六一,三七
同二年	一,六三七,四五二	一,八九〇,三〇八	三,五二七,七五九	入 二五二,八五七
同一年	一,九六二,〇〇〇	一,六六八,一四三	三,六三〇,一四四	出 二九三,九五六

(十三) 本邦對外貿易年別 (單位千圓)

年次	輸出	輸入	合計	輸出超過
同十一年	一,九六二,〇〇〇	一,六六八,一四三	三,六三〇,一四四	出 二九三,九五六
同十年	二,〇九八,八七三	二,一七三,四五九	四,二七二,三三二	入 七四,五八七
同九年	一,九四八,三九四	二,三三六,一七四	四,二八四,五六八	入 三八七,七八〇
同八年	一,二五三,八三七	一,六一四,一五四	二,八六六,九九一	入 五六一,三七
同七年	一,六三七,四五二	一,八九〇,三〇八	三,五二七,七五九	入 二五二,八五七
同六年	一,九六二,〇〇〇	一,六六八,一四三	三,六三〇,一四四	出 二九三,九五六
同五年	二,〇九八,八七三	二,一七三,四五九	四,二七二,三三二	入 七四,五八七
同四年	一,九四八,三九四	二,三三六,一七四	四,二八四,五六八	入 三八七,七八〇
同三年	一,二五三,八三七	一,六一四,一五四	二,八六六,九九一	入 五六一,三七
同二年	一,六三七,四五二	一,八九〇,三〇八	三,五二七,七五九	入 二五二,八五七
同一年	一,九六二,〇〇〇	一,六六八,一四三	三,六三〇,一四四	出 二九三,九五六

國別	大正七年	同八年	同九年	同十年	同十一年
日本	出港 八,七五五 入港 八,五七〇	出港 一〇,六六一 入港 一〇,六四三	出港 九,七九六 入港 九,八〇二	出港 九,六九一 入港 九,七七五	出港 一〇,五六二 入港 一〇,五六三
支那	出港 一,二二二 入港 一,二二三	出港 一,一四一 入港 一,一四一	出港 一,一三三 入港 一,一三三	出港 一,一〇九〇 入港 一,一〇四	出港 一,一五五 入港 一,一五二
英國	出港 一,三三〇 入港 一,三〇六	出港 三,四八七 入港 三,五八八	出港 四,八三一 入港 四,七六一	出港 四,八九九 入港 四,八九九	出港 六,九四六 入港 六,九四六
佛國	出港 一,三三〇 入港 一,三〇六	出港 三,四八七 入港 三,五八八	出港 四,八三一 入港 四,七六一	出港 四,八九九 入港 四,八九九	出港 六,九四六 入港 六,九四六
獨逸	出港 一,三三〇 入港 一,三〇六	出港 三,四八七 入港 三,五八八	出港 四,八三一 入港 四,七六一	出港 四,八九九 入港 四,八九九	出港 六,九四六 入港 六,九四六
伊太利	出港 一,三三〇 入港 一,三〇六	出港 三,四八七 入港 三,五八八	出港 四,八三一 入港 四,七六一	出港 四,八九九 入港 四,八九九	出港 六,九四六 入港 六,九四六
奧國	出港 一,三三〇 入港 一,三〇六	出港 三,四八七 入港 三,五八八	出港 四,八三一 入港 四,七六一	出港 四,八九九 入港 四,八九九	出港 六,九四六 入港 六,九四六
和蘭	出港 一,三三〇 入港 一,三〇六	出港 三,四八七 入港 三,五八八	出港 四,八三一 入港 四,七六一	出港 四,八九九 入港 四,八九九	出港 六,九四六 入港 六,九四六
合計	出港 一,三三〇 入港 一,三〇六	出港 三,四八七 入港 三,五八八	出港 四,八三一 入港 四,七六一	出港 四,八九九 入港 四,八九九	出港 六,九四六 入港 六,九四六

(十四) 輸出入貿易船國別表 (單位千噸)

露光量違いの為重複撮影

本邦開港場左ノ如シ
 横濱、神戸、新潟、夷港、大阪、長崎、函館、清水、武豊、名古屋、四日市、糸崎、下ノ関、門司、若松、
 博多、唐津、住ノ江、口ノ津、三池、三角、殿原、佐須奈、鹿見、那覇、濱田、境、宮津、敦賀、七尾、
 伏木、青森、小樽、根室、釧路、室蘭、大泊、今治、徳山、鹿兒島、佐須奈、真岡

合 計	米 國	丁 抹	露 國	諸 威	瑞 典
噸 隻 數	噸 隻 數	噸 隻 數	噸 隻 數	噸 隻 數	噸 隻 數
一八、三二一	一、三九一	一、三九一	五、四二一	二、四三三	三、五三三
一七、七七二	一、三九一	一、三九一	五、四二一	二、四三三	三、五三三
三三、〇三八	一、一八六	一、一八六	二、四四〇	六、四三三	四、一七
三三、七四三	一、二〇六	一、二〇六	二、九三三	七、三九	五、一八
三六、五三三	三、一三三	三、一三三	二、〇三三	五、七三	五、一九
三六、〇八二	三、一四八	三、一四八	一、八九	五、七三	六、三〇
二七、八三三	二、五二三	二、五二三	九、三三	三、八八	九、八
二七、九三〇	二、五二〇	二、五二〇	九、二	三、八八	九、八
三五、五五六	三、四三二	三、四三二	一、七〇〇	三、九六	一、五二〇
三五、七四五	三、四三二	三、四三二	一、七〇〇	三、九六	一、五二〇

(十五)

開 港 場

海 運

本邦開港場左ノ如シ、
 横濱、神戸、新潟、長崎、大板、長崎、神戶、清水、武蔵、名古屋、四日市、津崎、下ノ関、門司、宇都、
 博多、唐津、仕ノ江、口ノ津、三池、三角、最原、佐須奈、鹿見、那覇、落田、境、宮津、敦賀、七尾、
 伏木、吉森、小樽、根室、釧路、宇崩、大泊、今治、徳山、鹿見島、佐須奈、真岡

	計	米	丁	露	諸	瑞
	向	向	向	向	向	向
	向	向	向	向	向	向
	向	向	向	向	向	向
(十五)	一三、九二二	一三、九二二	七、四〇〇	五、四四一	一〇、〇八〇	一〇、〇八〇
開	一三、九二二	一三、九二二	七、四〇〇	五、四四一	一〇、〇八〇	一〇、〇八〇
港	一三、九二二	一三、九二二	七、四〇〇	五、四四一	一〇、〇八〇	一〇、〇八〇
場	一三、九二二	一三、九二二	七、四〇〇	五、四四一	一〇、〇八〇	一〇、〇八〇
	一三、九二二	一三、九二二	七、四〇〇	五、四四一	一〇、〇八〇	一〇、〇八〇
	一三、九二二	一三、九二二	七、四〇〇	五、四四一	一〇、〇八〇	一〇、〇八〇
	一三、九二二	一三、九二二	七、四〇〇	五、四四一	一〇、〇八〇	一〇、〇八〇
	一三、九二二	一三、九二二	七、四〇〇	五、四四一	一〇、〇八〇	一〇、〇八〇
	一三、九二二	一三、九二二	七、四〇〇	五、四四一	一〇、〇八〇	一〇、〇八〇
	一三、九二二	一三、九二二	七、四〇〇	五、四四一	一〇、〇八〇	一〇、〇八〇
	一三、九二二	一三、九二二	七、四〇〇	五、四四一	一〇、〇八〇	一〇、〇八〇
	一三、九二二	一三、九二二	七、四〇〇	五、四四一	一〇、〇八〇	一〇、〇八〇
	一三、九二二	一三、九二二	七、四〇〇	五、四四一	一〇、〇八〇	一〇、〇八〇

海 運

◆大正十一年海運大勢

▽購入船壓迫と警戒 越年に際し疑問の謎として持ち越され、外船購入船腹消化に何等樂觀材料のない所へ搦て加へて新春劈頭山下、太平洋海運其他の手に一舉八隻六萬噸の購入成約を傳へ、一面世界的船腹の過剩は貿易界の不振と相俟つて、緊船漸増歩調を辿り米國の五百八十六萬噸を始め英國三百五十三萬噸其他二百六十一萬噸合計一千二百萬噸を傳へ内外市報とも悲觀現象に船主側の態度俄に軟弱になり先物契約を焦々爲め運賃界は益々軟弱に陥り若松濱一圓八十錢大連濱十七錢を唱へ遠洋方面もカーヂワ坡土四二十志(石炭)濠洲歐洲(小麥)六十志の慘落値を見る有様であつたか二月に入り對英爲替の騰貴と穀物類の荷動開始に市況稍々緊張味を加へ引續き英國の食料品輸入英炭の輸出旺盛等々太平洋方面は稍々安定的氣分を呈したが太平洋は依然

荷動閑散に同盟の破境近海方面も弗々解氷期到來せるも何分大型船の壓迫に頭を叩かれ唯だ期近物運賃のみは三月に入り稍々擡頭歩調を辿り年初三ヶ月大勢は左の如きものであつた

遠洋備船料	三、八錢	二月	三、〇錢	三月	三、〇錢
近海備船料	三、〇錢		三、〇錢		三、〇錢
倫敦備船料	四志半		五志		五志
南米英國運賃	三志		三志		三志
若松濱運賃	一、八錢		一、九〇錢		二、三〇錢
新造標準船價	一、〇圓		一、〇圓		一、〇圓

▽大型船近海割込壓迫 近海各方面解氷に近海航路は稍々活氣を加へたが肝臂の太平洋方面が米國の石炭罷業穀物類引合一段落等が再び市況軟弱緊船増加傾向に轉じ國際勝田の大型船が豆粕積取割込あり一面購入船の續々廻航を見るに云ふ有様に近海運賃は再び叩かれ北見長阪材木丸材百七十圓それが百六十圓に低落遠洋方面は五月に入り米炭罷業に英炭の對米輸出米太平

洋岸の歐洲向け小麦出廻りに國際汽船が一舉五六隻を成約する續いて大連歐洲の引合現はれ大型船の需要起り大型船繋船の不幸は免れたが英米船主の乗組員給料三割引下斷行等船費節減に各國船主が努力し而も配船採算は最低噸當七十錢最高一圓十錢を出でぬ慘狀で繋船は減少したか船主の採算には何等好影響を齎らさなかつた左に近海活躍第一期の四五六の三ヶ月間大勢を示す

遠洋備船料	四月 二、五〇錢	五月 二、五〇錢	六月 二、五〇錢
近海備船料	三、五〇錢	三、〇〇錢	二、六〇錢
倫敦備船料	五志	四志半	四志半
南米歐洲運賃	二、五錢	三、〇〇錢	三、六志
若松濱運賃	二、五錢	二、一〇錢	二、五錢
新造船價	一〇〇圓	一〇〇圓	一〇〇圓

▽夏枯閑散に船主悲鳴。遠洋方面は英炭並に小麦輸送に稍小康を保つに至りたが近海は山下栗林の大連青島航路割込み等も船腹消化に影響なく輸入船の着々配船

に運賃界は若濱一圓七八十錢北見兵阪丸材百五十圓沿海州内地百三四十圓、慘落に船主の採算は直接船費を支ふ能はざる悲慘に先づ國際、川崎、勝田及帝國の四社が樺太材木運賃の最低運賃協定を爲し次いで勝田氏を主唱とする所謂海運不況對策研究が船主協會の問題となり遂に共同繋船案の討議に輿論喚起に努めたが大船の需要が英炭の對米輸出大手合と北米材木輸入が再び開始され智利硝石の輸出等漸次樂觀的傾向を辿れるも近海方面は依然閑散を脱せざない船主協會は結局共同繋船案に代るに炭價調節諸係り税金等の低減に就て政府に陳情を爲すと云ふ姑息的徵音活動や市況に何等好影響を與へなかつた唯だ八月に入り漁業用船腹の日貸チャーター現はれ小型船界を多少刺戟したのみで下半期前半大勢は左の如く益々不利であつた

遠洋備船料	七月 二、五〇錢	八月 二、五〇錢	九月 二、三〇錢
近海備船料	三、三〇錢	三、〇〇錢	三、三〇錢
倫敦備船料	三志六片	三志六片	四志三片

南米歐洲運賃 三三志 三四志 三三志
若松濱運賃 一、八〇錢 一、七五錢 二、〇五錢
新造船價 一〇〇圓 一〇〇圓 一〇〇圓

▽近海材木運賃突飛。海運界悲境の極に陥り運賃備船料とも採算點を突破せる割安を見込める思惑が山下栗林兩會社に依つて企てられ割安物のチャーター成約續々成立に市況稍々挽恢復氣運を齎せざる矢先十月に入り樺太沿海州材の俄に出廻もあり而も其積取は天候不良に一齋遅延と云ふ關係から船腹需要旺盛となり川崎國際等の大型船は太平洋配船方針を採つた云ふ關係から近海方面は船腹拂底を告げ一時百三十隻の就航と云ふ有様で運賃界は北見内地百七十圓樺太沿海州百八九十圓を突飛し大型船の消化亦十一月に入り十七隻十六萬噸を數へ掉尾の活躍を演じたが十二月に入り材木積取終了結水航路の終航と相俟つて再び不安に襲はれ僅に濠洲小麦の積取位で又々船腹過剩傾向に轉じ市況惡化北米材木積取不振等で一大不安の裡に越年した左に後半期の市況を示す

遠洋備船料	十月 一、五〇錢	十一月 一、五〇錢	十二月 一、三〇錢
近海備船料	三、五〇錢	三、〇〇錢	二、三〇錢
倫敦備船料	四志三片	五志七片	四志六片
南米歐洲運賃	三三志	三五志	二七志
若松濱運賃	一、八〇錢	一、七〇錢	一、五錢
新造船價	一〇〇圓	一〇〇圓	一〇〇圓

▽大勢は不況ドン底。以上の如く大型船の遠洋消化で購入船の壓迫に何も繋船を免れ終航眞際に於ける樺太材木運賃の突飛に花火線香的活躍を見せたが荷役の遅延航海延長等で結局船主の採算は收支を償ふに至らず太平洋の安定に對し東洋は船腹過剩に自暴自棄的波瀾を惹起した左に十一年度海運大勢を示す

積揚地	最高	最低
若濱(石炭)	二、一〇	一、六五
同上(海同)	二、〇〇	一、七〇
門司新嘉坡(同)	四、九〇	三、七〇

レコードを略記する

一月次	十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月	五月	四月	三月	二月	一月次
北船名	金					櫻				鳥	七	船
備船料	1,700,000					1,100,000				1,150,000	93,000	新造買船
佐船近	豊多	吉				日長				連嘉	新	船名重量噸當
川名	橋喜	林				海府				勝代	宮	船名重量噸當
備船料	300,000	300,000				300,000				600,000	53,000	船名重量噸當
	4,000											船名重量噸當

六月	五月	四月	三月	二月	十一月	十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月	五月	四月	三月	二月
二二	二三	二三	二四	二四	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六
五、九九六	六、三九八	六、九八八	九、四九八	九、五九八	九、五九八	九、五九八	九、五九八	九、五九八	九、五九八	九、五九八	九、五九八	九、五九八	九、五九八	九、五九八	九、五九八	九、五九八
十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月	五月	四月	三月	二月	十一月	十二月	十一月	十月	九月	八月
二五	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六
九、六八	八、六三〇	七、六四三	七、三九二	七、二四四	六、二四四	六、二四四	六、二四四	六、二四四	六、二四四	六、二四四	六、二四四	六、二四四	六、二四四	六、二四四	六、二四四	六、二四四
十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月	五月	四月	三月	二月	十一月	十二月	十一月	十月	九月	八月
二五	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六
九、六八	九、六八	九、六八	九、六八	九、六八	九、六八	九、六八	九、六八	九、六八	九、六八	九、六八	九、六八	九、六八	九、六八	九、六八	九、六八	九、六八

沿北	見海	州州	内地	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
八、〇〇〇	六、〇〇〇	四、〇〇〇	三、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇
二、〇〇〇以下	三、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇
五、〇〇〇	四、〇〇〇	三、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇

蓋しこれが原因は購入船四十六隻二十七萬噸(重量)にある併し世界的船腹の増加は左の如く極めて微々たるものである

△船泊現在數

日本	世界
三、五五二噸	六、三二二噸
三、三三二噸	八、八二六噸

△進水船

日本	世界
八三、二九七噸	二、四七七噸
二二、八五〇噸	四、三三〇噸

▽航路の開鎖 外國汽船會社は着々配船充實新航路開始を競ふるが我汽船は努めて消極的に配船減少休航主義を採り新航路としては山下栗林両汽船の青島並に大連航路東洋汽船の瓜哇航路位ひて公然閉鎖した航路もなかつた

△以上を以て十一年度の海運大勢を概説したがこれが結論として左に全年度に於ける備船並に買船の各月

同同同同同同同同	取頭	同同同同同同同同
五二二二二二一一四	一〇八	四二三三一一二二二
三三四四四四四五	一〇八	三〇四四四四四五
八九〇二二二二二	一〇八	三〇四四四四四五
深矢太吾中大神北南	日東國大日	北山笠原長橋英韮田
川吹陽妻野家棧洋洋	清洋際阪本	洋崎原福谷和商船
汽真汽汽次商汽汽貿	元進勸	商汽商真汽株商
船二船船船船船船	海	船船事一船式會船
同同同同同同同同	事	同同同同同同同同
一一一一一一三三一	報	三二一一一一三一
三三三三三三三三三	社	二二三三三三三三三
九九〇一〇一〇一〇	社	九九〇一〇一〇一〇
松草山田山神淺新右	元	袖山緒南田河葛大
方塙本中下港野田近	元	浦本明島村內原關
正舶商次三汽船汽商	元	汽次圭商合猪直
熊部事郎郎船所船事	元	船郎造行藏平次回
同同同同同同同同	元	同同同同同同同同
二二三二五三一一一	元	一二三一一一一一三
二二二二二二二二二	元	二二二二二二二二二
四四四四四四四四四	元	四四四四四四四四四
相帝清岡澤小山白馬	元	田笹高鑄大菅永八相
馬國水田口栗科田場	元	島用辻木阪谷田木馬
合製太汽汽濟禮四合	元	信三太郎船株三商
名糖郎船船汽藏郎資	元	一信三太郎船株三商
元	元	元
二五六一七四四六五	元	一四七一四七一四
二二六六八二二二二	元	一二三三三三三三三
二二七二九二二二二	元	一〇〇〇〇〇〇〇〇〇
鹿日阿共字尼遼北南	元	臺朝南義遞農內鐵大
兒魯波同和崎東日洋	元	灣鮮滿勇遞農內鐵大
島國共島運汽汽郵	元	總總總總總總總總
郵漁漁運汽汽郵	元	督督督督督督督督
船業同業船船船船	元	府府道會省省省

同同同同同同同同	日本船主番附	同同同同同同同同
五一七〇二八七	(大正十一年十二月末)	三九四六三一八
一六七八三〇三	總噸數二百噸以上)	一七七〇二二三
一六七八三〇三	司行	一七七〇二二三
東東京神東神神西	司行	大東大東神神大
京京京京京京京京	司行	連戶京阪京戶阪
明日野共中勝太山	司行	大東旭廣栗帝川岸
海下口立村田洋下	司行	正和 海林園崎本
運汽汽汽七汽汽汽	司行	海汽石商商汽汽汽
同同同同同同同同	司行	同同同同同同同同
二二九四五一四四八	司行	三三六四四〇八六〇
〇〇三三三三三三三	司行	〇〇三三三三三三三
三三三三三三三三三	司行	三三三三三三三三三
大東神西山神神小	司行	神大東小神樺東神
連戶連戶宮口戶戶樽	司行	戶阪戶京樽戶太京
東日大橋八鳥神乾	司行	神山內東板岡樺北
海本連本馬谷戶慶	司行	戶本田京谷崎太海
汽汽汽汽兼汽棧合	司行	商汽汽海商汽汽鑛
船船船船船船船船	司行	同同同同同同同同
同同同同同同同同	司行	同同同同同同同同
三三三三三三三三三	司行	四三四三三三八三六
七七七八八八八八	司行	七七八八八八八八
三五六八二二二二二	司行	三五六八二二二二二
橋濱村攝藤原松關大	司行	佐藤酒小松山和浪濱
本根尾津山田田東洋	司行	商精商汽汽汽汽汽
合店資船吉船船船	司行	會糖店船船船船船
同同同同同同同同	司行	同同同同同同同同
二二二二二二二二二	司行	五三二二二二二二二
五五五五五五五五五	司行	五五五五五五五五五
大五正大奧田日白	司行	木山崎原菱中田林大
連光正中下洋日本	司行	佐藤商汽汽鑛造鑛汽
佐商汽榮商久商海	司行	國會吉事太船運船

□世界大船主 (所有船十萬噸以上)

(一九二二年六月現在)

船主名	國籍	隻數	總噸數
米國船舶院	米	二、三三九	二、七五、〇〇〇
英國船舶管理局	英	二六二	九四一、五七七
英印汽船	同	一八三	九〇七、三五七
佛國政府	佛	三六〇	八三三、九四四
フワーネス	英	一七〇	七六五、二〇七
ホルト	同	八一	五九〇、九三七
エラーマン	同	一〇八	五六八、六三三
日本郵船	日	一六	五六七、〇二五
トランス、アトランス	佛	一	五三七、五九九
ベニンスラー	英	六	五八、二四
白星線	同	三	四八八、三二
スタンダード石油	米	七〇	四五五、三六七
大阪商船	日	一四	四三七、四七五
キユーナード	英	三	四三三、五一
アンタロパクソンベトロン	同	九	四〇六、五三四
加奈陀太平洋	同	七	四〇三、六五六
和米汽船	英	五	三七六、三七二
ローヤル、メーブル	佛	六	三七二、九七八
メツセー、ジリース	和	六	三六四、八二七
ネザーランド	英	四	三五七、七三五
ユニオン、カツスル	同	四	三五二、七三一
エルダーデンブスター	同	八	三五〇、〇四三
ランボート、ホルト	同	五	三三八、二五三
ロイド、ローヤル	同	五	三三八、五三三
クラン	白	一	三〇八、〇八八
國際汽船	日	一	三〇一、八一九
加奈陀政府	英	一	二九七、二五
チャチャール	佛	一	二九七、一五一
プリチツシユタンカー	英	一	二八九、四八一
ロツターダム、ロイド	和	一	二八九、一八三
レーランド	英	一	二七七、二五三
カレント	同	一	二七三、四一四

ユニオン汽船	同	八一	二六八、二七七	アンカー	英	二七	一八〇、一八六
濠洲政府	同	六三	二五六、三八九	ソーダー	西	一	一七八、五二六
伊太利政府	伊	七三	二四七、八三三	コニククリツケバード	和	九	一七六、四八五
ウイルヘルム、ソン	諾	五	二四七、〇四〇	パンエーマー	米	三	一七五、四四五
ハイン	英	四	二三三、二五七	米合衆國汽船	同	三	一七四、八三六
ユナイト汽船	丁	二	二二九、四五〇	ロイドトリエスチノ	伊	四	一七四、七九二
伯利西爾政府	伯	四	二二八、五二一	ハミルトン、ゼー	英	四	一五一、一三三
太平洋汽船	英	四	二二八、四三〇	ウエヤー、アンドリウ	同	四	一四八、七六五
フエデラル	同	二	二〇八、五八四	プロストン	同	四	一四三、〇八八
漢米線	獨	一	一九九、八三三	チャイナ、ネビゲーション	同	七	一三九、五八五
コンモンウエルス植民	英	二	一九六、五四八	サヴルーアルピロン	日	七	一三九、三六二
ローヤル、バケツト	和	三	一九五、六七七	東洋汽船	同	九	一三八、〇四六
エラーマン	英	七	一九四、四五五	オスタレアテスク	丁	五	一三七、三六六
米國製綱	米	三	一九二、七三三	ホルダー、プロス	英	六	一三五、七三四
アンカープロツクル	英	二	一九〇、三八七	新西蘭汽船	新	七	一三二、九一三
スタンダード運送	米	三	一八六、〇三七	カールソン、ヂー	瑞	三	一三〇、七八五
コンモンウエルス	英	二	一八二、三四四	南太平洋汽船	米	二	一二七、八三六
ローヤル、ネザーランド	和	四	一八〇、五七二	エラマン、ブツクナル	英	二	一二七、四〇〇

和 日 伊 佛 諾 獨 米 英 國
 蘭 本 太 國 威 逸 國 國 別
 帆 汽 帆 汽 帆 汽 帆 汽 帆 汽 帆 汽

噸數	同 六年	同 七年	同 八年	同 九年	同 十年	同 十一年
二〇、四六三、八八一	一七、六九七、〇八一	一八、二〇八、二〇八	一八、二〇八、二〇八	二〇、一四二、八八〇	二一、五八八、六〇六	二一、六二五、〇〇九
四三、八、一一八	五、一三四、四六	二、九八三、二五六	一、九八三、二五六	四、五七四、三七五	四、八二、一九二	四、三七、五一一
五、二六、二二五	一、〇三二、六四六	一、〇八八、五二七	一、〇八八、五二七	一、四七四、九一四	一、五、七四六、三八四	一、五、八〇八、四六二
三、八九〇、五四二	二、六三五、〇〇〇	三、二四七、二五三	三、二四七、二五三	四、一九、四三八	一、二七九、六二八	一、二七九、六二八
二、六三三、九〇〇	一、四六三、九〇〇	一、五九七、二九九	一、五九七、二九九	二、五三、二五三	六、五四、四〇七	一、〇一、六四一
五〇七、一三三	一、五一、〇〇〇	二、六〇〇、五三〇	二、六〇〇、五三〇	一、九七九、五六〇	二、三七一、〇五一	二、四一七、六八〇
一、八五一、二二〇	一、四〇〇、四七五	一、九六一、七五三	一、九六一、七五三	二、九六三、二二九	三、二九八、七九五	三、五三七、三八二
三六五、五三三	一、二〇〇、八二四	二、七二、八七八	二、七二、八七八	二、八一、九六五	三、五三、四五四	三、〇八、四一〇
一、六五、七〇二	一、八四七、四五三	一、三三、二五三	一、三三、二五三	二、一八、四二九	二、四六、七、五三七	二、六八、七、三三
二、〇〇、八二四	一、九三二、二〇〇	二、三五、二六六	二、三五、二六六	二、九九五、八七八	一、八三、〇三六	一、六七、六二二
一、八四七、四五三	一、三三、二五三	八、九三三	八、九三三	三、〇、七九三	三、三四、八〇六	三、五八、六、九一八
二、八〇四	一、三三、二五三	一、五七三、七三〇	一、五七三、七三〇	一、七七五、三九二	二、二〇八、四三三	二、六二七、四八五
一、四八六、三六八	一、三三、二五三	一八、一九一	一八、一九一	二〇、一〇四	一、七、三五四	一、五、二二八

(一) 船 舶 ◆ 世界船舶噸數 (噸數百噸以上)

(本邦帆船ハ登簿噸數三百噸以上) (毎年度六月末現在、ロイド調査)

アトランチック、ガルフ
 トランスアトランチック
 川崎汽船
 ソセータ、ナシヨナル
 大貌利顔
 ケレー、ライン
 ユーナイテッドアリワト
 グレート、ラスケ
 ハット、チンソン
 ダブリウ、アール、グラス

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
二四	一九	二〇	三三	一四	三三	二五	二二	八三	一八
一〇〇、三三二	一〇〇、六七〇	一〇四、八一九	一〇五、一六二	一〇五、八九三	一〇六、九四九	一〇八、八七九	一九、六九九	一二〇、三八三	一三、八七八



國名	汽帆	帆船	合計
露國	八七五、一四六	八三、〇〇〇	九五八、一四六
瑞典	一九三、三五六	八〇九、五二〇	一、〇〇二、八七六
澳國	五二六、六五〇	八七三、〇〇〇	一、三九九、六五〇
洪國	九八、三七〇	七〇九、三〇〇	八〇八、六七〇
丁抹	八九一、二〇三	三九七、三七一	一、二八八、五七四
西班牙	一、一五五	六〇、三三二	一、二一五、三三一
希臘	三九七、三七一	七二五、〇〇〇	一、一二二、三七一
希爾	八五一、六六六	七三三、〇〇〇	一、五八四、六六六
伯刺	一四、六七〇	六〇三、〇〇〇	六一七、六七〇
四爾	七二、〇四四		七二、〇四四
白義	二九〇、六三三		二九〇、六三三
耳義	一三、一六三		一三、一六三
葡萄牙	二六四、九八五		二六四、九八五
亞爾	三〇五、七〇六		三〇五、七〇六
然爾	一八一、九二九		一八一、九二九
亞爾	三〇、七八五		三〇、七八五
荷蘭	七、一七五		七、一七五
亞爾	七、一七五		七、一七五
然爾	三三、五九二		三三、五九二
其他	五七八、七八七		五七八、七八七
其帆	二八、九九五		二八、九九五

一九二二年六月現在(以下調査總噸百噸以上)

世界船舶年齡比較

△世界船舶總計內容

船型	以下年	五年以上	十年以上	十五年以上	廿年以上	廿五年以上	合計
船型							
噸	二、六四四	一、九一八	一、五九四	一、五八一	一、一七五	三、〇九三	一、一、一〇九
噸	六四、八六九	四三三、六九四	三六四、〇七〇	三三三、三三三	二五〇、八〇一	六八五、五六〇	二、七一九、三三三
噸	七三六	三三〇	三三〇	三五四	二七七	九九	三、三三〇
噸	五八一、三〇〇	二八一、七三三	二八三、三九〇	二五二、一九八	一九八、八三三	七二、〇三二	一、〇六五、二二二
噸	八九九	七四三、八九一	六一六、九九九	七六〇、九九九	五〇五、二五〇	一、五四五、〇一三	三、三三三、〇一三
噸	一、二八二、三七七	四三七	一、二七九、〇三六	一、八〇九、九二九	一、七四六、三〇六	二、六八四、八二八	九、四七一、四一四
噸	一、八九五	一、二八二、四九六	一、二七九、〇三六	一、一八〇、九九九	一、七四六、三〇六	二、六八四、八二八	九、四七一、四一四
噸	一、八九五	一、二八二、四九六	一、二七九、〇三六	一、一八〇、九九九	一、七四六、三〇六	二、六八四、八二八	九、四七一、四一四
噸	五、一九八、〇六六	一、二八二、四九六	一、二七九、〇三六	一、一八〇、九九九	一、七四六、三〇六	二、六八四、八二八	九、四七一、四一四
噸	一、一〇五	四四三	四三三	四四三	三三四	一、〇〇四、七七〇	二、二二一、一〇二
噸	七、九五〇、九二二	二、三三三、七二五	二、一四七、一九六	二、一五一、九九九	一、六九六、〇四九	一、〇〇四、七七〇	一、七、二六六、三三二
噸	八五五	三〇一	一、三二五、七三九	一、一三八、二九九	六九五、〇五二	二七七、三六五	一、三、三二一、八三〇
噸	五、八六六、五四〇	二、〇八九、四七一	一、三二五、七三九	一、一三八、二九九	六九五、〇五二	二七七、三六五	一、三、三二一、八三〇
噸	一九六	三八八	三六〇、一五〇	四三三、七二五	二七五、八八四	五二、五二八	一、一、一四一、〇一〇
噸	一、六九五、二九四	七七二、六三九	三六〇、一五〇	四三三、七二五	二七五、八八四	五二、五二八	一、一、一四一、〇一〇
噸	九九九	五四	四八〇、一八七	一五二、四三一	四六三、九八五	九八、三五四	一、一、一四一、〇一〇
噸	一、一九六、四一三	六三九、八三〇	四八〇、一八七	一五二、四三一	四六三、九八五	九八、三五四	一、一、一四一、〇一〇

一萬五千噸以上
二萬噸未滿
二萬噸以上
總計

四五一、二二一
一九四、一七六
八、五三三
二、〇二一、一七九

一八五、一六八
二〇八、七七七
四、一六五
八、九七〇、六六六

六八、六二七
一七〇、〇六四
三、五〇〇
七、〇七五、二五一

一〇八、六六一
一六六、九七七
三、七五〇
七、三八八、四八四

三五、七三七
二一、〇三六
二、八九九
五、八八八、九二三

六、三七九
七、〇六八、四四九
|||

九〇一、四〇二
七六一、〇一五
一九、二三五
五七、三四二、九五二

△英

國

五百噸以上
五百噸以下
一千噸以上
一千噸以下
二千噸以上
二千噸以下
四千噸以上
四千噸以下
六千噸以上
六千噸以下
八千噸以上
八千噸以下
總計

六三九
一九一、二二三
一三三
一六四、六五一
一六八
二五四、三四一
二〇五
五八六、七〇二
三九九
一、八七九、〇三八
一九八
一、三七一、八三五
七〇

七八八
一九一、七三三
八二
五八、四四五
一三〇
一六六、九六一
二二九
三八八、〇四六
二二八
一、一三九、五六九
一一二
七三三、二〇二
三九

四八四
一一四、二六七
九
六四、八七三
一四五
二二四、四七八
一三〇
四一三、四八九
二二〇
一、〇一六、四〇九
四六四、七六三
二〇

五六六
一三〇、七一一
九四
六六、一七七
一三三
一九一、三五〇
二二三
六九九、二九二
一八六
八六八、五〇三
二八二、八六一
三三

四二七
八六、八六三
七八
五五、〇〇八
七九
一〇八、七四四
一五五
五〇六、〇五八
一一〇
五二九、八二二
四四三、〇四一
二〇

九五五
一九六、八五四
一七八
一三八、八八三
一六八
二四三、六五一
一六三
四六五、一六〇
五八
二八四、八二五
一四四、五三
四

三、八一九
九一、五四七
七五六
五七、八八六
八一三
一、一七八、五二五
一、〇〇二
三、〇五八、七四五
一、一七一
五、七七八、一四五
三、〇八一、二五
一八五

一萬噸未滿
一萬噸以上
一萬五千噸未滿
一萬五千噸以上
二萬噸未滿
二萬噸以上
總計

六〇九、三六
四〇
四三、五四五
二
三五八、九三三
三
一一、七六一
一、九三七
六、〇二一、一三五

三三四、六三四
二八
三四五、一五二
六
九九、〇三九
三
九一、六九二
一、五三五
三、五八八、四七二

一七一、四九九
三三
三七九、三九二
四
六八、六二七
二
九八、四六一
一、一八六
三、〇〇六、三四七

二八六、四六三
九
一〇二、八六六
二
五五、〇六八
五
一一五、二三一
一、二九一
二、八〇八、五三一

一七六、六三一
一七
二〇五、八九一
|||
二、一〇六
九四一
二、一四三、〇六七

三四、四九三
三
三二、八〇七
|||
一、五三〇、一八六
|||

一、六〇九、八八六
一三〇
一、五四九、六五三
三四
五八一、六五七
一四
三三六、六七一
八、四七四
一九、〇八八、三三八

△米

國

(湖水船を除く)

五百噸以上
五百噸未滿
一千噸以上
一千噸未滿
二千噸以上
二千噸未滿
四千噸以上
四千噸未滿
六千噸以上
六千噸未滿
總計

二〇三
六六、一一三
一八
一五、〇〇九
四三
六八、三二二
九六二
二、六三八、二六一
六〇七
三、二七八、七三九

五六
一五、二二三
三二
二五、二八七
五三
八一、九九三
七〇
二〇〇、三二五
五八
二九九、一四六

六八
一六、五一
三四
二五、九九〇
一六
三三、七七一
五〇
一四〇、一五七
四四
二〇四、〇〇七

七七
一八、八六〇
三二
二八、九三四
一九
三二、〇〇九
四三
一一、九七三
二九
一三七、二七二

八五
二二、六〇四
二二
一五、二四七
二六
三七、一五
四三
二二八、〇二九
三三
一五三、一五四

二二六
二八、六七三
五〇
三七、二五〇
四五
六八、一一三
一〇八
三〇七、一一二
一七
八二、一四一

六二五
一六七、八八二
一九三
一四七、六一七
一〇一
三六〇、三三三
一、二七七
三、五五、八五七
七八七
四、一五六、四九九

五百噸以下
五百噸以上
二千噸以上
二千噸未滿

四萬噸以上
四萬噸未滿
六萬噸以上
六萬噸未滿
八萬噸以上
八萬噸未滿
一萬噸以上
一萬噸未滿
總計

四四四、二六
一三一、五五五
一八、二四〇
四三、四三七
一四九

△佛

一、六五六、四三〇
八〇八
四、五六四
八八、七四四
一〇
三、七二二
六三、五九七
一三三
二一〇、〇四七

蘭

六二、二四六
三九、八五七
一、九七七
二〇、〇五〇
七九

△西

五三六、一四一
四一〇
二二、九〇〇
五、六二九
九〇、三三〇
九三、五九六
一八
一三〇、〇三四

八三、八〇二
三〇、一六六
一五、四二八
三三、〇〇三
一二四

二六五、七八八
四〇、八九四
二二、九〇〇
九、〇五八
四四、二〇〇
九三、六八五
一三
四〇、三二四

七三、五六八
三一、三七一
一三、四三六
二九、五二五
一一五

一八五、二四六
一七五
八、九五九
一、二八八
二
五五、三三五
二五、六六七
八
五五、三三五

六八、〇八一
一四、七〇六
七、〇五三
一五、〇〇九
七一

一九一、七二一
二二、五九五
三、六二一
八七、六〇七
一八
一〇六、九六五

一五九、一四五
九七、四五六
三〇、七三二
三〇、七七六
一四九

六五一、六〇二
三七三
九三、六九八
一、〇七六
三三
三三四、五六一
一一三、二六〇
三三

八八九、六六八
三三五、一一一
八九、二七四
一七〇、八〇〇
六八七

三、五六六、九一八
二〇、〇三六
一、二七、九五三
一
二六二、九四〇
五九六、〇四三
一八
九八四、三五六
二〇〇
一、〇七六、六三三
七八

五千噸以上
五千噸未滿
二千噸以上
二千噸未滿
總計

六千噸以上
八千噸以上
一萬噸以上
一萬五千噸以上
二萬噸以上
二萬噸未滿
總計

一五〇、四六〇
一五、四〇九
一三
七五

△日

九、九八二、七九九
二、三六八
二、八九八、九一六
四三三
五〇、五四三
六五
四四六、三〇七
三六
三〇、六〇〇
二

本

四一、六九五
四一

一、三〇九、三〇四
三三〇八
七四、四八二
三三、二六一
九四、七四三
九
八七、六〇八
一〇
三九三、三七七
五八

四〇、三五
二〇、一〇〇
二〇、一〇〇

五五七、七八〇
二二、七八八
二二
二二、五五六
二九

三四、九三三
二〇
一六、四九一
八九
二、六三二
三一

五五一、三三〇
二二
四、七四六
二
三、八、四四四
二
二七、二七八
二
三、四、五二七
四
七一、二九二
二二

一五、八五九
三五
六、三三一
一〇
九、七二二
四四

五八六、六八六
二三五
一九、三六一
七
八四、二九七
七
七三、九一八
八
五三、〇四六
八

一三、五四九
二二九

五八八、八三六
三五二
一、九三三
一〇〇
二、九二二
八二

三六〇、五六一
三〇四

一三、五七六、六四〇
三五
一四〇、〇一六
五
二二、六六六
七
七八、〇九四
六〇
七四六、五八八
八七
四、五四〇、〇四七
五二八

總計
 五萬噸以上
 五千噸以上
 二千噸以上
 二千噸以上
 二千噸以上
 二千噸以上
 四千噸以上
 六千噸以上
 八千噸以上
 一萬噸以上
 一萬噸以上
 一萬噸以上
 一萬噸以上

△瑞	三〇、二四一	一八七		二五、九三三	一三、五三二	六三、七六四	七四、七三六	八九、三三五	二五、六三三	一三、三三四	△丁
典	一七、三四〇	二八八		二一、八五〇	五三、五七一	三六、三三七	三三、〇五八	四〇、七五一	八、〇五八	五、六二五	抹
	七七、六二二		八、三三二	一三、七四五	二〇、五一二	四、七〇四	一九、一〇七	八、六七八	二、五四四	二、五四四	
	一〇五、六五九					五七、〇四二	七三、八四七	六、七五四	四、六七一	四、六一一	
	一〇五、六五九					八、八五九	四〇、六九五	二、四三三	五、二二一	六、四二一	
	一四、七三三					四、二二三	五三、五六四	二〇、三八四	一三、四二三	一三、四二三	
	九八、一四三					八〇、八五三	一三、五九四	二九、九二九	七、七二八	四、九八八	

總計
 五萬噸以上
 五千噸以上
 二千噸以上
 二千噸以上
 二千噸以上
 四千噸以上
 六千噸以上
 八千噸以上
 一萬噸以上
 一萬噸以上
 一萬噸以上
 一萬噸以上

一〇、九七〇	三六七		三〇、三〇〇	一五、一〇四	二八、〇九七	一七、〇一七	一七、五三三	九八、二九七	二六、二八八	一五、六五一
六八、一六七	二五五		二五、五六〇	七八、五六六	二五、〇二六	七八、五五一	一五、三三一	六三、三九六	一六、〇六九	一四、八五七
三七、二八五	一三八		二四、一四九	一六、三六五	九四、八七七	九〇、八五六	九四、四六七	三六、四七一	五、四八八	九、六二二
二六、一〇九			一七、一四九		一三、一五六	一二九、七六八	六六、八三六	二四、五〇七	三、九五一	一〇、七五二
一八、五三三			二五、〇五八		三九、一三八	三九、二〇九	四九、三九六	二八、九四八	四、七八九	二、〇〇四
八四、六五三						二七、九八五	一三、四八四	二四、二六九	九、九二四	八、九九〇
二、六一七								二七、五八八	六、五〇九	七、八六六

總計
 五
千
噸
以
上
 二
千
噸
以
上
 二
千
噸
以
下
 四
千
噸
以
上
 四
千
噸
以
下
 六
千
噸
以
上
 六
千
噸
以
下
 八
千
噸
以
上
 八
千
噸
以
下
 一
萬
噸
以
上
 一
萬
噸
以
下
 總
計

一九,七五一	一八,七三三	一八,五〇三	一八,〇三三	一四,九三六	一四,九三六	一〇,九三六	二〇,二七四	二〇,二七四	三〇,〇二九
一,五三三	三,八六〇	三,三三九	三,二二二	一八,九六九	一三,八〇四	二〇,四八五	九,一四八	九,〇八九	三〇,〇二九
二,四〇一	五,三六八	三,九五五	三,九五五	一五,三二七	八,四八二	六,〇三五			六,〇三五
八,六三四	一五,四一三	八,五九九							三,七,八三二
三,〇二八	三,五〇六	二七,五八八							二七,七八七
四,八二六	二二,五六二	二二,三三三							五〇,四九九
七,五九九	一七〇,一五二	一五五,〇九八							一,二二五,二七六

總計
 五
百
噸
以
下
 五
百
噸
以
上
 二
千
噸
以
上
 二
千
噸
以
下
 四
千
噸
以
上
 四
千
噸
以
下
 六
千
噸
以
上
 六
千
噸
以
下
 八
千
噸
以
上
 八
千
噸
以
下
 一
萬
噸
以
上
 一
萬
噸
以
下
 總
計

△西
 班
 牙

一八,七八六	二〇,八七六	六四,四四六	五二,四七〇	一三九,八三八	二〇,六四五	二,〇〇二	三六,〇〇二	一,一九〇
一九,四六八	二,五九八	四四,六三五	三,八四五	二四,六七三	六,八四〇	一四,〇九〇	一,一五〇	八,一六九
一〇,三五八	五,五四九	一八,四三〇	三五,七〇七	三五,一七八	一五,二七三	一五,二七三	一五,二七三	六,五二二
二,六七五	八,四一七	三三,九四三	三,八九三	一六,三〇六	二,一四三	二,一四三	二,一四三	五,一九五
一三,一九一	八,四九七	三〇,七二三	二七,一八〇	四,一九一	二二,五三三	二二,五三三	二二,五三三	三,一三四
六,七二八	四三,一三〇	一三七,七四〇	三四,五〇五	二七,〇九三	二七,〇九三	二七,〇九三	二七,〇九三	二七,四〇八
一五,二九九	二八六,〇五一	三〇〇,八九七	二四,八〇一	二七,四九四	一四,六六五	一四,六六五	一四,六六五	一,〇四〇,〇三三
一五,二九九	二八六,〇五一	三〇〇,八九七	二四,八〇一	二七,四九四	一四,六六五	一四,六六五	一四,六六五	七,四七六一

□世界汽船增加趨勢

(百噸以上汽船)

年次	船數	噸數
一九〇八	二,五五〇	三五,七三三,〇九五
一九〇九	二,九〇九	三六,四七三,〇三三
一九一〇	三,〇〇八	三七,二九〇,六六五
一九一一	三,四七三	三八,七八一,五二二
一九一二	三,二二七	四〇,五八一,七七
一九一三	三,八九七	四三,〇七九,一七七
一九一四	二,四四四	四五,四〇三,八七七
一九一五	二,四一八	四五,七三九,〇〇八
一九一六	二,四一三	四五,二四七,七二四
一九一七	歐洲戰爭中統計不詳	
一九一八	四七,一七一,九二六	
一九一九	四七,八九七,四〇七	
一九二〇	五三,九〇四,六八八	
一九二一	五八,八四六,三五五	
一九二二	六二,三四三,九五三	

□本邦海運發達趨勢

(百噸以上汽船)

年次	隻數	噸數
明治五	九六	二二,三六四
六	一一〇	二六,二〇〇
七	一二八	二六,二〇〇
八	一四九	二六,二〇〇
九	一五九	二六,二〇〇
一〇	一八三	二六,二〇〇
一一	一九五	二六,二〇〇
一二	一九九	二六,二〇〇
一三	二二〇	二六,二〇〇
一四	二九八	二六,二〇〇
一五	三四四	二六,二〇〇
一六	三九〇	二六,二〇〇
一七	四二二	二六,二〇〇
一八	四六一	二六,二〇〇
一九	四六〇	二六,二〇〇

□本邦汽船月別現在數

船型	三月			六月			九月			十二月		
	隻數	總噸數	隻數	總噸數	隻數	總噸數	隻數	總噸數	隻數	總噸數		
百噸以下	一,二八八	五四,〇八九	一,三〇五	五四,七六六	一,三一九	五五,三九五	一,三三八	五五,三〇六				
三百噸以下	四〇四	七三,八四五	四〇八	七三,九八五	四〇九	七三,三七七	四一七	七五,二六三				
五百噸以下	一七六	七,一〇六	一七六	七,〇八三	一七四	六九,九二九	一七〇	六八,二七四				
千噸以下	三〇五	三九,九九三	三〇三	三九,七五九	三〇〇	三九,八八〇	二九七	三九,二四三				
二千噸型	二四〇	三四六,一六一	二四八	三四八,八二八	二四七	三四八,〇三八	二四四	三四三,八七九				
三千噸型	一六四	四〇〇,五三一	一六五	四〇三,九一三	一六八	四一〇,七八四	一七〇	四一五,七三一				
四千噸型	一〇四	三五〇,九六七	一〇九	三五七,六四〇	一一二	三七八,四三六	一一三	三八二,〇七三				
五千噸型	四九	二二五,〇五四	四九	二二五,三二七	四九	二二五,三二九	四九	二二五,三二九				
六千噸型	三〇	一六八,七五一	三二	一六八,七五一	三二	一六八,七五一	三二	一六八,七五一				
七千噸型	三〇	二二〇,二二五	三三	二二七,三三八	三三	二二〇,〇七五	三三	二二〇,〇七五				
八千噸型	三	二四,八八四	三	二四,八八四	三	二四,八八四	三	二四,八八四				
九千噸型	三	一三,八七〇	三	一三,八七〇	三	一三,八七〇	三	一三,八七〇				
一萬噸型	九	一〇六,九三七	一〇	一一七,三五〇	一〇	一一七,三五〇	一〇	一一七,三五〇				
合計	二,九二五	三,一六七,三七一	二,九八五	三,一三五,一七〇	三,〇〇〇	三,一四六,四九五	二,九八〇	三,一三五,〇〇六				

年次	遠洋航	近海航	沿海航	平水航	未定
同五年末(帆)	隻數 二四 總噸數 六,五〇〇	隻數 一 總噸數 一,二四一	隻數 三 總噸數 九,九五九	隻數 一 總噸數 五,六〇〇	隻數 四 總噸數 一六八,〇八二
同四年末(帆)	隻數 二一 總噸數 八,九七〇	隻數 一 總噸數 一,〇六三	隻數 三 總噸數 七,五七六	隻數 一 總噸數 五,八九〇	隻數 三 總噸數 一四九,九二〇
大正三年末(汽)	隻數 二〇 總噸數 八,五八二	隻數 一 總噸數 一,一三三	隻數 三 總噸數 七,四七〇	隻數 一 總噸數 五,八一〇	隻數 三 總噸數 一四九,九二〇
二噸噸型	一五二				
三噸噸型	九八				
四噸噸型	五〇				
五噸噸型	二八				
六噸噸型	四一				
七噸噸型	三〇				
八噸噸型	三				
九噸噸型	三				
一萬噸以上計	七五二	八三六	四九六	一,〇一〇	三三

本邦船舶航路內容

船型	一級船	二級船	三級船	四級船	未定船
五百噸以下	隻數 四 總噸數 一〇,八六七	隻數 四 總噸數 一〇,八六七	隻數 一 總噸數 一,〇〇九	隻數 三 總噸數 三,〇三六	隻數 一 總噸數 一,三五九
一千噸以下	隻數 九 總噸數 一五,八七八	隻數 二 總噸數 一七,七四〇	隻數 八 總噸數 四,三五六	隻數 三 總噸數 六,三九九	隻數 一 總噸數 一,三五九
自十六節噸數					
自十七節噸數					
自十八節噸數					
自十九節噸數					
自二十節噸數					
自二十一節噸數					
自二十二節噸數					
自二十三節噸數					
自二十四節噸數					
自二十五節噸數					
自二十六節噸數					
自二十七節噸數					
自二十八節噸數					
自二十九節噸數					
自三十節噸數					
自三十一節噸數					
自三十二節噸數					
自三十三節噸數					
自三十四節噸數					
自三十五節噸數					
自三十六節噸數					
自三十七節噸數					
自三十八節噸數					
自三十九節噸數					
自四十節噸數					
自四十一節噸數					
自四十二節噸數					
自四十三節噸數					
自四十四節噸數					
自四十五節噸數					
自四十六節噸數					
自四十七節噸數					
自四十八節噸數					
自四十九節噸數					
自五十節噸數					
自五十一節噸數					
自五十二節噸數					
自五十三節噸數					
自五十四節噸數					
自五十五節噸數					
自五十六節噸數					
自五十七節噸數					
自五十八節噸數					
自五十九節噸數					
自六十節噸數					
自六十一節噸數					
自六十二節噸數					
自六十三節噸數					
自六十四節噸數					
自六十五節噸數					
自六十六節噸數					
自六十七節噸數					
自六十八節噸數					
自六十九節噸數					
自七十節噸數					
自七十一節噸數					
自七十二節噸數					
自七十三節噸數					
自七十四節噸數					
自七十五節噸數					
自七十六節噸數					
自七十七節噸數					
自七十八節噸數					
自七十九節噸數					
自八十節噸數					
自八十一節噸數					
自八十二節噸數					
自八十三節噸數					
自八十四節噸數					
自八十五節噸數					
自八十六節噸數					
自八十七節噸數					
自八十八節噸數					
自八十九節噸數					
自九十節噸數					
自九十一節噸數					
自九十二節噸數					
自九十三節噸數					
自九十四節噸數					
自九十五節噸數					
自九十六節噸數					
自九十七節噸數					
自九十八節噸數					
自九十九節噸數					
自一百節噸數					

船舶資格內容

(大正十年末内地在籍船)

國別	A	B	C	D	E	F
同 六年末(汽)	二八一	一、二二	一、五三	六二五	五二七	〇、六
同 七年九月末(汽)	三〇五	一、二八	一、三三	九七二	一一七	二、〇
同 七年末(汽)	四〇〇	一、四四	一、六四	一、〇五一	一、〇七	八、三〇
同 八年末(汽)	三三三	一、三三	一、三三	八四〇	七二〇	〇、一
同 九年末(汽)	四三二	一、九三	一、四三	一、〇〇一	一、四四	五、九
同 十年末(汽)	四六七	二、〇三	一、五五	一、〇〇一	一、四四	五、九
同 十一年九月末(汽)	四三二	一、八八	一、四八	一、〇〇一	一、四四	五、九
和 獨 佛 日 米 英 國	三三	三三	三三	三三	三三	三三

世界汽船々齡比較

ロイドレガスターの調査に據る千九百二十二年六月末現在世界主要海運國の汽船をA B C D E Fの六つに區分し各國同一年齡船(隻數)の其の所有汽船全隻數に對する比率を見るに次の如し

國別	A	B	C	D	E	F
和	三三	三三	三三	三三	三三	三三
獨	三三	三三	三三	三三	三三	三三
佛	三三	三三	三三	三三	三三	三三
日	三三	三三	三三	三三	三三	三三
米	三三	三三	三三	三三	三三	三三
英	三三	三三	三三	三三	三三	三三

世界優秀船隻數比較表

(ロイド、レガスター一九二二—一九二三年版に依る)

速力(節)	英	米	佛	伊	日	蘭	丁	白	其他	計
二〇	一〇〇	元	一四	六	二	一四	三	四	三	三〇
二一	一〇〇	元	一四	六	二	一四	三	四	三	三〇
二二	一〇〇	元	一四	六	二	一四	三	四	三	三〇
二三	一〇〇	元	一四	六	二	一四	三	四	三	三〇
二四	一〇〇	元	一四	六	二	一四	三	四	三	三〇
二五	一〇〇	元	一四	六	二	一四	三	四	三	三〇
二六	一〇〇	元	一四	六	二	一四	三	四	三	三〇
二七	一〇〇	元	一四	六	二	一四	三	四	三	三〇
二八	一〇〇	元	一四	六	二	一四	三	四	三	三〇
二九	一〇〇	元	一四	六	二	一四	三	四	三	三〇
三〇	一〇〇	元	一四	六	二	一四	三	四	三	三〇
三二	一〇〇	元	一四	六	二	一四	三	四	三	三〇
三三	一〇〇	元	一四	六	二	一四	三	四	三	三〇
三四	一〇〇	元	一四	六	二	一四	三	四	三	三〇
三五	一〇〇	元	一四	六	二	一四	三	四	三	三〇
三六	一〇〇	元	一四	六	二	一四	三	四	三	三〇
三七	一〇〇	元	一四	六	二	一四	三	四	三	三〇
三八	一〇〇	元	一四	六	二	一四	三	四	三	三〇
三九	一〇〇	元	一四	六	二	一四	三	四	三	三〇
四〇	一〇〇	元	一四	六	二	一四	三	四	三	三〇
四一	一〇〇	元	一四	六	二	一四	三	四	三	三〇
四二	一〇〇	元	一四	六	二	一四	三	四	三	三〇
四三	一〇〇	元	一四	六	二	一四	三	四	三	三〇
四四	一〇〇	元	一四	六	二	一四	三	四	三	三〇
四五	一〇〇	元	一四	六	二	一四	三	四	三	三〇
四六	一〇〇	元	一四	六	二	一四	三	四	三	三〇
四七	一〇〇	元	一四	六	二	一四	三	四	三	三〇
四八	一〇〇	元	一四	六	二	一四	三	四	三	三〇
四九	一〇〇	元	一四	六	二	一四	三	四	三	三〇
五〇	一〇〇	元	一四	六	二	一四	三	四	三	三〇
五五	一〇〇	元	一四	六	二	一四	三	四	三	三〇
六〇	一〇〇	元	一四	六	二	一四	三	四	三	三〇
六五	一〇〇	元	一四	六	二	一四	三	四	三	三〇
七〇	一〇〇	元	一四	六	二	一四	三	四	三	三〇
七五	一〇〇	元	一四	六	二	一四	三	四	三	三〇
八〇	一〇〇	元	一四	六	二	一四	三	四	三	三〇
八五	一〇〇	元	一四	六	二	一四	三	四	三	三〇
九〇	一〇〇	元	一四	六	二	一四	三	四	三	三〇
九五	一〇〇	元	一四	六	二	一四	三	四	三	三〇
一〇〇	一〇〇	元	一四	六	二	一四	三	四	三	三〇

註 A 五年未滿 B 十年未滿 C 十五年未滿 D 二十年未滿 E 二十五年未滿 F 三十五年以上
次に二千噸以上の世界老齡船は左の如し

備考 一、其他とあるは瑞典、挪威、希臘、西班牙、秘露、亞爾然丁、羅馬尼、露西亞、支那、伯刺爾西、芬蘭、智利等の諸國を云ふ

二、本表中には歐洲諸國に於ける大型河川用汽船を含む
 三、客船半客船貨物船を含む

□世界燃油船噸數（一九二二年六月現在）

米	一、九〇〇隻	八、八五七、〇八七總噸
英	六二一	三、四六〇、四三八
諾	一七五	六六八、八一八
佛	一五三	五九二、五七六
伊	五七	二四五、七六一
瑞	五	一九二、二五六
丁	三	一六六、三九三
計	三、一〇	一八三、三九六

日	三	三〇七、五五三
獨	三〇	一〇八、九六七
西	二〇	六一、七〇一
アルゼンチン	一〇	一六、九五二
希	一〇	四四、六七三
墨	一〇	二四、六七〇
白	八	二九、四四四
其他	五	一三一、五九六
計	三、一〇	一五、〇〇四、五〇八

(一) 航路

□各海洋面積、深サ

海 洋 面積(方里) 最深地點 海面下(呎)
 太平洋 三、九六六、〇〇〇 ミンダナオ沖 三、〇八九

大西洋 三、五〇〇、〇〇〇 ホートリコ海峡 三、三六六
 印度洋 九、五〇〇、〇〇〇 スンダ海峡 三、九六八
 北冰洋 五、五四一、六〇〇 北極海 一三、二〇〇
 馬來海 三、三三〇、〇〇〇 ケー海峡 二二、三四八
 中央亞米利加海、七〇、一七〇 カリビヤン海 二〇、五三三

地中海	一、四五〇、〇〇〇	ボラ淵	二二、二七六
白介海	八七八、〇〇〇	バルダー水道	一三、四三三
オコック海	五八二、〇〇〇	千島水道	一〇、五五四
東支那海	四八〇、〇〇〇		約 一〇、五〇〇
ハドソン灣	四七三、〇〇〇		約 一、五〇〇
日本海	四〇五、〇〇〇		約 一〇、二〇〇
アンダマン海	三〇五、〇〇〇		約 一、〇〇〇
北海	三三二、〇〇〇	スカッゲラツク	一、九九八
紅海	一七八、〇〇〇	北緯二〇度	七、二五四
ボルチツク海	一五八、〇〇〇		約 二、〇〇〇

□世界主要嶋嶼及面積

名	稱	所屬	所在面積(方哩)
グリーンランド		丁抹	八七、三〇〇
ニューギニヤ		英、獨	三〇〇、〇〇〇
ホルネオ		英、獨	二八〇、〇〇〇
パフィン・ランド		英、獨	二八、〇〇〇
マダガスカル		佛蘭西	二八、〇〇〇
スマトラ		和蘭	一六〇、〇〇〇

大不列顛	日本	和蘭	日	和蘭	日	和蘭	日	和蘭	日
八八、六〇三	八七、五〇〇	七三、〇〇〇	六〇、〇〇〇	五八、〇〇〇	四八、四〇〇	四四、五〇〇	四四、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
三〇、三六六	二二、三四八	二〇、五三三	一三、二〇〇	一〇、五五四	一〇、二〇〇	一〇、〇〇〇	九、〇〇〇	八、〇〇〇	七、〇〇〇
三、三六六	三、〇〇〇	二、〇〇〇	一、九〇〇	一、八〇〇	一、七〇〇	一、六〇〇	一、五〇〇	一、四〇〇	一、三〇〇
二、〇〇〇	一、九〇〇	一、八〇〇	一、七〇〇	一、六〇〇	一、五〇〇	一、四〇〇	一、三〇〇	一、二〇〇	一、一〇〇

鹿島	尾道	淡路	釜山	天津	青島	上海	香港	漢口	ニューボート	坂西	ドウア	タウンス	ダンキル	グラス
三七七	一一〇	九〇九	三六九	一、〇六五	八二五	八三〇	一、四三七	二、〇八〇	二、三九五	七、七九五	一〇、九四五	三、八〇〇	一〇、九八五	一一、一〇〇
油津	宇野	澎湖	木浦	大連	漢口	福州	西貢	倫敦	ニューボート	サトウ	季浦	大洋	ラプ	グア
二八三	六九	一、八〇八	五五	八六〇	一、三三〇	一、〇一七	二、二四〇	二、〇一一	三、一三〇	四、四〇〇	八六七	一〇、九八〇	二、九三五	一、三九〇
三田尻	高知	安山	群島	秦皇	尼東	廣谷	盤防	海防	バスル	ニューボート	ウイン	ラン	馬耳	
三三〇	一四〇	一、一五五	六五	一、五五	一、四七六	二、七七〇	一、七七八	三、〇八五	四、一三七	二、九三三	二、三三五	三、九三〇	九、三五	
宇品	徳島	打川	仁沽	太莊	牛門	厦門	彼南	ハル	バク	孟買	パト	甲谷	浦	マン
一六六	一三三	七二二	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、二二七	三、二四〇	二、一四五	一、七三三	五、二六三	一、七二〇	四、四三三	五、七五五	一一、〇一〇
吳山	基隆	元浦	鎮南	芝罘	寧波	汕頭	イロ	晚香	紐育	ホノ	ハカ	カ	ク	マ
一七四	九四五	六三四	七九	八三〇	七九八	一、三三九	一、六三三	四、五八〇	一〇、〇三〇	三、六一	三、三三〇	一〇、八六〇	七、六八〇	八、七四五

港名	大坂	名古屋	釜石	根室	船川	伏木	門司	長崎	浦賀	晚香	北デ	パン	錫蘭	タスマ	ハイ
哩數	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
世界主要港	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
程表	太平洋	北氷洋	北氷洋	北氷洋	北氷洋	北氷洋	北氷洋	北氷洋	北氷洋	北氷洋	北氷洋	北氷洋	北氷洋	北氷洋	北氷洋
名	羽	水	館	鹽	田	鶴	津	岡	津	眞	口	津	津	津	津
哩數	二二〇	二八〇	八四二	一、一三〇	七九〇	五七〇	三三九	一、三三〇	四二五	三三〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇
港名	四日市	横須	室蘭	小樽	新	米	伊	増	池	池	池	池	池	池	池
哩數	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
港名	熱田	横濱	能代	直江	境	佐	武	三	三	三	三	三	三	三	三
哩數	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三

マドラス	四、三〇五	馬尼刺	一、六五四	マカッサ	二、七〇七	ケーブタウン	八、三九四	フレマントル	四、三七〇
ブリマウス	一〇、七六〇	ブレスベン	四、〇三〇	古倫母	四、三九五	ゴアランビー	一、〇九六	安土府	一〇、九四〇
アデレード	五、四三〇	アムステル	二、二二〇	サマラン	三、二二〇	桑港	四、八三三	サウサンブ	一〇、八五五
サンダーラ	二、三三〇	ザンザバー	六、八〇〇	メルボーン	五、〇〇〇	ミツドルス	二、二二〇	沙府	四、五六〇
新嘉坡	二、七四〇	シワイヨ	一、二六一	斯土寧	四、四三〇	ツアラルタ	九、七〇五	グ井クトリ	四、五〇〇
木曜島	三、二四五	スラバヤ	三、三〇九	ヤツブ	一、五三六	ボルナ	二、三二二	オセアン	二、九三五
鎮江	九三七	アバママ	三、〇四二	アンガー	一、六七三	アレキサンド	一、三六四	亞丁	六、三九五
タンカン	一、二六一	ラポウル	二、五八二	ベリム	六、四九〇	マウリチウス	一、〇二〇	テラゴア	七、五四〇
チンワンタオ	九八五	セブ	一、六〇二	アリスベン	四、〇三〇	バアーロー	一〇、九八五		

□ 各國海運保護政策

各國の海運保護政策は未だ戦前に復歸せずして確定的にはあらざるも戦後各國の採れる政策の新きものを左に略記せん

△ 佛 蘭 西

一、造船獎勵及艦裝獎勵 之に關する一九〇六年四月の法律は、一九一八年限り廢止

二、郵便定期航路補助 政府は特定の汽船會社との間に比較的長期の契約を結び、極東、濠洲「ニューカレドニア」、阿弗利加、及中北米等に對する郵便定期航海を行はしめ居れるが、大正九年度に於ける豫算は大體左の通り

- 極東濠洲及ニューカレドニア、阿亞利加東海岸、東部地中海航路(メツサヂエリ、マリテイルム會社) 一、二〇〇〇、〇〇〇
- 「ル、ハーアル」紐育間航路(セネラル、トランス、アトランチック會社) 五、九〇〇、〇〇〇
- 佛國「アンチエ」中米間航路(同前) 四、五〇〇、〇〇〇
- 佛國伯刺西爾及「ラ、ブラタ」間航路(「エチユツド、ド、ナバガシオ」會社) 一、二、九〇〇、〇〇〇
- 三、汽船會社の收入調節に關する補助 一定の航路に付、之を經營する汽船會社の收入が、一定額に達せざる時は、政府其の不足分を補足し、又其の收入定額を超える時は、政府剩餘部分を收むる方法にて政府は大正九年八月、佛國及「コルシカ」間の航路に於て「フレーション」會社との間に、又「ラ、ブラタ」航路に於て南大西洋會社との間に、夫々此の種の契約を締結し、漸次他の會社にも及ぼすべく、目下商議中

△ 和 蘭

- 一、航海補助 純然たる航路補助を受け居る會社は現存せざるも、目下「ドレツセルヒンス」汽船會社が、「ロツテルダム」「ケーブタウン」間の航路を開始して、補助金支給方に付政府と交渉中
- 二、郵便物航送料の支給 を受け居る會社、航路、及航送料金を示せば左の通り

(イ) 「アムステルダム」、「セノア」
「バタビア」、「ロッテルダム」
馬耳塞、「バタビア」間航路

(ロ) 「アムステルダム」、「ペラマ
リボ」(南米蘭領「ギニア」)、「
キユラサチ」(蘭領西印度)間

(ハ) 「アルシチゲン」、「ク井ンスボ
ロー」間航路

(ニ) 「ロッテルダム」紐育間、
「ネーデルランデイシエ、アメリカニツセ、マ
ーチャツピー」

三、政府の資金貸下 事業の獨立を企圖せしむる爲創立後數年に互り、政府より資金の貸付を爲せる汽船會社あり。左に目下收益中より右の元利金崩潰の爲、政府に對し返納中のものを擧げん。

「ケーニツグリツへ、オランダイッセ、ロイド」(和蘭、伯刺西爾、亞爾然丁間航路)
「ネーデルランド、ロッテルダムミツセ、ロイド」、「ネーデルランド、バケツト、フワールト、マリチャツピー」
(瓜哇、支那、日本線)

△白耳義

戦前は、三の航海會社に對し其の株式を引受けて援助する所ありしが、其の後一九一六年七月設立の「ロイド、ロアイアル、ベルヂツク」汽船會社に對し左の特殊の保護を與ふるに至れり

(イ) 利子保証 會社は元金償還及利子支拂保證の爲六百萬法を下らざる準備金を必要とするも、營業狀態不良にて、利子支拂に窮するときは、政府代つて之を支拂ひ、會社は之に對し十箇年間延滞利子なしに償還を行ふにあり。

(ロ) 元金保証 會社が無資力となり、且公賣に附すべき財産皆無となれる場合に、政府が社債所持人に對し會社に代りて債務支拂の責に任する旨の保證なり。

△伊太利

一、伊太利は戦前海運補助として一年約二千五百萬「リラ」を支出せしも、開戦以來之を廢止し、政府の計算に於て、各會社をして定期航海を行はしめつゝありて一九二二年二億四千萬「リラ」一九二三年三億「リラ」の支出を見るべく豫想さる。

一、政府が千九百二十三年度から實施した新造船獎勵法は左の如し

一、造船用材料ハ新造船は一總噸に付き四百八十キログラム迄、機關は一馬力に付き四十キログラム迄は免稅す但し此の制限は一九二六年限り撤廢され爾後は造船用金屬材料及非金屬材料は悉く無稅とす

一、本法に依る造船補助金は左の通り(但し一總噸に對し)(イ)鋼船五十「リラ」(ロ)コンクリート船廿「リラ」(ハ)木帆船十五「リラ」

一、機關に對する補助金は左の通り (イ)機關は一實馬力毎に廿「リラ」(ロ)ターピンは一軸馬力毎に廿三「リラ」

「ネーデルランド」汽船會社
「ロッテルダムロイド」汽船會社

五、六〇〇〇「フロリン」乃至
六、〇〇〇〇「フロリン」
外に小包郵便に對し一立方
米に付三〇〇「フロリン」
一、三〇〇「フロリン」外に小
包郵便に對し二立方米を超
ゆる場合一立方米に付四〇
〇「フロリン」

和蘭郵便物に對し 五〇、〇
〇〇「フロリン」
外國郵便物ニ對シ 四〇〇、
〇〇〇「フロリン」
金 額 未 詳

(ハ)内燃機關は一計量馬力毎に五十ラリ
 一、自國産材料を使用する場合(百キログラムに對し) (イ)鋼板及び山形材は十二リラ(イ)鋼管は七十リラ
 (ハ)汽鐘は十六リラ

一、古船を解撤して之れに代ふるに同型又は其れ以上の新船を建造する場合には解撤すべき船一總噸毎に四リラの補助金を附與す
 一、本法に依り建造する船舶は三年乃至五年間所得税を免除さる
 一、右免税の特典を受くる船舶は四十八萬噸、免税一億二千六百萬リラである其内容左の通(單位百萬リラ)

鐵	噸數	金額	帆	船	噸數	金額
一九二二	三三	八〇千噸	三三	三〇千噸	一九二四	三六
					一九二五	三六
					一九二六	三六

自國製の船舶を以て、内外航路に從事する海運業者に對し、比較的寛大な條件にて、金融の途を開ける外、別に補助の制度は存在せず、瑞典東亞汽船會社及北星線は、嘗てこの利益に浴したるも、戦時の好景氣に因り、借入金全部償却済なれり。

△瑞典
 △威諾

ノ威、西班牙間の航路に對し年額五萬五千「クローネ」を支給せしが、之は本來魚類輸出獎勵の意味にて、航路補助金ならず、其の他は海運補助の制度は存在せず。

△丁抹
 △西班牙

直接間接、何等海運補助の制度なし。
 一定の航路を指定して、契約を以て之に對し補助を與へ居れり、左に補助航路に從事しつゝある會社及補助金額を示さん。

「コムパニア、トランス、アトランチカ」	遠洋航路	九、六二七、六一一 (メセダ)
「コムパニア、マランス、メデイトラニア」	近海航路	三、四七〇、七七二
「イスレイナ、マリテイマ」	同	一、七七四、五八一
「ヴァボレ、コレオス」	近海航路	六〇五、二二〇
「インテリンシユラ、レ、スカリオ」		五、八五〇、五七三

△葡萄牙

航路補助の制度なし。
 △北米合衆國
 多年海運擴張の素懷を有して果たす能はず。偶戰爭の機運に乘じ、破天荒の大船船國となれる。米國の海運政策に付ては述ぶべきこと頗る多きも、目下政策上 安定なきを以てこれを省略、強て指摘せば郵便航送料に就て從

來の綜合的輸送料支給方法を廢し一封度當幾何の制度を採り内外船に左の差別を設けた

米國船に依るもの八〇仙、外國船全三五仙 (各一封度)

米國船	大西洋	ニ、〇八四、〇〇〇	太平洋	一、四四、七三三	其他	一、〇三三、六三三	合計	三、一五二、三六六
外國船	全	一、三六八、三三九	全	一、三六八、三三九	全	二〇九、六六六	全	一、六四一、五九九

海運補助の制度なし。

△伯刺西爾

最大の「ロイド、アラジレイロ」會社は、政府の直營に係るものにて、又航路補助金の支給を受け居る會社は、沿岸航行のものなり、其の補助金の年額合計三百十四萬九千二百「ミルレース」に達せり。

△亞爾然丁

郵便物の遞送につき、船舶の出入港上、多少の便宜を與へつゝあるも、別に補助金支給の制度なし。

△智利

政府は、南部諸島及本土間の、聯絡維持の爲、年額二十八萬一千四百「ペン」迄の支出を爲す機能を有せるも、其の支給は臨機應變であつて、額も會社も航路も一定せず。

△支那

大正九年十月月航業獎勵條例の發布ありて、交通部の指定に係る定期航海に従事する一定資格の船舶は、獎勵金を受くることとなり。その資格、航路の別に依つて自から異なり。又獎勵金の率も、遠洋航路船に在つては、一千海里につき、一噸毎に二角、其の他の船舶に在つては、八百海里につき一噸毎に一角といふ風に夫々區別す。

△獨逸

最近同國郵便物が、漢堡及「アレーメン」から直接海外に航送せらるゝに至り、戦前と同様、政府は郵便物運送の報償として、現行萬國郵便條約に依り、航送料を支拂ふべき旨汽船會社と契約を結べるが、其の以外には目下何等補助の施設なし。

△英吉利

英國は、大體戦前の状況に復歸し。「ローヤルメル、ステイム、バケット」會社との、郵便定期航海補助契約は一九一五年を以て期間満了となれるも、最近の情報に依ると、目下猶従前の契約を繼續せり。又「キユーナー」會社に對する新契約を檢べて見るも、之亦全く戦前と同一の内容を踏襲せり。

□遠洋航路補助法

帝國臣民又は帝國臣民のみを社員若しくは株主とする商會社にして運送業を営むものは、(一)歐洲、(二)北米(三)南米、(四)濠洲の航路に、五年以内の期間を限り、航海補助金の附與を受け、定期航海を營むことを得。船舶資格補助航海に使用せらるる船舶は、總噸數三千噸以上にして、一時間十二海里以上の速力を有し、帝國船籍に登錄されたる、船齡十五年以内の鋼製汽船たるを要す。外國製造の船舶は使用するを得ず、但し帝國船籍に

登録の際、船舶五年以内にして、已むを得ざる事由に出づるものは、主務大臣の認可を得て、之を使用するを得
補助金額—使用船舶總噸數一噸、航海里數一千海里につき速力一時間十二海里を要するものに對し、五十錢以内
速力一時間 海里を増す毎に、其百分十を増したる金額以内に於いて、航海の状況に應じ支給さる。船舶五年を
超ゆる船舶に對しては、一年毎に其百分五を遞減さる。外國製造の船舶に對しては、半額の支給に止まる。特に
主務大臣の認可を得たる設計に依り製造したる船舶、又は定期航海の開始後五年を経過せざる航路に使用する船
舶に對しては、右金額百分二十五以内の増給あり。

義務—(一)旅客、貨物の運賃を定むるに、主務大臣の認可を経ざるべからず。(二)郵便物及び郵便用品を無賃に
て搭載し、無線電信の通信に關する設備を爲し、且つ通信事務又は航路視察の爲め、主務大臣の派出する吏員、
無賃にて乗船せしめざるべからず。(三)其費用を以つて一定の航海修業生を乗組ましめざるべからず。
(四)主務大臣の定むる補償金額を以つて、其船舶を公用の爲め收用又は使用せらるるを拒む能はず。(五)補助金
を受けて航海する期間、及び最終の航海を終はりたる日より三年間、其船舶を外國人に讓渡し、
貸渡し、又は擔保に供することを得ず。以上を其義務の主要なるものとす。

起點	終點	寄港地	使用船舶	航海度數
△北米航路	桑港線	香港、神戶、長崎、上海	三隻	一萬三千五百噸以上 十八海里以上 一萬三千五百噸以下 二十海里以下
△西廻航路	桑港線	香港、神戶、長崎、上海	三隻	一萬三千五百噸以上 十八海里以上 一萬三千五百噸以下 二十海里以下
△南米航路	西岸線	香港、神戶、門司	六隻	六千噸以上 十三海里以上 九千七百噸以下 十五海里以下

起點	終點	寄港地	使用船舶	航海度數
△南米航路	東岸線	(神戶—ヴエノスアイレス間)	六隻	五千噸以上 十三海里以上 七千噸以下 十五海里以下
△往航	橫濱、長崎、香港、新嘉坡、ケープタウン、サントス	六隻	五千噸以上 十三海里以上 七千噸以下 十五海里以下	
△復航	リオデジャネイロ、サントス、クリストバル、橫濱	六隻	五千噸以上 十三海里以上 七千噸以下 十五海里以下	

□ 郵便定期航路補助規定

郵便定期航路補助の爲め左の條件に依り大正十年度以降三箇年度間毎年度百四十五萬圓以内を支出するの契約を
結ぶことを得
一 政府の命する所に依り郵便物を運送すること
▲ 橫濱倫敦線は總噸數五千五百噸以上速力一時間十五海里以上の鋼製汽船を以て毎二週一回以上一年期間二十六
回以上航海を爲す事
▲ 神戸沙府線は總噸數五千五百噸以上速力一時間十二海里以上の鋼製汽船を以て毎週二回以上一年期間三十四回
以上航海を爲す事
▲ 神戸香港線は總噸數五千五百噸以上速力一時間十四海里以上の鋼製汽船を以て毎三週一回以上一年期間十七回

以上航海を爲すこと

▲横濱メルボルン線は總噸數五千噸以上速力一時間十五海里以上の鋼製汽船を以て毎月一回以上一年期間十二回以上航海を爲すこと

- 一、政府に於て必要と認むる時は各航路内に於て寄港地を増加し又は之が變更を命ずることあるべきこと
 - 一、政府の認可を受けたる時は前記の資格に適合せざる船舶を使用するを得ること
 - 一、政府は必要に應じ相當金額を給與して各航路に使用する船舶を公用の爲め買収し又は使用する事を得ること
 - 一、補助金は命令書の定むる所に從ひ支給すること
 - 一、政府は契約者に於て命令を履行せしむる若し違背したる事實ありと認めたるときは所爲の輕重により相當の金額を徴收すること
 - 一、前數項に於て一年期間と稱するは其年四月一日に起り翌年三月三十一日に終る一周年間を謂ふ
- 即ち郵便補助航路左の如し
- 一、横濱、倫敦線
 - 一、神戸、シャトル及神戸香港線
 - 一、横濱、メルボルン線

□補助命令航路

十二年四月一日現在遠洋近海及沿海を通し政府の補助命令航路と稱するは左記内容にして此補助航路に對しては左の附帶條件あり

- 一、政府ニ於テ必要ト認ムルトキハ各航路内ニ於テ寄港地ヲ増加シ又ハ之カ變更ヲ命スルコトアルヘキコト
- 一、旅客貨物ノ運賃ハ政府ノ認可ヲ得テ之ヲ定ムルコト
- 一、政府ニ於テ必要ト認ムルトキハ種類ヲ指定シテ旅客貨物ノ運賃ヲ低減セシムルコトアルヘキコト
- 一、各航路ニ使用スル船舶ニ依リ運送スル郵便物ハ無賃タルヘキコト
- 一、政府ハ契約者ノ費用ヲ以テ各船舶ニ航海修業生三名以内ヲ乗組マシメ政府ノ定ムル手當ヲ支給セシメ得ル事
- 一、政府ハ公益上必要ト認ムルトキハ相當ノ金額ヲ給與シテ各航路ニ使用スル船舶ヲ買収シ又ハ使用スルヲ得ルコト
- 一、政府ハ非常事變ノ際ニ於テ各航路ノ船舶並ニ船員ヲ使用スルヲ得ルコト但シ此ノ場合ニハ相當ノ使用料ヲ支給スルコト
- 一、補助金ハ命令書ノ定ムル所ニ依リ支給スルコト但シ航海度數ヲ減シタルトキ又ハ命令書ニ規定シタル各地ニ航行セス隨テ航海里數減縮シタルトキハ命令書ノ定ムル所ニ依リ補助金ヲ減スルコト
- 一、政府ノ認可ヲ受ケ若ハ己ムヲ得サル事故ノ爲前記ノ資格ニ適合セサル船舶ヲ使用スルトキハ命令書ノ定ムル所ニ依リ補助金ノ支給額ヲ減少スル場合アルコト
- 一、補助金年額ノ約一割ニ相當スル保證金ヲ徴收スルコト
- 一、正當ノ事由ナクシテ航海度數ヲ缺キタルトキ、相當ノ船舶ヲ使用セサルトキ、船舶ノ修繕若ハ補充ヲ爲ササルトキ、航海時間ヲ遅延シタルトキ、起點終點ノ兩港ニ於ケル發着日時ヲ變更シタルトキ、郵便物揚卸ノ契約ニ違背シ若ハ寄港地ヲ省キタルトキ、其ノ他命令書ノ規定ニ違背シタルトキハ一日若ハ十二時間未滿又ハ一回毎ニ所爲ノ輕重ニ依リ相當ノ金額ヲ徴收スルコト

一、政府ノ認可ヲ得シテ契約者義務ヲ他人ニ移轉シ又ハ一年期間ニ於テ命令書ニ規定スル缺航ヲ爲シタルトキハ契約ヲ解除シ補助金ノ支給ヲ廢止シ當該年期間既ニ執行シタル航海ニ對シ支給シタル補助金ヲ還納セシメ且保證金ヲ沒收スルコト

一、前數項ニ於テ一年期間ト稱スルハ其ノ年四月一日ニ起リ翌年三月三十一日ニ終ル一週年間ヲ謂フ

□ 航路内容及受命者 (以下自十二年四月一日契約濟) 至十五年三月末日

航路	航海度數	使用船	受命者
△北米航路(桑港線、遠洋補助)	每四週一回年十四航海以上	三隻	東洋汽船
一、西廻、橫濱、香港間			
一、東廻、橫濱、桑港			
△南米航路(西岸線、全)	每一ヶ月一回年十二回	六隻	同
一、西廻、橫濱、香港			
一、東廻、橫濱、バルバライン間			
△南米航路(東岸線、全)	每三ヶ月二回以上一ヶ年十航海	六隻	大阪商船
神戶、ウエノスアイレス間			
△南洋航路(瓜哇線、以下命令航路)	每三週一回一ヶ年二十航海以上	二隻	全
スラバヤ、盤谷間(寄港地、新嘉坡、バタヴィヤ)			

△南洋航路(瓜哇線、神戶、スラーバヤ間)	每三週一回年十八回以上	四隻	南洋郵船
△南支那沿岸線(上海、廣東間(汕頭、香港寄港))	每月三回一ヶ年三十六回以上	二隻	日清汽船
△義昌、重慶間	每月四回以上一ヶ年二十四回減水期は停止	二隻	全
△支那航海(上海、漢口線)	每年三月一日より十二月末日迄十箇月間は每三週月十六回以上翌年一月一日より二月末日迄二箇月間は每二週日九回以上一年期間二百七十回以上	八隻	同
上海、漢口間			
△同漢口、宜昌線	每年四月一日より九月末日迄六箇月間は毎月九回以上十月一日より翌年三月末日迄六箇月間は毎月五回以上一年期間八十四回以上	三隻	同
漢口、宜昌間			
△同漢口、湘潭線	每月八回以上一年期間六十八回以上但し減水期は航行を停止し又は航行度數を減少することあるべし、此場合に於ては相當の方法に依り毎月三回以上城陵磯長沙に船便を通ず	二隻	同
漢口、湘潭間			
△漢口、常德線			

漢口常徳間 毎月一回以上一年期間十二回以上但し減水期は航行を停止し又は航行回数減少することあるべし。尚ほ支那航路に於ては、右の外減水期中汽船一艘を用ひ、楊子江本流の航行に従事せしむ。

△大連線

神戶大連間 毎週日二回以上一年期間百四回以上

△上海線

(イ)長崎上海線(長崎上海間) 毎四日一回以上一ヶ年九十回

(ロ)神戶上海線(神戶上海間) 毎週二回以上一年期間百四回以上

(ハ)横濱上海線(横濱上海間) 毎月五回以上一ヶ年六十回

△北支那線

(本線) 神戶牛莊間 毎週一回以上一年期間十二回以上

(附屬線)

横濱牛莊間 毎三週日二回以上一年期間三十六回以上

神戶天津線(神戶天津又は太沽) 毎週一回以上一ヶ年五十二回

本線は往復航とも、門司、天津又は(太沽)に寄航し、尚ほ二航海に一回宛、往復航交互に長崎に寄航す、但し冬季牛莊結氷の場合に於ては、航海を天津又は(太沽)に止め、牛莊並に天津又は(太沽)ともに結氷の場合に於ては航海を停止す。

附屬線は往航四日市又は名古屋、神戶、門司、仁川、大連、天津又は(太沽)に寄港し、復航大連、門司、神戶に

一 隻 同

四 隻 大阪商船

二 隻 日本郵船

三 隻 日本郵船

一 隻 近海郵船

三 隻 近海郵船

三 隻 近海郵船

寄港す。但し冬季結氷の場合に於ては、航海を天津又は(太沽)に止め、牛莊並に天津又は(太沽)ともに結氷の場合に於ては、秦皇島に寄港す、此場合に於ては二航海に一回宛、往航、復航交互に長崎に寄港し、又遞信大臣の命令あるときは、復航四日市又は名古屋に寄港す。

△本州北海道連絡線

青森室蘭間 毎日一回以上一年期間三百六十五回以上

△日本海航路太線

函館大泊間 冬期に小樽を廢し太泊及真岡寄港毎月五回以上一年期間六十回以上

△日本海航路浦鹽斯德線

敦賀浦鹽斯德間 毎週一回以上一年期間四十八回以上

△同浦鹽斯德廻航線

小樽浦鹽斯德間 (甲線) 毎年一月を除くの外毎月一回以上一年期間十八回以上 (乙線) 毎年三月より九月迄毎月一回以上一年期間八回以上

甲線は一年期間内、伏木、七尾に四回以上、青森に八回以上寄港、乙線は復航七尾、伏木、新潟、函館に寄港し尚ほ一年期間内青森に二回以上寄港す。

△青島線(神戶門司青島) 毎月六回一ヶ年七十二回以上

三 隻 日本郵船

大阪商船

日本郵船

大阪商船

日本郵船

大阪商船

日本郵船

大阪商船

日本郵船

大阪商船

日本郵船

大阪商船

日本郵船

大阪商船

日本郵船

大阪商船

日本郵船

大阪商船

△ニコラエスク線(函館ニコラエスク) 毎月一回一ケ年十回 一隻 北日本汽船
 △ベトロバアロフスク線(函館ベトロバアロフスク) 毎月一回一ケ年七回 一隻 栗林商船
 △朝鮮西岸線 一隻 朝鮮郵船
 (東京仁川間)(門司、釜山、群山、木浦寄港) 毎月二回一箇年二十四回以上 二隻 大阪商船
 △鹿児島那覇連絡線 一隻 朝鮮郵船
 (鹿児島那覇間) 毎週二回以上一年期間百四回以上往復航共名瀬に寄港す 二隻 大阪商船
 △南洋占領地航路並に青島航路も全しく命令航路なるも特別關係の下に補助され居るを以て其内容詳記を省略す
 △地方廳補助航路
 (北海道廳) ▲函館網走千島線(函館擇捉間、函館網走間、函館占守間、(日本郵船) 函館根室間(北洋商船)
 ▲小樽斜里線(日本郵船) ▲小樽稚内線甲線(日本郵船) 乙線(藤山要吉) ▲石狩川線(藤原由藏) ▲函館日高線
 (金森商船) ▲函館釧路線(全) ▲根室近海線(根室海運) ▲函館瀬棚線(藤山要吉) ▲函館小樽線(全)
 (東京府) ▲小笠原島線(日本郵船) ▲母島姪島線(前田衛) ▲父島弟島線(淺沼文之助) ▲父島母島線 ▲母島姪島
 線(佐藤福吉) ▲伊豆三宅島線、▲神津島線 ▲御藏島線 ▲大島線(東京海汽船)
 (島根縣) 隠岐國線(隠岐汽船)

(鹿児島縣) ▲五箇島線 ▲十島線(大洋商船)
 (沖繩縣) ▲先島線(大阪商船) ▲各離島線(國頭運送)
 (長崎縣) 九州壹岐對馬線(對馬商船)
 (富山縣石川縣) 内地浦鹽斯德朝鮮東岸線(北陸汽船)
 ▲朝鮮並に臺灣總督府及樺太廳經營補助航路を省略す
 □航路補助内容
 現在逕信省及殖民地政府が航路補助金として支出せる航路別補助金額左の如し
 △遠洋補助航路
 北米航路 一、八六六、八九七
 南米航路 一、三三六、二〇二
 全西岸線 一、五四七、八七〇
 △近海補助航路
 南洋航路 四七〇、〇〇〇
 南米瓜哇盤谷航路 三七〇、〇〇〇
 南支那航路 二〇〇、〇〇〇
 青島航路 一四〇、〇〇〇
 大連航路 (浦鹽) 一四〇、〇〇〇
 日本海航路 三一〇、〇〇〇
 支那航路 (長江) 三八一、〇〇〇
 上海航路 四五〇、〇〇〇
 南支那沿岸航路 一一七、〇〇〇
 宜昌重慶航路 二〇〇、〇〇〇
 内地浦鹽朝鮮東岸航路 四〇、〇〇〇
 朝鮮西岸航路 九〇、〇〇〇
 九州壹岐對馬間航路 三〇、〇〇〇
 北支那航路 一一〇、〇〇〇
 北海道本州連絡 五〇、〇〇〇
 北海道航路 二〇七、一三四
 函館巴港航路 四〇、〇〇〇
 ベトロバアロフスク航路 四〇、〇〇〇

鹿兒島那覇連絡
伊豆諸島
小笠原東京航路
小笠原各離島
九州壹岐對島航路
島根縣隱岐國航路
鹿兒島各離島
沖繩先島航路

六〇、〇〇〇
一一、五九六
三〇、〇〇〇
一、〇二〇
三〇、〇〇〇
一三、〇〇〇
三四、二〇〇
二七、〇〇〇

沖繩各離島
新潟佐渡航路
△殖民地航路
臺灣總督府
朝鮮總督府
樺太廳
各命令航路内譯は不詳

九、〇〇〇
二〇、〇〇〇
一、〇〇二、〇〇〇
七八五、八〇五
三四七、〇〇〇

□世界汽船會社主要航路

(巴奈馬經由航路)

△太平洋汽船會社
□太西洋、南米及中米間航路

(北米)クリストバル、シヤンペリコ間 (南米)バルパライソ、コロソ、コロネル、シヤペリコ
トコマイク、アドリアン諸港間 毎二三日一回

智利、秘露、バルパライソ間 二週一回
クリストバル、ナベンチユラ、トマコ間 三週一回

△南米汽船會社
クリストバル、バルパライソ間 週一回 秘露、智利、諸港、

△秘露汽船會社
クリストバル、秘露間 週一回 モレマド、秘露ペーダ、エテン、パカスマヨ、サラベリカラオ其他南部諸港

△太平洋鐵業會社
クリストバル、バナンチユラ、コロソビヤ間 月二回

△コロソビヤ運輸會社
クリストバル、バナンチユラ、トマコ間 月二回
右の内太平洋鐵業會社を除く他は貨客運輸併營す、

△太平洋郵船會社
□大西洋より太平洋岸中央及北米航路

クリストバル、桑港間 十五日一回 中米及墨西哥諸港、北米大西洋岸より南米太平洋岸に至る

△グレース商會
紐育イクアドア、秘露及智利間 週一回

△太平洋運輸會社
紐育、バルパライソ間 二週一回 カラオ、マレンド、アリカ、イキケ、アントファガスタ

△米國鋼業會社
紐育、バルパライソ間 三週一回

△ニューオリアンズ南米汽船會社

ニューオリアンズ、エクドア、秘露及智利間 月一回

△ニューオリアンズ、クリストバル間

パナ及ボトリカン、トリニダット、ガエルプ、クリストバル、

△グレース汽船會社

紐育、秘露、智利間 二十日一回 (客船二隻)更に(三隻二週一回の計畫中)

△セ、ウエスト、コースト汽船會社

紐育、智利及秘露間 三週一回(一隻)

△東亞汽船會社

□歐洲太平洋間航路(歐洲南米太平洋岸間)

△コッペンハトゲン、バルバライソ間

二週一回 ゴツテンブルヒ、クリスチャニヤ經由バルバライソ及其

△瑞及スカンチナビヤ諸港

瑞及スカンチナビヤ諸港よりバルバライソ其他の南米西岸港に至る間 二月一回

△ノーチラス汽船會社

英國、南米西海岸 月一回 英國諸國よりマゼラン海峡經由南米西岸、巴奈馬經由英國諸港

△ロイヤル、グッチ、ウニスト、インディア郵船會社

ロツテルダム、南米西岸間 月一回

△太平洋運輸會社

英國、秘露、智利間 週一回 巴奈馬經由及マゼラン經由

△セネラル、トランス、アトランチック汽船會社

ハーブル、バルバライソ間、エクアドア、秘露、智利諸港

△スカンチナビヤ諸港

桑港間 四週一回 (乗客のみ)

△ツヨソン汽船會社

瑞典、桑港間 二月一回 (發動機船)

△諾威太平洋汽船會社

スカンチナビヤ、北米太平洋岸間 (發動機船)

△ハリソン、テイレイト汽船會社

英國、ビユーセツトサウインド間 六週一回 馬耳塞、バルセロナ、テネリフ、バルバドス、トリニダット、ウエネズエ

△ラ、ベロス汽船會社

ゼノア、バルバライソ間 二月一回 一ラ、キューラソ、コロンビヤ諸港、ボトリモン、クリストバル、エ

△東亞汽船會社

□歐洲北米西海岸航路 紐育、晚香坡、カルフォルニヤ、サンタロザリア、諸港歐洲

△メーブルリーフ汽船會社

歐洲、紐育、晚香坡間 五週一回 歐洲航路

△イスト、アチアチック會社

桑港基點 月一回

□大西岸太平洋間航路

北米大西洋岸より日本、西伯利亞、支那及び比律賓群島間航路
本航路に従事する汽船會社は貨物の如何によりて配船さるるものなり

△米國東亞汽船會社

△ハーバー汽船會社

△シューワンゼームス汽船會社

△アルフレッド、ホルスト汽船會社

△米國滿洲汽船會社 (三週一回)

△日本郵船會社 (月一回)

△國際汽船會社 (月一回)

△ノルトリリー汽船會社 (略月一回)

△大阪商船會社 攻馬經由日本、ニューオルリアンス間 (月一回)

△東亞汽船會社 巴奈馬經由極東間 (臨時)

△巴奈馬極東汽船會社 巴奈馬經由極東丁抹間 (臨時)

△ニューオルリアンス、モビル、墨西哥灣沿岸諸港、日本間 (臨時)

△東洋汽船會社

△玫瑰、巴奈馬及び桑港經由紐育東洋間 (六十日一回配船)

△プリンス汽船會社

△ボストン紐育極東間 (臨時)

△太平洋アンチホーツ間(合衆國太平洋岸より濠洲新西蘭間)

△ゼ、ユナイテッド、エンド、オーストラリア會社

△紐育、新西蘭諸港濠洲間 (月一回)

△エラーマン會社 紐育より濠洲、新西蘭間 (不定期)

△リユツケンバツハ汽船會社

△フエテラル汽船會社

△新西蘭紐育間 (六週一回)

△アメリカン、チーストラリア會社 紐育濠洲間 (月一回)

△コンモンウェルス、エンド、ドミニオン會社

△新西蘭汽船會社 同上 (四週一回)

△新西蘭英國間 二十八日一回

△コンモン、ウエルス、ガヴァーメント

英國濠洲間 三週一回 合衆國諸港經由

△セ・シオウ、サヴイル、エンド、アルビオン會社

英國新西蘭間 (客) 月一回 (貨) 二週一回

△大西洋汽船會社

大西洋岸桑港間 三週一回 コロンビヤ、ハバアナ經由バルチモア、桑港

大西洋岸桑港間 三週一回 中央亞米利加諸港經由桑港

本項は十年三月現在なれば其後變更ありて現状と相違を免れず

□ 紐育中心航路 (各汽船會社名)

十年度に入り各汽船の航路復舊は依然持續されしが全年末現在に於ける紐育を中心とする各航路に於ける各汽船會社を左に畧記せん

(一) 紐育倫敦 (廿六社)

▲アメリカン・ライン ▲アメリカン・コンマーシャル ▲アンカー・ライン ▲アーケン・コンパニー ▲アマランテック ▲トランスポート ▲パーバー・ライン ▲フース・ラ

(二) 紐育南米 (五十二社)

▲アメリカン・リオブラタ ▲アメリカン・ユニオン ▲パーライン ▲ブリス・ライン ▲カリビーシ・ステームシツプ ▲カルチール・ステームシツプ ▲コロムバマス・マリタイム ▲クライド・ステームシツプ ▲ゼームスダブリュエルヴエル ▲ジョン・エスエミレ ▲フアイブ・コンテナント ▲フランソ・カナダ ▲フレンチ・エツチ ▲フアネス・ウインジ ▲グロバー・ライン ▲グレース・ライ

(三) 紐育佛國 (三十八社)

▲アメリカン・ライン ▲アメリカン・ズター ▲アメリカン・ステームシツプ ▲アンダール・アレンチライン ▲パー・ライン ▲コンバエントランス・アトランテック ▲コスモポリタン・シツピング ▲フアブ・ライン ▲フランス・カナダライン ▲フレンチ・アメリカン ▲フレンチ・ライン ▲フホーレン・トランスポート ▲フアネツ・コンパニー ▲ガストン・ウイリヤム ▲青星ライン ▲インデペンデント・ステームシツプ ▲ケーヤ・ステームシツプ ▲ロイド・ローヤル ▲ラツケンバン・ステームシツプ ▲マロリー・ステームシツプ ▲マリタイム・ナ

イン ▲ブリツ・ルシテイ・ライン ▲チャール・ライン ▲コンマーシャル・ユーロピアン ▲キユーナード・ライン ▲エラマン・ウイリヤム ▲フエテイラル・ライン ▲フアーネス・ライン ▲ガーランド・ステームシツプ ▲ガストム・ウイリヤム ▲インタナショナル・コーポレーション ▲ランポート・ホルトライン ▲ノールトリリー・コンパニー ▲エトワードラフエルコンパニー ▲シガー・ステームシツプ ▲ユーエス・ナビゲーシオン ▲フランク・ウオーグハウス ▲ホワイト・スター ▲ウイリヤム・ステームシツプ ▲ウインチ・スター

ビゲーション・ムーア・マツコニツク・ノルトン・リ
 ▲オリエンタル・ナビゲーション・ラツレエン・コン
 パニー ▲イノアド・コンパニー ▲シーガー・ステーム
 シツプ ▲サウス・アトランテック ▲ステーツマリン
 ターミナル・シツペンク ▲三星ライン ▲アメリカン・フ
 レンチ ▲ユーナイテッド・トランスポート・シジョン
 ユニバーサル・トランスポート・シジョン ▲白青ライン
 ▲ウイリヤム・ステームシツプ ▲エンチネット ▲エス
 オーストレイ

(四) 紐育伊太利 (廿八社)

▲アメリカン・ライン ▲アメリカン・スター ▲アメリカ
 シン・ステームシツプ ▲アンカー・ライン ▲ブル・コンパ
 ニー ▲コロンバス・マリー ▲キユーナード・ライン ▲フ
 エアラル・ライン ▲佛米ライン ▲フアンチエツラ・コン
 パニー ▲フアーネス・ウイツチ ▲青星ライン ▲イン
 ー・アライド ▲イタリアン・アメリカン ▲イタリアン
 シツプ ▲エーセンシケイヤー・ステームシツプ ▲リン
 コルン・ステームシツプ ▲ロイド・イタリー ▲ロイド
 サウアウド ▲ラツケンパン・ステームシツプ ▲マクド

ネル・アントツル ▲ムーア・コンパニー ▲ノールト
 ン・リリー ▲オーシジョン・トランスポート・シジョン ▲ピ
 ーアス・ライン ▲フェルプス・アラザー ▲リチャード
 コンパニー ▲ローマニー・ステームシツプ ▲サウス
 アトランテック ▲ステーツ・マリン ▲三星ライン ▲ロ
 バード・トツト ▲トランス・アトランテック ▲イタリアン
 ▲トランス・オーシヤニカ ▲ユーエス・ナビゲーション
 ▲ユニバーサル・トランスポート・シジョン ▲白星ライ
 ン ▲ウイリヤム・ステームシツプ

(五) 紐育獨逸 (十六社)

▲アメリカン・ライン ▲バーバー・ライン ▲キユーナ
 ド・ライン ▲フランクス・カナダ ▲ポーランド・メリカ
 ン ▲インダナシヨナル・マリタイム ▲インダナシヨナ
 ル・マーカント ▲タイム ▲インダナシヨナル・ステームシツ
 プ ▲ケイヤー・ステームシツプ ▲ラツケンパン・ステ
 ムシツプ ▲ムーア・マツク ▲ナシヨナル・ステームシ
 ツプ ▲リチャード・ステームシツプ ▲ビーエス・ナビゲ
 ーション ▲白星ドミニオン ▲ローヤル・メール

新嘉坡中心航路 (各汽船會社別)

東西兩洋の咽喉たる新嘉坡中心の會社別航路左の如し
 (一九二二年末現在)

一、歐洲航路

△日本

▲横濱、安土府線、日本郵船一一隻、二週一回 ▲日
 支漢堡線、日本郵船八隻、補助航路 ▲日支、漢堡線、
 大阪商船八隻、補助航路 ▲歐洲、日本線、ケーライ
 ン、不定期 ▲日本、李浦線、日本郵船八隻、補助航
 路

△英國

▲横濱、倫敦線 ビーオー汽船一二隻、二週一回 ▲日
 本英獨線 オーシヤン汽船、支那ミューチアル汽船不
 定、約一週一回 ▲日本歐洲線、エラーマン、バツク
 ノール汽船不定、二週一回 ▲横濱漢堡線、グレン、
 シャーライン社不定、二週一回 ▲日本倫敦線、ベン、
 ライン社不定、二週一回 ▲新嘉坡、馬耳塞線、エイ
 チ、エム、エイチ、マザジー社不定期

△佛國

▲横濱、馬耳塞線、エム、エム社一三隻、二週一回
 ▲日支、佛國線エム、エム社貨物船一〇隻二週一回
 ▲海防、西貢線、チャーチアス、リユーニス社不定
 月一回

△瑞典

▲日支歐洲線、瑞典東亞社七隻、不定期

△丁抹

▲日支、歐洲線、丁抹東亞社不定期

△伊太利

▲日支、アドリア海線、ロイド、トリエスチノ社不
 定、月一回

△西班牙

▲マニラ、新嘉坡、パロセロナ線 スパニツシユ、メ
 ール社四隻、月一回

△米國

▲海峽地方、漢堡線 パーバーライン社不定、月一回

△和蘭

△瓜哇、アムステルダム線、ネーデルラントローヤル郵船不定、二週一回△瓜哇、ブレイメン線、ポerland、オーストアジア社、四隻、月一回

△日支、ロツテルダム線、エヌ、デー、エル、及エイチ、エー、エル社不定期△ブレイメン、日支線、ヒューゴスチンネス社不定、月一回

二、北米航路

△日本、紐育線(スエズ經由)東洋汽船、不定期△海峽地方、紐育線(パナマ經由)大阪商船、不定期、月一回

△英 國

△支那、紐育、ホストン線(スエズ、パナマ隨意)エライマン、マツクノール汽船、オーシャン汽船不定、二週一回△新嘉坡、紐育、ホストン線(スエズ經由)プリンス、ライン社不定期月一回△海峽地方、紐育、ホストン線(スエズ經由)ドッドウエル、キヤツスル

四、孟買航路

△日 本

△横濱、孟買線、日本郵船、四隻二週一回△横濱孟買線大阪商船不定二週一回△日本孟買線、日本郵船、不定補助航路

△英 國

△日本孟買線ビーオー汽船、不定、二週一回

△英 國

△新嘉坡、ネガバタム線ビーアイ汽船二隻二週一回

△日 本

△日本、甲谷陀線、日本郵船、不定二週一回△日支、甲谷陀線、大阪商船不定月一回

△英 國

△日支、甲谷陀線、英印汽船五隻、二週一回△日比、甲谷陀線印支汽船不定、二週一回△新嘉坡、甲谷陀

線社不定、月一回

△米 國

△海峽地方紐育ホストン線(スエズ經由)ダラー線社不定期月一回△海峽地方紐育線(パナマ經由)ダラー線社不定、月一回△海峽地方、ホストン、紐育線(スエズ經由)イツサミアン社不定、月一回

三、南米航路

△日 本

△日支ベノス、アレイス線、大阪商船不定、二月一回△日支ベノス、アレイス線日本郵船不定二月一回

△英 國

△新嘉坡フレマントル線オーシャン汽船二隻、月一回△海峽地方ニューカッスル線、コンモン、ウエルス、ガバーメント線社二隻月一回△海峽地方、斯土寧ビーアイ社不定、月一回△新嘉坡フレマントル線ステート、シツピング、サービス二隻、月一回△新嘉坡フレマントル線、西濠州汽船、二隻月一回△新嘉坡メルボルン線、バーンス、ヒリツプ社四隻月一回

線英印汽船、不定二週一回

△米 國

△支那、甲谷陀線、バシフ井ツクメル社不定、二週一回

△日 本

△ベラワン、基隆線、大阪商船二隻月一回

△和 國

△ベラワン、汕頭線、ケー、ビー、エム社、二隻二週一回

△英 國

△蘭買、汕頭線、シアンダ、線社三隻、二週一回△新嘉坡、上海、チャイナ、ナビゲーション社不定、二週一回△廈門、上海線、チャイナ、メール社、不定約月一回△蘭買、汕頭線、ホ、ホン汽船、二隻月一回

〔巴奈馬通航船國別(一九二一年度)〕

英國 別 隻 數 總噸數 積荷量
九七五 五、〇〇八、七六七 三、四四〇、〇〇〇

伯國	智利	和蘭	丁抹	佛逸	獨逸	白逸	伊國	日本	日威	墨威	諾威	秘露	露威	葡國	西國	瑞典	米國	合計
一	四	六	六	二	四	三	五	三	一	三	六	六	五	四	一	三	一	二
五、四七三	三九、六四九	三、四七三	三、九〇三	四、六二〇	二、四九八	三、九〇六	二、四四三	二、一八四	一、一六八、八六五	四、四三九	六、四九九	一、九六〇	二、四七七	一、五八四	一、九六〇	一、九六〇	一、九六〇	一、九六〇
七、〇〇〇	三八、〇〇〇	三五四、〇〇〇	二七一、〇〇〇	七、〇〇〇	一、一八、〇〇〇	三、一〇〇〇	二、〇〇〇	三、七〇〇	九八、〇〇〇	四、〇〇〇	五、三〇〇	二、〇〇〇	七、〇〇〇	一、〇〇〇	六、〇〇〇	一、五〇〇	四、五五、〇〇〇	一〇、七〇七、〇〇〇

□ 巴奈馬經由船舶數

十年度に於ける巴奈馬經由の各國船舶數は左の如し

北米東岸より極東へ	北米東岸より南米西岸へ	北米沿岸廻航	墨國東岸より南米西岸へ	北米東岸より濠洲へ	歐洲より濠洲へ	歐洲より南米西岸へ	墨國より北米西岸へ	歐洲より北米西岸へ	クリストバルより南米西岸へ	北米東岸より加奈陀西岸へ	クリストバルより北米西岸へ	クリストバルより中米西岸へ
一八七	二五三	一七七	七七三	九〇四	七三三	七三三	九〇四	七三三	一三六	一三七	一五二	一五二
九一五、七三〇	八三七、二五四	七八三、四三〇	八三、四六六	六、八五四	八九、七六三	五三、三三三	一四三、〇四六	三八三、〇二八	二二八、〇〇八	五九、九七八	四三、五三三	四三、五三三
隻數	發薄噸	隻數	發薄噸	隻數	發薄噸	隻數	發薄噸	隻數	發薄噸	隻數	發薄噸	隻數

西印度より北米西岸へ	其他	北米西岸より歐洲へ	南米西岸より北米東岸へ	南米西岸より歐洲へ	北米沿岸廻航	極東より北米東岸へ	加奈陀西岸より歐洲へ	濠洲より北米東岸へ
一三三	一〇、九三一	一五八	二五九	一七六	一四三	七〇	三三	二七
三、八四、〇〇八	七、八二、一三三	七、八、八六六	七、四三、一四六	七、四三、一四六	七、〇一、五三〇	三、五二、九〇四	二、〇三、二二七	一、五六、二八四
南米西岸よりクリストバルへ	北米西岸よりアゾール島へ	北米西岸より西印度へ	中米よりクリストバルへ	北米西岸よりクリストバルへ	北米西岸より墨國東岸へ	中米西岸より北米東岸へ	南米西岸より墨國東岸へ	北米東岸より北米東岸へ
一五五	一三七	一三	三九	二二	四〇	七九	九	八九
二、三、七、四六六	五、九、九二〇	三〇、六九六	二、五、七三三	四、一、九七六	二、〇四、九七七	三、二、二四	四、〇〇、四四五	五、一、四四八
隻數	發薄噸	隻數	發薄噸	隻數	發薄噸	隻數	發薄噸	隻數

□ 十一年度開設新航路

大正十一年度に於て開設されたる世界主要航路並に東洋近海諸航路を左に略示せん

△ 歐洲航路

北獨ロイド	會社	航路	使用隻數	航度	開始月	備考
北獨ロイド	獨逸一組	獨逸一組	一隻	度	一月	考

タニツシ、イースト
 キユーナード
 米船船院
 ロイド、サバンド汽船
 アメリカン、ライン
 トランス、アトランチック
 青 星 線
 アイリッシュ、アメリカン、ライン
 イスマリアン汽船
 プラツク、グイヤモンド
 レイクス、アラザ
 同
 同
 ルーズヴェルト
 ロイド、ブラヂレイロ
 オシヤン、カクヤース
 ゼネラル、ステームシツプ
 佛國大西洋汽船

英國—スカンヂナビヤ	英國—加奈陀	ニユーオリンス—李浦	東印度—伊太利	沙市—歐洲	歐洲—濠洲	サウインド—英國	ポストン—愛蘭	サウインド、マンチエスタ	費府—ロツテルダム	ニユーオリンス—漢堡	ニユーオリンス—ロツテルダム	ニユーオリンス—倫敦	バルチモア—ハーブル	南米—歐洲	紐育—葡萄牙	歐—米—濠	佛國—紐育
月一回	二週一回	月一回	月一回	月一回	月一回	月一回	月一回	月一回	月一回	月一回	月一回	月一回	月一回	月一回	月一回	月一回	月一回
五月	一月	三月	三月	一月	一月	一月	一月	一月	一月	一月	一月	一月	一月	一月	一月	一月	一月
貨物船	客船	客船	客船	貨物船	貨物船	貨物船	貨物船	貨物船	貨物船	貨物船	貨物船	貨物船	貨物船	貨物船	貨物船	貨物船	貨物船

漢堡、亞米利加汽船
 カナダ、バシフイツク
 ファーネス、ウイツシユ
 ユーナイテッド、ステーツ
 ウイルヘルム、アンド、セン
 ガーランド汽船
 ケル汽船
 ホワイト、スター
 山下汽船

△北米航路

ロイド、サバンド
 マットソン、ナビゲーション
 カナデアン、バシフイツク
 ストラザース、パリー
 ロスアンゼルス
 加奈陀太平洋鐵道
 マロリー、トランスポート

漢堡—タンビコ	サザンブト—加奈陀	沙市—英國	紐育—倫敦	諾威—日本	紐育—歐洲	ポストン—獨逸	紐育—ブレームン	日本—歐洲	瓜哇—北米	リバー—布哇	ポストン—西印度	新嘉坡—桑港	ロスアンゼルス—ホノル	如奈陀—玖馬	紐育—南阿
一週一回	一週一回	一週一回	一週一回	一週一回	一週一回	一週一回	一週一回	一週一回	一週一回	一週一回	一週一回	一週一回	一週一回	一週一回	一週一回
六月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月
客船	客船	貨物船	貨物船	貨物船	貨物船	貨物船	貨物船	貨物船	客船	客船	客船	客船	客船	客船	客船

アドミラル、ライン	沙市—南洋諸島		月回		同	客
イスマス汽船	紐育—南阿		月回		同	客
米華汽船	紐育—香港		月回		同	客
ダラー、ライン	桑港—上海		月回		同	客
フアーネス、ウイシユ	桑港—東洋		月回		同	客
同	サウンド—東洋		月回		同	客
黄壁、黄	同—支那		月回		同	客
國際汽船	同—日本		月回		同	客
川崎汽船	紐育—東阿		月回		同	客
イヅアン汽船	坡士蘭—紐育		月回		同	客
メイン汽船	紐育—南阿		月回		同	客
ユナイテッド、ナビゲーション	紐育—太平洋岸		月回		同	客
マンソン汽船	太平洋岸—費府		月回		同	客
ユナイテッド、アメリカン	紐育—南米		月回		同	客
米國船院	支那—紐育		月回		同	客
アメリカン、チャイナ	プレーメン—紐育		月回		同	客
白星線	漢堡—桑港		月回		同	客
佛國太西洋汽船			月回		同	客

ユーゴスチンネス	同—東洋		月回		同	貨物船
アドミラル、オリエンタル	沙市—東洋		月回		同	貨物船
漢米汽船	漢堡—東洋		月回		同	貨物船
エライマン、ライン	倫敦—東洋		月回		同	貨物船
山下汽船	晚香坡—日本		月回		同	貨物船
ラナン、アメリカ、ライン	サウンド—南米		月回		同	貨物船
ロイド、ブラヂレイロ	南米—紐育		月回		同	貨物船
同	モンテビデオ—コロンボ		月回		同	貨物船
同	コロンボ—ホリビア		月回		同	貨物船
東洋汽船	日本—ニウオリン		月回		同	貨物船
米國船院	沙市—南米		月回		同	貨物船
山下汽船	北米—南米		月回		同	貨物船
米國船院	太平洋岸—南米		月回		同	貨物船
漢米汽船	ビルバオ—アルゼンチン		月回		同	貨物船
同	プリマウス—玖馬		月回		同	貨物船

△ 印度濠洲南洋航路

ロイド、サバンダ
佛日支共資
坡寧公司
米國船船院
東洋汽船
ロイド、サボウド
ユイゴースチンネス

粟林汽船
北日本汽船
朝鮮郵船
日清汽船
天華洋行
山下汽船

△近海航路

東印度—濠洲	西貢—濠洲	新嘉坡—香港	北太平洋—馬尼刺	日本—瓜哇	セノア—濠洲	漢堡—東印度
大連—上海	神戶—上海	仁川—芝罘	宜昌—重慶	同	大阪—青島	大阪—群島
二	一	一	一	一	一	一
月二回	月二回	月二回	月二回	月二回	月二回	月二回
同	同	同	同	同	同	同
貨物船	貨物船	貨物船	貨物船	貨物船	貨物船	貨物船

□會社別經營航路內容

(十二年五月現在)

(航路) △日 本 郵 船 (回数)(使用船數)

歐 洲 線	二週一	一	橫濱、神戶、門司、上海、香港、新嘉坡、 ※馬粒加、※彼南、古倫母、蘇士、 坡西土、馬耳塞、倫敦、安土府、密土府
季 浦 線	四週一	六	蘇士、坡西土、馬耳塞、 リバプール、古倫母、新嘉坡、橫濱、神戶、門司、 上海、香港(大連其他ニ寄港スルコトアリ)
漢 堡 線	四週一	六	橫濱、神戶、大連、上海、香港、瓜哇、 新嘉坡、古倫母、蘇士、坡西土、倫敦、 ロッテルダム、ハンバーク
シ ア ト ル 線	約三週二	八	香港、馬尼刺、(各航往航又ハ復航ニ時々寄港)上海、長崎、神戶、 ※四日市、橫濱、ビクトリア、又ハ晚香港、シヤトル(製茶期節ニ限リ基隆、清水寄港)
南 米 線	隔月一	三	橫濱、神戶、門司、香港、新嘉坡、南阿諸港、 南米サントス、リオデジャネ、イロ、 ベノスアイレス(復航北米又ハ歐洲諸港ニ廻港スルコトアリ)
紐 育 線	每月一	六	橫濱、神戶、門司、香港、馬尼刺、瓜哇、 新嘉坡、古倫母、蘇士、坡西土、 チール、紐育(復航寄港地ハ臨時ニ定ム)
濠 洲 線	每月一	三	神戶、門司、上海、橫濱、四日市、 室蘭、桑港、巴奈馬、コロシ、 ハバナ、紐育(復港寄港地ハ臨時ニ定ム)
孟 買 線	每月一	六	橫濱、神戶、長崎、香港、馬尼刺、 ザンボアング、木曜島、 タウンズヴヰル、(横濱、名古屋、大阪、 神戶、門司、香港、新嘉坡、 古倫母、孟買、(復航、古倫母又ハ中竹林、 上海及四日市(モ寄港ス))

△印は航海に依り途中寄港地を異にす
※印は往航のみ寄港地

甲 谷 陀 線 二週一 六 △(神戸、横濱、※門司、※名古屋、※大阪、香港、新嘉坡、彼南、蘭貢、甲谷陀、
 瓜哇 日本 甲 谷 陀 線 毎月一 四 △横濱、名古屋、大阪、神戸、門司、バタダヅ井ヤ、サマラン、スラバヤ、甲谷陀
 甲 谷 陀 南 米 線 臨時發航 △(甲谷陀、南阿諸港經由、南米ベノスアイレス(復航歐洲紐育經由、日本ニ
 甲 谷 陀 紐 育 線 毎月一 六 △甲谷陀、古倫母、蘇士、坡西土、紐育(復港地中海巴奈馬經由日本へ歸
 南 洋 線 東 航 毎月一 一 横濱、横須賀、門司、二見、サイバン、ロタ、トラツク、クサイ、ヤルト、
 神 戸 上 海 線 毎週二 四 横濱、横須賀、門司、二見、サイバン、トラツク、ヤツプ、バラオ、ア
 大 阪 上 海 線 一週三 三 横濱、神戸、門司、長崎、上海(内一隻ハ往復航門司寄航ニ代ヘ名古屋寄港)
 横 濱 上 海 線 毎月一 一 大阪、神戸、門司、漢口
 大 阪 漢 口 線 一週二 二 長崎、上海間
 長 崎 上 海 線 毎月二 一 大阪、神戸、宇品、門司、青島
 青 島 上 海 線 毎月二 一

△近海郵船

横 濱 北 支 那 線 毎月三 三 (横濱※四日市又ハ名古屋、大阪、長崎、※仁川、大連、※天津、牛莊(冬期
 大 阪 天 津 線(冬 航 期) 毎 五 日 目 三 大 阪、神 戸、門 司、天 津
 大 阪 牛 莊 線(冬 航 期) 毎 六 日 目 二 大 阪、神 戸、大 連、牛 莊
 基 隆 線 毎月六 三 神 戸、門 司、基 隆
 横 濱 高 雄 線 約 十 日 目 三 △横濱、大阪、神戸、門司、基隆、安平、高雄
 小 笠 原 線 (毎月一) 一 (横濱、八丈島、父島、母島、沖港、(母島北港二年八回、北硫黄島中硫黄島
 東 廻 線 毎月八 一〇 神 戸、大 阪、横 濱、函 館、小 樽 (二年四回、青ヶ島、鳥島二年一回寄港)
 横 濱 樺 太 線 毎月二又三 一 横濱、函館、小樽、大泊
 函 館 樺 太 線(冬 航 期) 毎 月 六 二 函 館、小 樽、大 泊、真 岡(本 斗ヘ夏 期 毎 月 二 回 寄 港)
 小 樽 真 岡 線 毎月六 二 小 樽、大 泊、真 岡

函館樺提線(冬期) 釧路止) 每月三 一△函館、釧路、根室、乳吞路、斜古丹、内保、留別、別飛、菱取、紗那

函館網走線(冬期) 根室止) 每月三 一△函館、釧路、厚岸、霧多布、根室、羅臼、斜里、網走

函館千島線 夏季四 一△(函館、根室、摺鉢、奥、四ツ岩「ルエサン」千歳灣、村上岬、(又ハ中川灣) 鯨灣、城ヶ崎、根室)

△大阪商船

△歐洲航路

日本歐洲線 四週一 七 (往航神戸、横濱、大連、上海、香港、新嘉坡、古倫母、蘇士、坡西土、馬耳塞、倫敦、安土府、ロツテルダム、漢堡、復航漢堡、ロツテルダム、安土府、坡西土、蘇士、新嘉坡、香港、上海、大連、門司、神戸、横濱)

△亞米利加航路

サビユーゼット線(北米) 二週一 六 (往航、香港、上海、大連、神戸、四日市、清水、横濱、ビクトリア、シアトル、ル、タコマ、復航) タコマ、シアトル、ビクトリア、横濱、神戸、門司、長崎、上海、マニラ、香港)

南米線 年一〇 六 (往航神戸、四日市、横濱、長崎、香港、西貢、新嘉坡、古倫母、ダーバン、ケ

甲谷 年七 三 (往航甲谷、古倫母、坡西土、サンチャゴ、シンエゴ、ハバナ、ニュー

紐育線 每月一 七 (往航ガルベストン、新嘉坡、香港、上海、大連、神戸、四日市、横濱、桑港、

孟買線 每月二 六 (往航横濱、四日市、大阪、神戸、門司、香港、新嘉坡、古倫母、孟買、

日本瓜哇甲谷陀線 每月一 五 (復航孟買、新嘉坡、門司、神戸、大阪、四日市、横濱)

日本甲谷陀線 每月一 三 (横濱、名古屋、大阪、神戸、門司、香港、上海、瓜哇、新嘉坡、蘭貢、甲谷陀

濠洲線 每月一 三 (往航横濱、名古屋、大阪、神戸、門司、島尼刺、シドニー、メルボルン、復航メルボルン、シドニー、ニユカッスル、アリスベン、馬尼刺、横濱)

高雄	基隆	福州	天津	青島	大連	神戶	橫濱	臺灣	沿岸	南	基隆	瓜哇
廣東	香港	廈門	福州	天津	青島	大連	神戶	橫濱	臺灣	南	基隆	瓜哇
東線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線
二週一	每週一	每月二	每月二	每月二	每週二	每週二	每週一	每月四	每月六	每月一	每月一	三週一
一	二	一	三	一	四	路	二	四	二	二	三	路

高雄、基隆、福州、上海、青島、大連、天津
 敦賀、浦鹽
 小樽、浦鹽
 小樽、浦鹽、七尾、伏木、新潟、夷、函館、青森、小樽
 大阪、神戶、門司(下關)木浦、群山、仁川、鎮南浦、安東縣
 大阪、神戶、宇品、門司、釜山、元山、城津、清津、雄基
 橫濱、名古屋、大阪、神戶、鹿兒島、那霸
 那霸、宮古、八重山、西表、基隆
 大阪、神戶、油津、名瀨、那霸、鹿兒島
 鹿兒島、大島、那霸
 鹿兒島、名瀨、喜界島、古仁屋、徳ノ島、沖永良部島
 神戶、高濱、土々呂、內海、油津、福島、波見、鹿兒島

高雄	浦鹽	浦鹽	浦鹽	大阪	大阪	大阪	橫濱	那霸	大阪	鹿兒島	大島	大阪
天津	直航	直航	直航	清津	南鮮	南鮮	沖繩	沖繩	沖繩	那霸	各島	鹿兒島
線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線
每月三	每週一	每週一	每週一	每月三	每月三	每月三	每月四	每月五	每月五	每月十	每月八	隔日一
三	一	一	一	二	五	二	三	二	三	二	二	三

高雄、基隆、福州、上海、青島、大連、天津
 敦賀、浦鹽
 小樽、浦鹽
 小樽、浦鹽、七尾、伏木、新潟、夷、函館、青森、小樽
 大阪、神戶、門司(下關)木浦、群山、仁川、鎮南浦、安東縣
 大阪、神戶、宇品、門司、釜山、元山、城津、清津、雄基
 橫濱、名古屋、大阪、神戶、鹿兒島、那霸
 那霸、宮古、八重山、西表、基隆
 大阪、神戶、油津、名瀨、那霸、鹿兒島
 鹿兒島、大島、那霸
 鹿兒島、名瀨、喜界島、古仁屋、徳ノ島、沖永良部島
 神戶、高濱、土々呂、內海、油津、福島、波見、鹿兒島

大阪山陽線	每日	四	大阪、神戸、四國及山陽各港經由門司、下關
尾道別府線	隔日	一	尾道、別府、大分
四國大阪門司線	〔甲〕便每奇數日 〔乙〕便每偶數日	一、二	大阪、神戸、四國各港經由門司、若松 大阪、神戸、四國各港經由門司
大阪別府線	每週三	一	神戸、高松、高濱、大分、別府
大阪細島線	每日一	五	大阪、神戸、四國各港經由細島
大阪四國線	每日一	五	大阪、神戸、四國九州各港經由宇和島、宿毛
大阪高知線	每日一	二	大阪、神戸、高知
別府宇和島線	每日一	二	別府、宇和島
大阪德島線	每日一	三	大阪、神戸、小松島
大阪勝浦線	每日一	二	大阪、紀州各港經由勝浦
大阪名古屋線	每日一	五	大阪、神戸、紀、勢各港經由四日市、名古屋
北米航路桑港線	四週一	六	桑港、ホノルル、横濱、神戸、長崎、大連、上海、マニラ、香港間
南米航路四岸線	二日一	三	〔香港、マニラ、基隆、門司、神戸、横濱、布哇、桑港、羅府、巴奈馬、サリナク ルス、カイヤオ、イキケバル、パテイソ間〕

新嘉坡 桑港線 (臨時) 二
瓜哇 航路 月一回 一
新嘉坡、香港、日本諸港、布哇、桑港、巴奈馬、ハバナ、ニューオールドリアン
ス、紐育間
大阪、神戸、門司、大連、香港、バタバヤ、サマラン、スラバヤ間

△近海航路
元山長崎線(私)
朝鮮西岸線(東京、神戸、門司、釜山、群山、木浦間)
新義州阪神線(私)
青島大連線(私)
朝鮮北支那線(私)
清津敦賀線

△南沿岸航路
釜山水浦線(私)
釜山濟州島線
木浦濟州島(東、西廻)

△東沿岸航路
元山清津線(私)
釜山浦開州線
雄基門司(甲乙)線(令、私)
釜山鬱陵島
釜山元山線(私)

△西沿岸航路
木浦多島海線
仁川木浦線
仁川海川線
仁川鎮南浦線(私)

上海漢口線	三週一六又八	△日・清・汽・船
漢口宜昌線	二週九	三
漢口湘潭線	月八	二
漢口常德線	月二	一
南支那沿岸線	月三回	二
大阪漢口線	月一回	一
宜昌重慶線	月四回	二
青森室蘭線	月一回	二
樺太西海岸線	月三回	二
伏木、樺太、西海岸線	月三回	一
樺太東海岸線	月四回	二

大阪、神戸、門司、上海、漢口
宜昌、重慶間

(寄港地省畧)

青森室蘭往復(鐵道連絡)

小樽發、大泊、本斗、真岡、野田寒、泊居、久春内
 函館發、海馬島、本斗、真岡、野田寒、泊居、名寄、久春内、牛毛、萌菱、圓度
 小樽發、鶴城、惠須取、北名好、安別
 滑川、魚津、函館、小樽、大泊、本斗、真岡、關泊、野田寒、泊居、久春内
 大泊、寅内、野寒、榮濱、東白浦、元泊、敷香、散江、海豹島、函館、小樽

小樽大阪線	月四回	一
橫濱樺太線	月三回	一
函館ニコラエウスタ線	月二回	一
日本南洋三週一回	四	船
朝鮮線	一	二

函館、門司、神戸、大阪行
 函館、小樽、樺太西海岸各港行
 小樽、大泊、真岡、アレキサンドロフスク、ニコラエウスタ行

(神戸、門司、基隆、バタビヤ、サマラン、スラバヤ、サマラン、マカツサ、バ
 リク、ババン、香港、門司、神戸、横濱、神戸)

鹿兒島線 若津線 中國線 岡山線 播州線 藝豫線 宇品今治線 伊豫廻下關線 岡山高松線
 以上諸線は商船航線と大同小異に付詳細は省畧す

△太・洋・海・運

日本 濠洲 休航中 神戸、横濱、シドニー、メルボルン
 其他大連、上海、マニラ、瓜哇、甲谷陀、古倫母各港北米不定期船

日本北米線	月六回	一八	A 日本ポートランド間 B 日本ビウセツトランド間 C 日本ポートランド、ビウセツトサウンド間
濠洲東洋線	月二回	六	上海、香港、神戸、名古屋、横濱、フリスベントル、アデレード、メルボルン、シドニー、ニューカッスル、ブリスベン
小樽内地線	月三回	三	小樽、函館、横濱、伊勢灣、大阪、神戸間
天津内地線	月三回	二	横濱、大阪、神戸、門司、大連、天津間
青島内地線	月五回	五	横濱、大阪、神戸、門司、青島間
臺灣南支線(命令航路)	月二回	二	基隆、廈門、汕頭、香港、漢口、上海、海防
臺灣東支線	月五回	七	橫濱、名古屋、勝浦、大阪、神戸、宇品、門司、三角、基隆、安平、高雄
朝鮮内地線	月六回	四	東京、横濱、伊勢灣、大阪、神戸、門司、兼二浦、群山、仁川、鎮南浦、南浦
(其他東洋、南洋、濠洲、遠洋方面ニ不定期航路ヲ有ス)			
青島航路	△原田	汽船	大阪、神戸、宇品、門司、青島
K 青島航路	△國際	汽船	漢堡、ロツテルダム、ブレームン、安土府、坡士西
ベトロバプロフスク	△栗林	汽船	蘇士、新嘉坡、香港、基隆、上海、門司、神戸、横濱、
其他至蘭内地(三線)釧路内地、樺太内地及北海道上海航路を經營セリ			函館、小樽、ベトロバプロフスク

大連安東天津線	△大連	汽船	大阪商船大阪大連定期船接續
大連青島線	△大連	汽船	
青島上海線	△大連	汽船	
大連龍口線	△大連	汽船	
大連貔子高線	△大連	汽船	
青島阪神線	△三井	臨時	
大連北米線	△三井	船部	
日本濠洲北米線東洋歐洲線、東洋北米線、南米歐洲線、南米北米線、濠洲日本線、日本南洋線日本南米線、東洋玫瑰瑪線	△帝國	汽船	
大阪漢口線	△三菱	商船	神戸、門司、上海、漢口
△山下汽船鐵業			